

尾張名所圖會

後編

六





尾張名所圖會後編卷之六

目錄 丹羽郡

丹羽郡解	大縣神社	例祭	神領
神王家系	社僧	本官山	鞍ヶ淵跡
山姥の古事	福富新藏山姥を射る圖	入鹿大池	入鹿大池
入鹿大間	入鹿栲船の圖	入鹿屯倉跡	小弓郷
尾張富士	富士淺間社	富士三ツ池	寺洞石切の圖
善師野驛	鷲岩	箕岩	清水寺
禪徳寺	繼鹿尾山	座禪石眺望	栗栖地神社
栗栖山	木曾川	虫鹿神社	栗栖棧圖
白雲寺	槁瓜妖火	羽黒里	比良賀天神社
興禪寺	磨墨塚	羽黒川	羽黒古城
羽黒合戦	野呂塚	梶原城址	鳴海榎神社

嘉智部里	諸鑽神社	烏森天神社	永泉寺
樂田城跡	茶臼山	梶川弥三郎舊居	奈良志天神社
堀尾吉晴宅址	樂田夜陣の園	井出神社	八劔社
岩倉里	新溝古驛	虫藥保童散	神明大一宮
神明社	竜潭寺	山内對馬守一豊并妻室の説	生田橋
新溝證法寺	織田伊勢守城址	岩倉合戦	淺野里
青木川	吾鬘里	阿豆良神社	淺野里
淺野長政の傳	馬身塚	赤見國王天神社	大赤見城址
丹羽郷	爾波神社	宅美神社	浮野古戰場
阿具府神社	鹽道神社	重吉古城	立野神社
穂積舊郷	生駒氏宅址	碑銘塚	八大竜王社
埴原氏宅址	久昌寺	般若寺	常觀寺
稻置神社	搦栗御厨	削栗神社	徳法寺

上郡駒	觀音寺	神明社	瀬部竹箆
長幡寺	伊賀々原神社	高屋大杉	高屋御厨
八幡社	若宮八幡社	安良一ツ物	石枕里
小口神社	妙徳寺	小池氏宅址	徳林寺
前刀舊郷	前利神社	山名里	山那神社
竜泉寺	大豆途渡	頭宝寺	般若杵
上沼下沼	楯野天神社	託美神社	覺王寺
木津杵	犬山	尊海僧正山名里小宿園	
乾峯城	城主歴代	針綱神社	同祭禮の園
名産忍冬酒	名産葯蕪	刀器	常満寺
專念寺	鷄飼屋町	先聖寺	徳授寺
愛宕社	藥師寺	妙感寺	犬山焼陶器
花散澤	瑞泉寺	丈草道世故郷と去國	内田渡

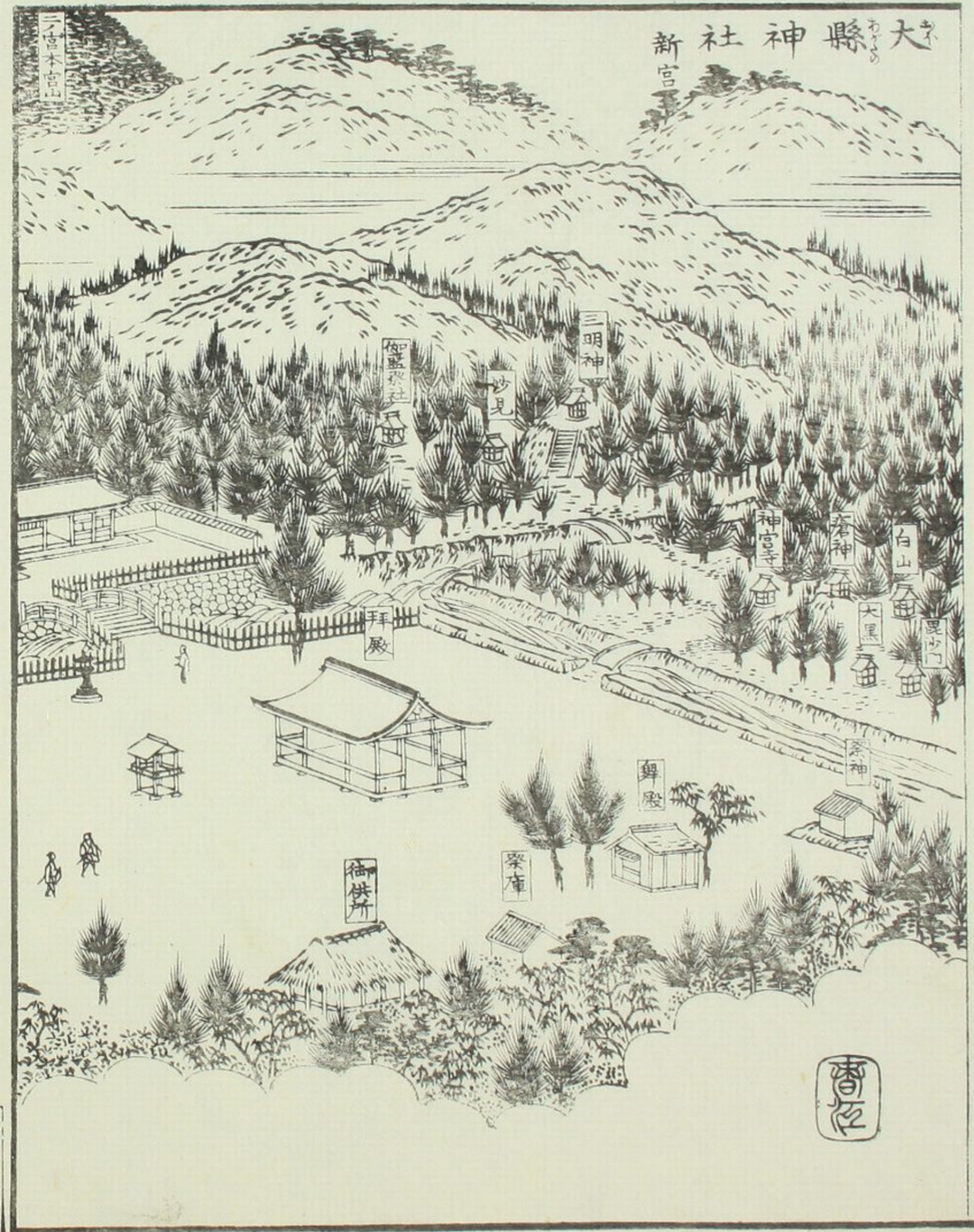
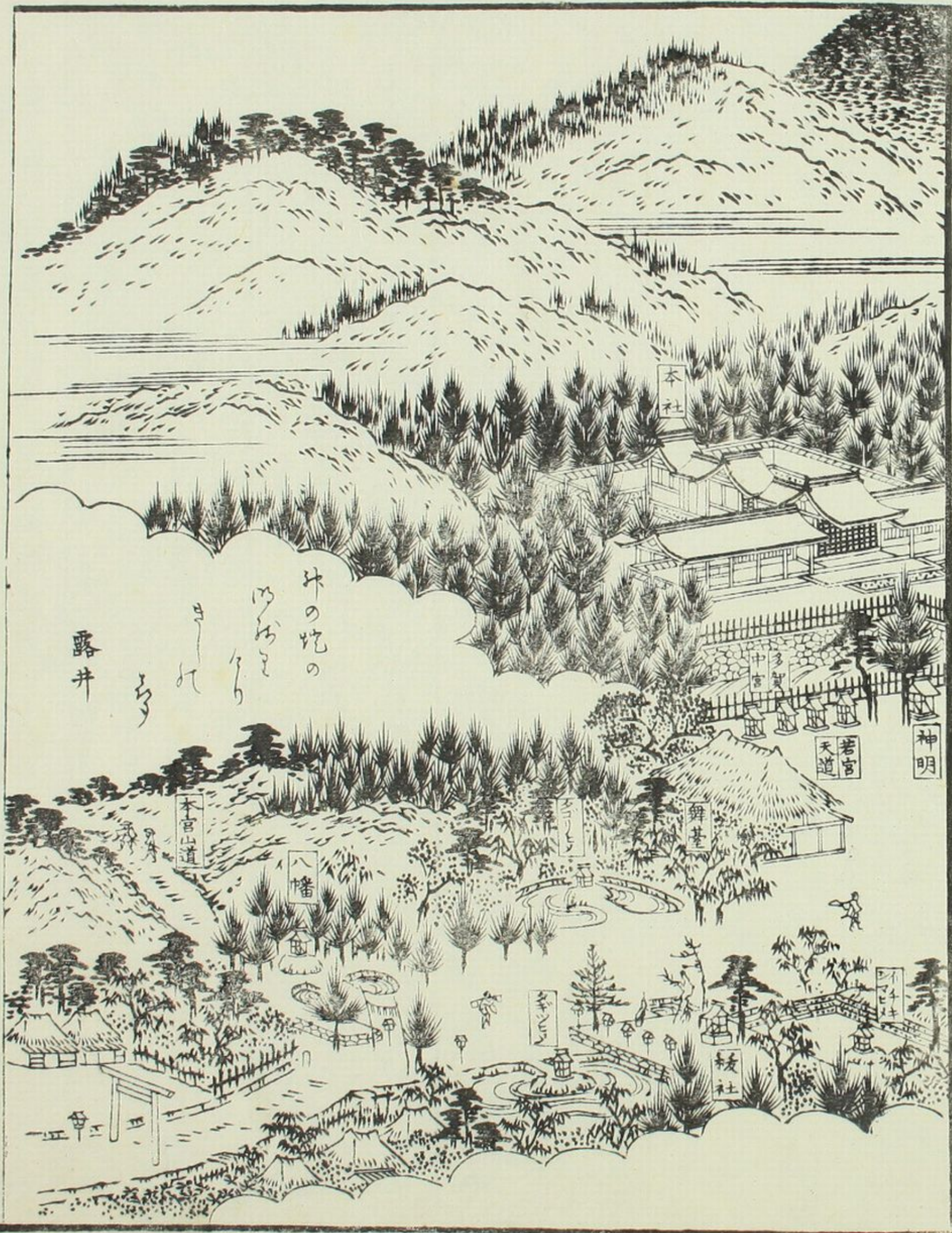
岐蘇川より犬山城と望図

犬山名義

丹羽郡

當郡ハ國のくら北のくあ地あり東ハ春日井郡西ハ中嶋郡粟  
栗郡と境く南ハ春日井中嶋の二郡く巨り北ハ木曾川と隔て美  
濃國の各務賀茂可兒の三郡く隣たり其内東北のくふ山連く西  
南ハ廣く田圃縦横く豊饒の地あり往古ハ波縣とひが和名抄  
小丹羽<sup>波</sup>とひが六國史延喜式等とより自餘の古書にも  
今の文字と用ひたり

大縣神社<sup>ニノ宮村あり俗小</sup>延喜神名式に大縣神社<sup>大神</sup>とん本國帳<sup>小正</sup>  
一位大縣大名神と志あり垂仁天皇廿七年の御鎮座して天武  
天皇朱鳥元年勅して再建く清和天皇貞觀元年御修理の  
其後星霜と経て永正元年田録<sup>小</sup>の鳥有とを同十五年  
織田彈正左馬平久長再建くや奮貫く復く然りより神威  
昭く諸人の崇敬他<sup>小</sup>異の官社より



續日本後紀曰養和十四年十一月癸亥朔癸酉奉授尾張國无位大縣天神從五位下  
文德實錄曰仁壽元年十一月辛巳詔以尾張國大縣神列於官社同三年五月辛亥尾張國无位  
神從四位下大縣神授從四位下

三代實錄曰貞觀元年二月十七日癸卯授尾張國從四位下大縣神從四位上同月十九日乙巳遣正  
五位下守右中辨兼行式部少輔大枝朝臣音人向尾張國大縣神社奉神位記財室同十五年八月  
十三日乙巳授尾張國從四位上大縣神正四位下

**本社** 祭神國狹穗尊活目入彦五十狹葉天皇 瑞籬迴廊祭文殿拜殿舞殿御供所  
國常立尊豐斟尊等と合祀せり

**御井祭庫鳥居**

**別宮三名神社** 本社の東山上より祭神豊斟尊本國帳小正位三名神と見たり同書より  
從三位田宮天神とありも尚社の撰社より中世廢して旧址の存せり

**末社神明社** 本社の西より祭神天照皇大神宮 **戸坂若宮社** 同所より祭神景行天皇 **多賀社** 同所より祭神伊弉  
册 **中宮社** 同所より祭神天御中主尊 **辨財天四社** 同所西の **毘沙門社** 本社の東  
より **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

所 **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

所 **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

所 **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

所 **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

所 **白山社** 同所より祭神倉稻魂命 **瘡神社** 同所より祭神 **神宮寺社** 同所より **妙見社** 同

**神領** 大減少一慶長五年元和八年延宝二年等 國君より追この神ありて今於

**例祭** 八月朔日兎山一輛人形山三輛と出次九月九日流鏑馬并管籥ホあり尚社ハ古より大  
社なりて年中のなまそ多し中に田代多清後鳥食神事祈年祭新嘗祭大和  
舞鎮座祭奏樂傘廻一等あり大祭あり今悉く  
廢絶して近村小供ひの旧号あり字のせり

**神主** 小左衛門尉尾張俊村假名重松分一兼寺保三十七丁六段云とあり其松氏より其外祠  
官成時氏元方氏稻吉氏常吉氏等授十家神官中鴈神樂座神子授人あり

**社僧** 小西山真長寺とつひてまゝ家美濃國可見郡魚山村清竜寺の末より

**本宮山** 大縣神社のちち社より北にありて真神山真靈山  
二官山とも二ノ宮の名とせり

**本宮** 大縣神社の本宮として山の  
頂上ありて祭神國狹穗尊

**末社雨宮社** 同所より祭神  
天照皇大神宮

**風宮社** 同所より祭神  
伊弉册尊

**西官社** 同所より祭神  
天照皇大神宮

**熊野社** 同所より祭神  
伊弉册尊

**神領** 大減少一慶長五年元和八年延宝二年等 國君より追この神ありて今於

**例祭** 八月朔日兎山一輛人形山三輛と出次九月九日流鏑馬并管籥ホあり尚社ハ古より大

**神主** 小左衛門尉尾張俊村假名重松分一兼寺保三十七丁六段云とあり其松氏より其外祠

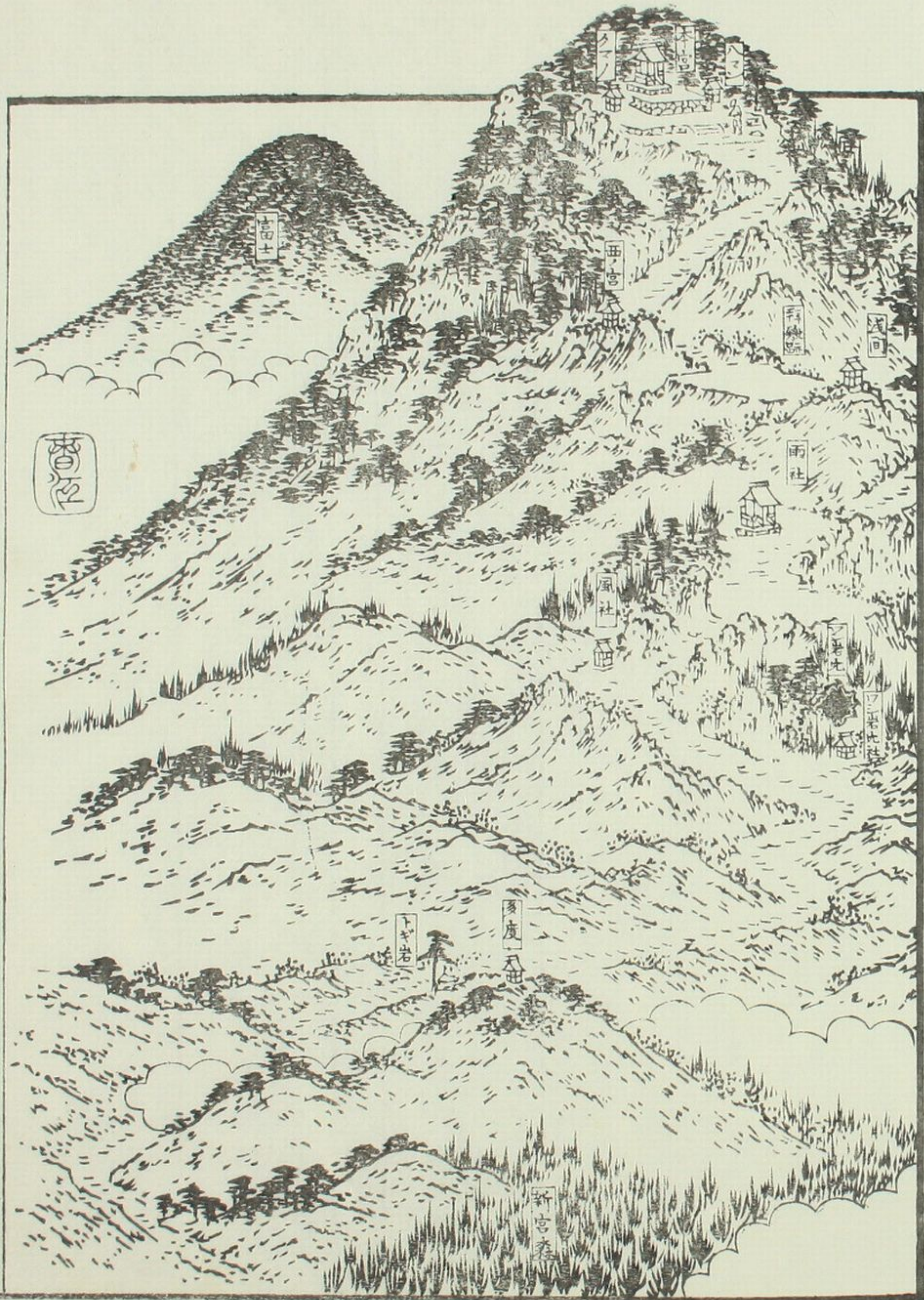
**社僧** 小西山真長寺とつひてまゝ家美濃國可見郡魚山村清竜寺の末より

**本宮山** 大縣神社のちち社より北にありて真神山真靈山  
二官山とも二ノ宮の名とせり

**本宮** 大縣神社の本宮として山の  
頂上ありて祭神國狹穗尊

**末社雨宮社** 同所より祭神  
天照皇大神宮

**風宮社** 同所より祭神  
伊弉册尊



香

本宮山

新川 登二官山  
 懸梯扶杖上幽徑  
 采芝行石在知磨劍雲  
 飛忽展旌幟鞭雷取  
 走肅駕雨師迎半壁  
 臨神野中峰揖郡城  
 流霞時可挹異井總  
 難名步驟探佳境呼  
 嘔接太清彩虹屏裡  
 見藍水鏡中平欲到  
 仙人掌儵然覺體輕

挺之



白集

山  
 山  
 山



八幡社 同所にあり 浅間社 同所にあり 一之王子社 丸山にあり

舞殿王子社 同の山にあり 高社 高根山にあり 多度社 高根山の南にあり

等々 里民年の祭りとて 研石 山の北にあり 杖石 雨宮社の前ニテあり 潮井 雨宮にあり

拜殿跡 礎石ニテあり 風穴 化頂より東南にあり

鞍ヶ淵跡 本宮山の麓にあり 黒川 黒川の北裏にあり

山姥古事 びり 当郡と

小中武士多く

國卒と

くは月小

黒川小

富土本宮

谷と

求む

廉猪

腰

元

犬と

大女

水源

中指

放

山

忙然

や

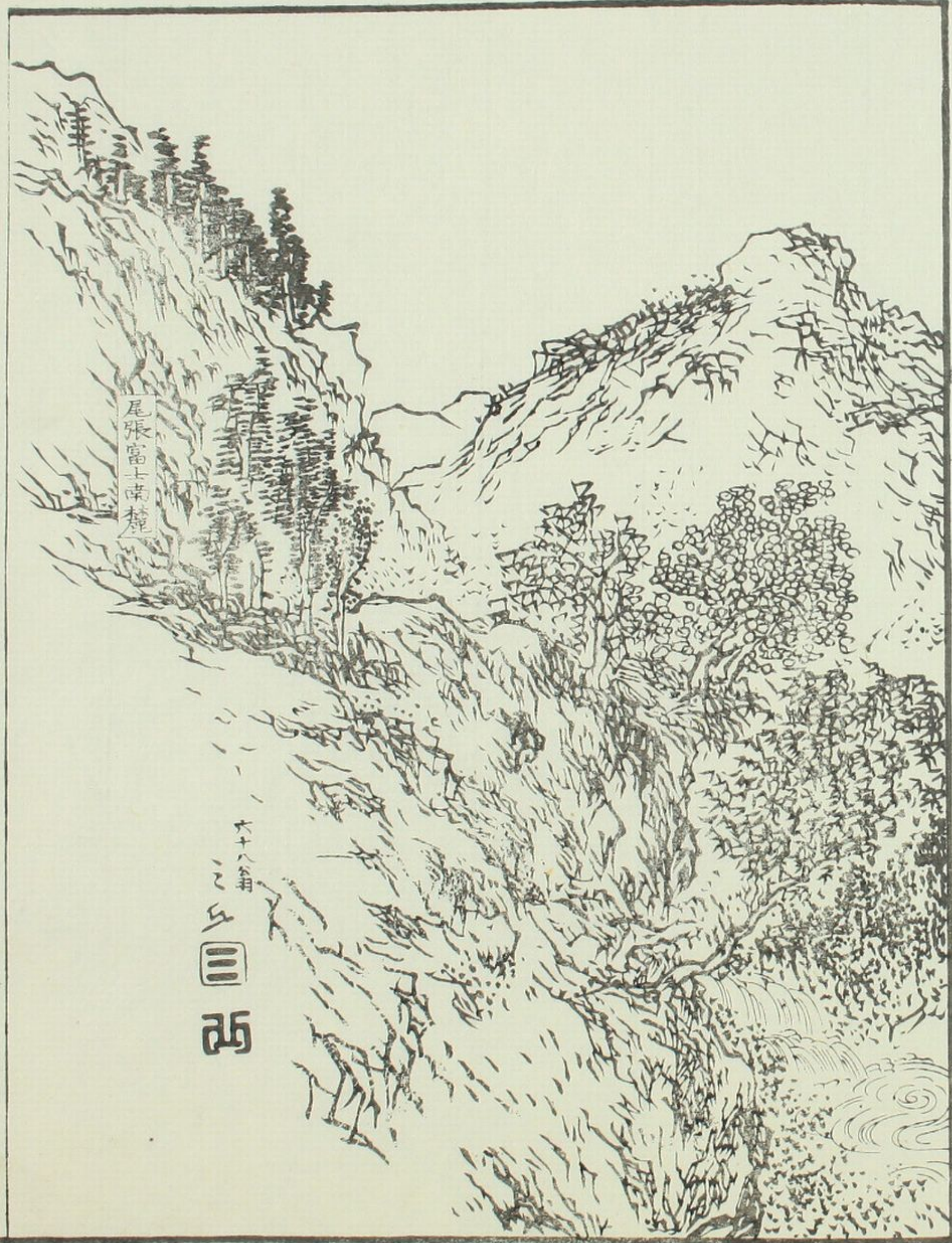
園

血

流

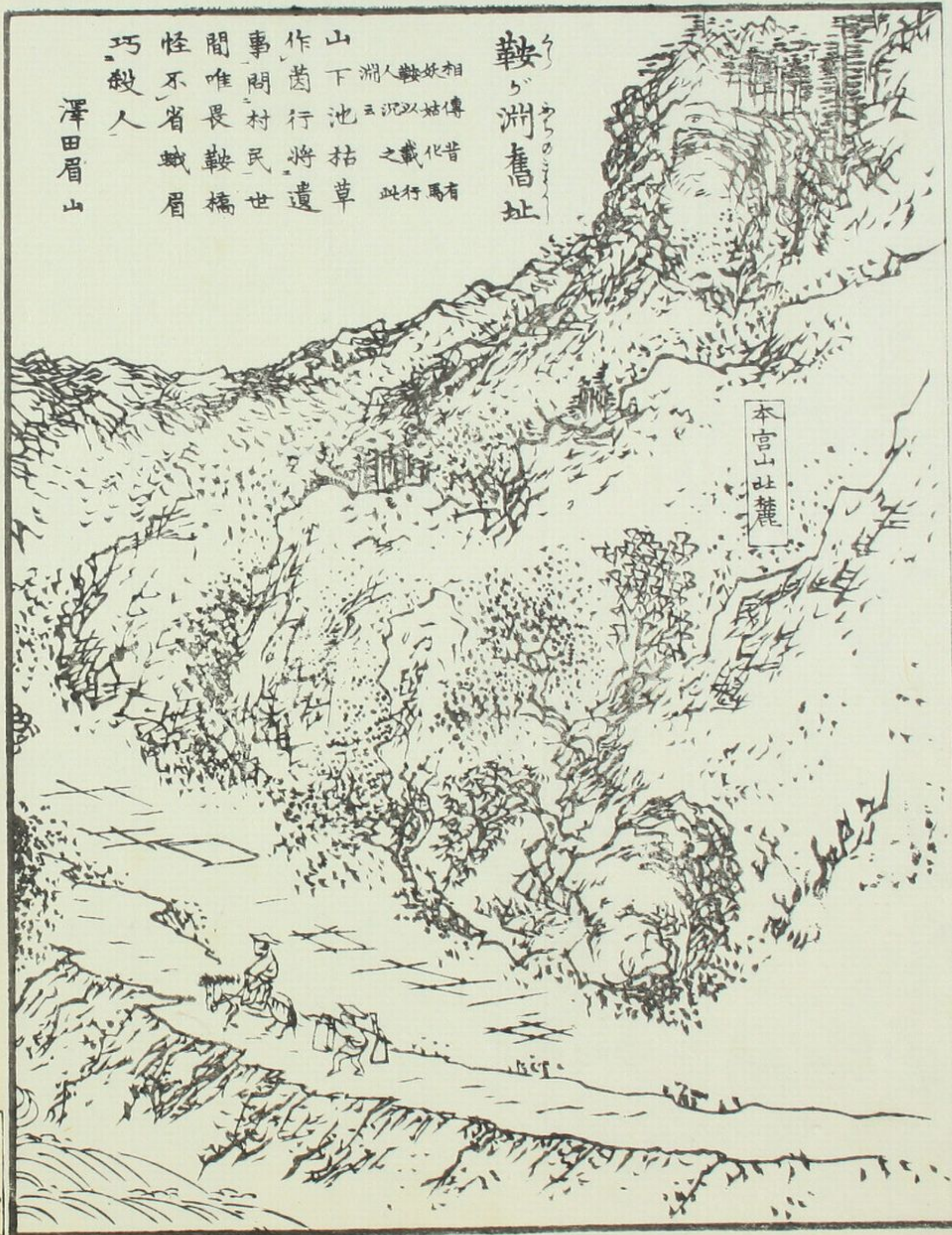
汗

子



尾張富士南麓

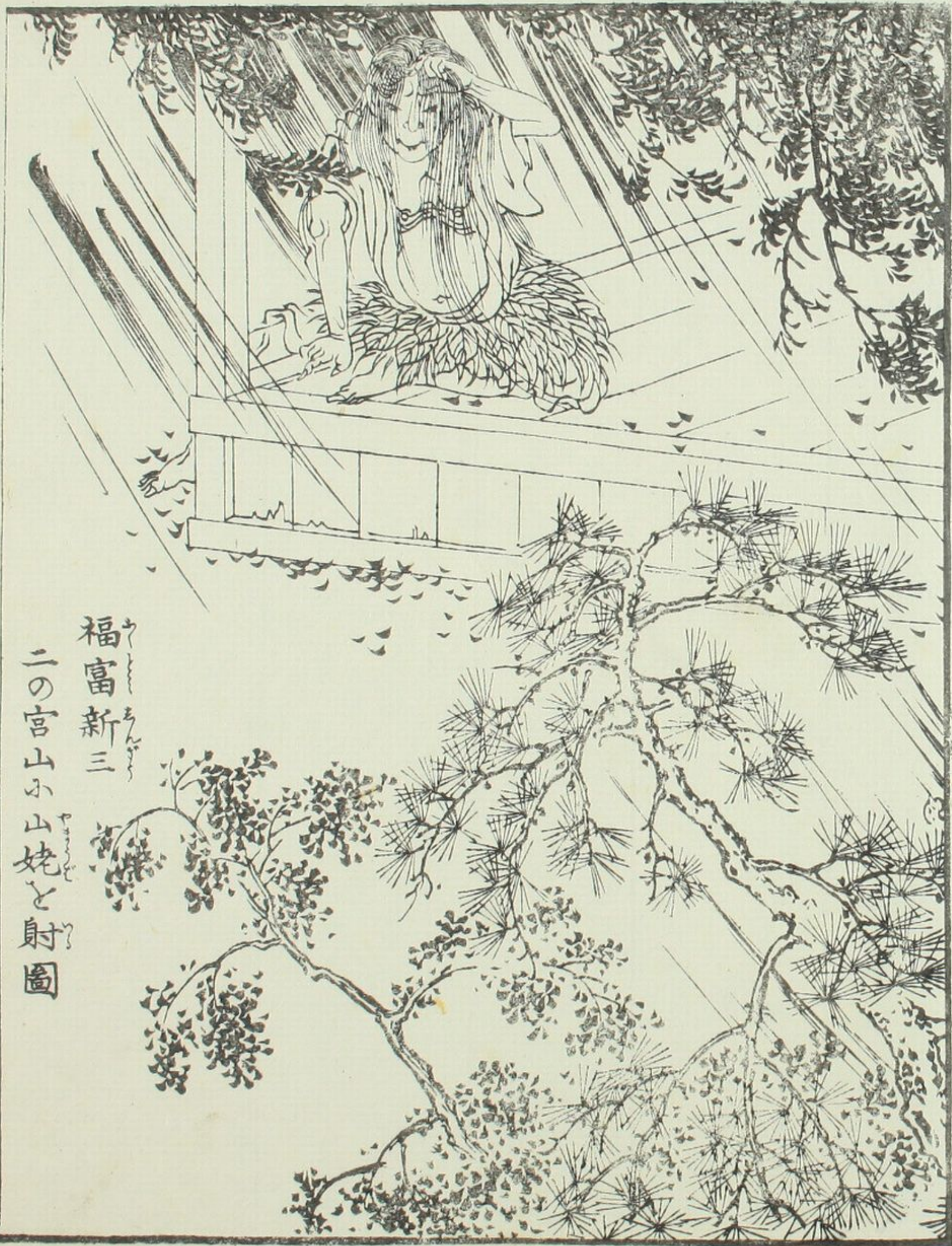
六十八番  
三  
西



本宮山吐麓

鞍が洲舊址

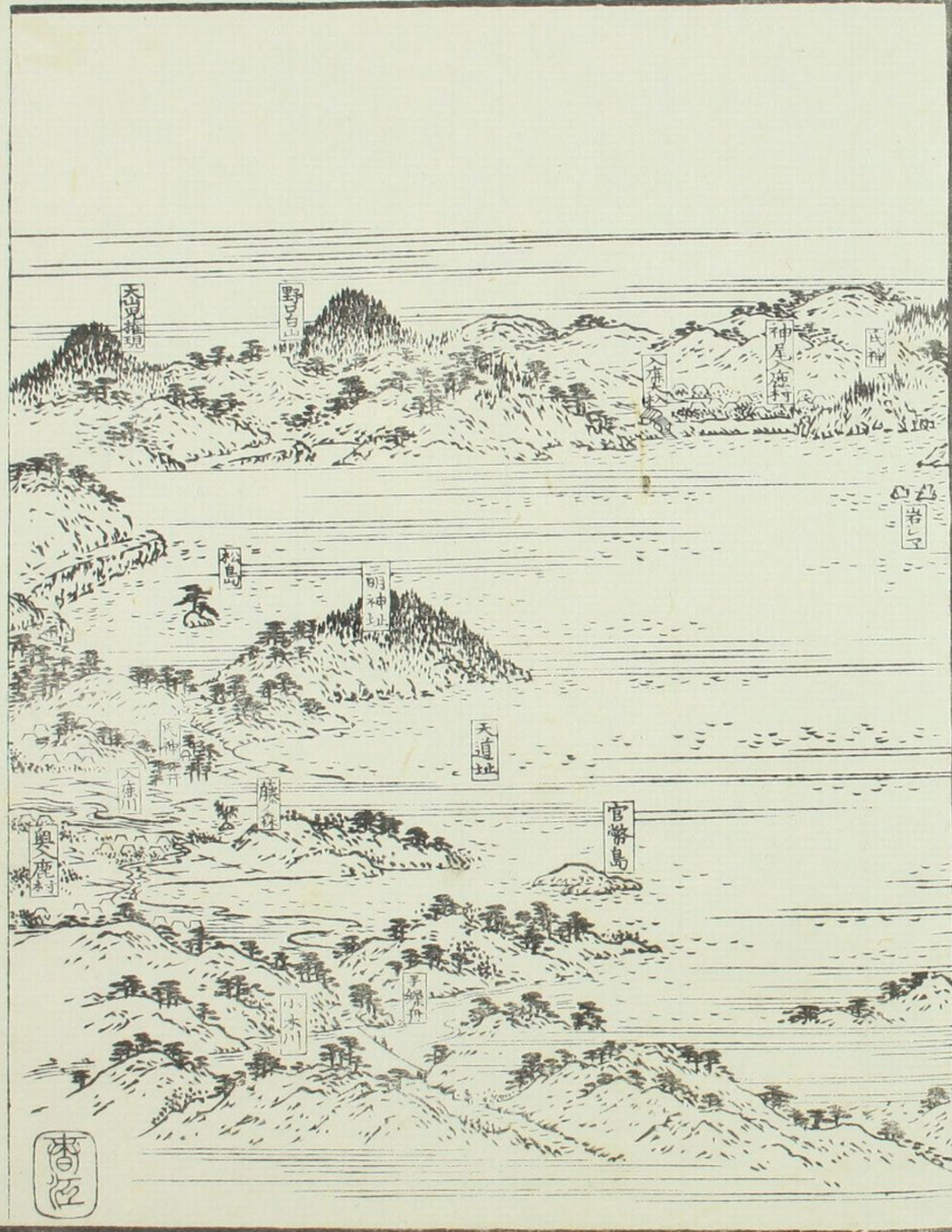
相傳昔有  
鞍以化馬  
人沉此  
洲三之  
山下池枯草  
作茵行將遺  
事問村民世  
間唯畏鞍橋  
怪不省城眉  
巧殺人  
澤田眉山



福富新三  
二の宮山やまの山姥やまばなと射や圖



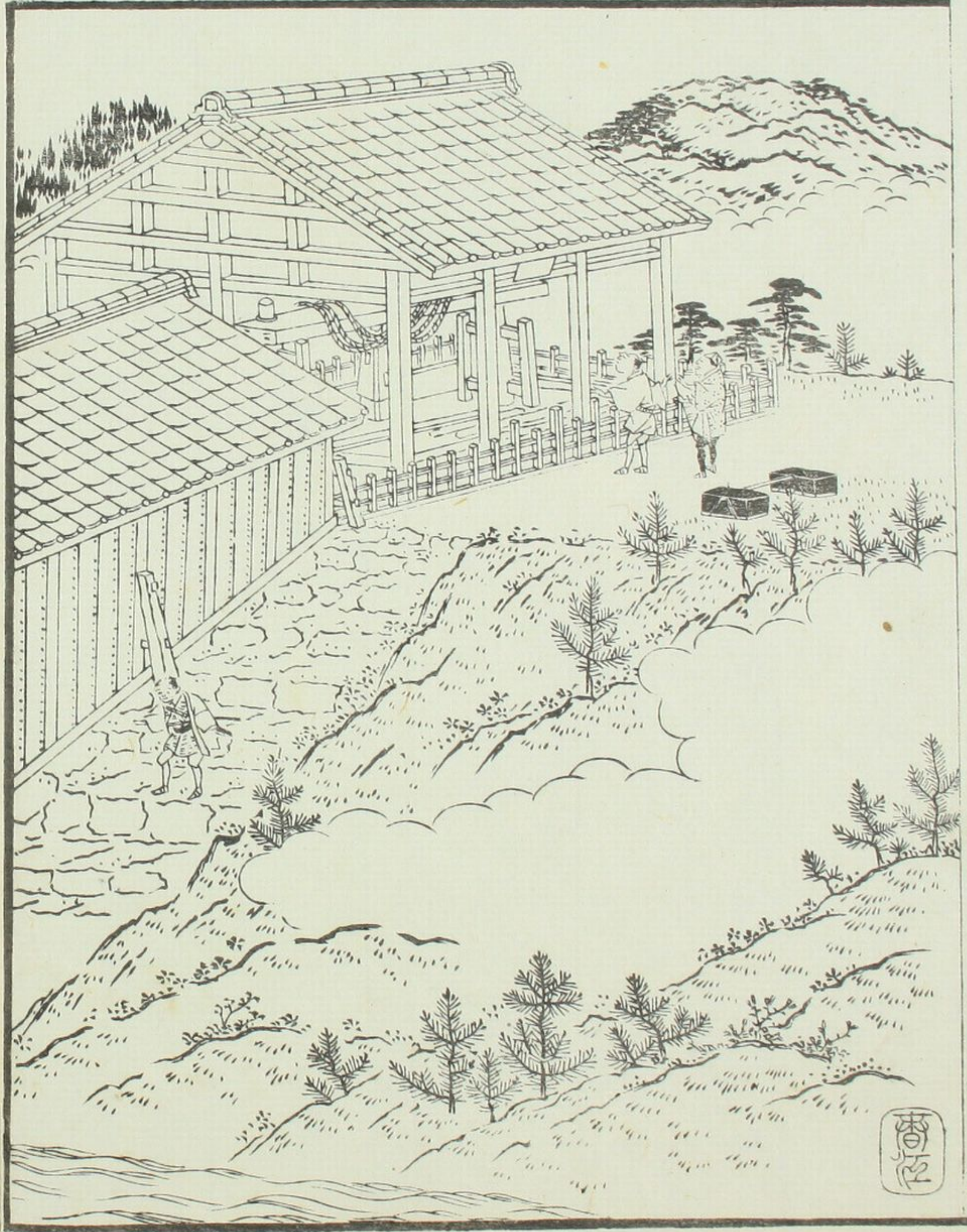
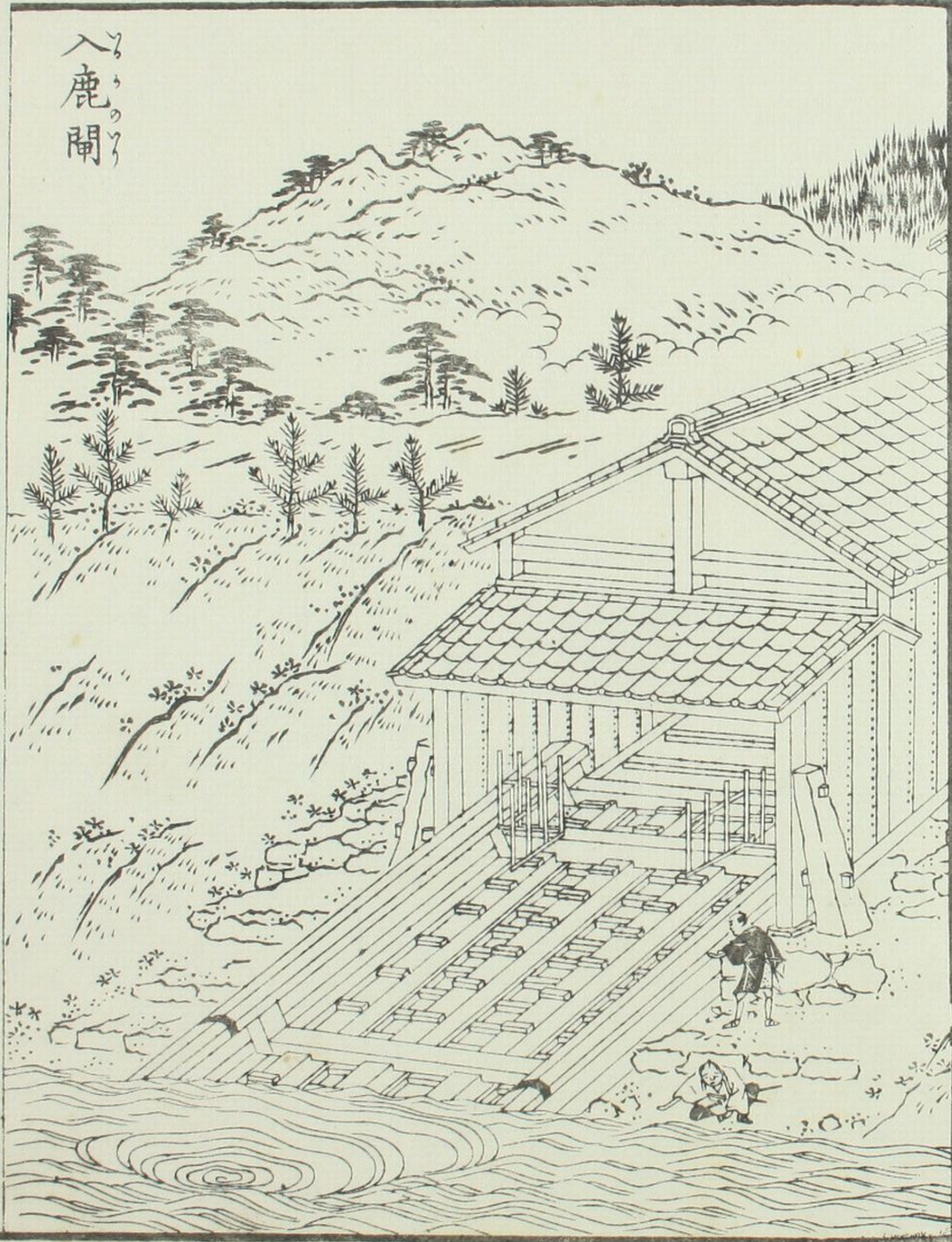




入鹿大池

縦横三里許  
此地冠一州  
久旱終無涸  
引得幾村秋  
香實

入鹿の間



印



林の  
 けしき  
 たぐり  
 船  
 五条坊



入鹿  
 の  
 たぐり  
 船



うろく又堤河内国より名わ。傭夫と招き尾張富士の麓のたど  
取て築きしむ。則は堤と河内堤と云

山多れ とものおれ 國人乃 ちあけまふ さく人の

かろくふ 梓弓 づろの池 志度く小 くらみきて

まーろく 白浪きく 尾法田の 小田れい町 八百多町

ちろくちて 小町の 弁ぬみちね 小集積の づろ極小

ツヤさく由 さくちぢくじ ちれのみ 池のちれそ

みきとく 足あけぬりけの ちれふ ちり池と

山多れ 尾法田の ちろくちて づろ池と

名ふれよは池 初言ふたのときく 梓弓の池と云ふるも 川村秋輔

入鹿大松 他の南方并尾形四にあり 池水と南郡 及び春日井郡小引にて四圍の堰水とす 比松廿小松 製せ作さく少す

大造たきううのの言ごん法ほ小こ述じゆぐぐ長十八間横五十四間うらの幅二間餘高

二間餘十三扉とあけけを轆轤ろくろとて其扉とよす俗小戸十三の扉

とわれれ其水國中ちん小こ充滿みんすといり堤の潤うる七十五間東西九十

三間あり廿人無双の杜観たんとす寛永十年酉二月池と同日小製せい造ぞう

して國中ちん唯一の大松なり

入鹿屯倉跡 今其所定うううで仕古あ初の公税と纏る 倉庫のあり 地屯倉 諸国ともにあつて今の郷倉と云物小同 日本書紀小廣国押武

金日天皇二年 夏五月丙午朔甲寅置 尾張国間敷屯倉入鹿屯倉と云なり

小弓郷 安樂寺村羽黒村ホの諸村いり一の小弓郷と和名抄小丹羽郡小弓と云く 延喜兵部式の諸國器仗のうら小尾張國弓四十張 征箭五十具と云て其頃までし

弓と朝廷てい一秋あき一古こ平へい小こ瀬せ一ををのの今いまもも其その地ち也やははををあり

小橋こ丸まる村むらまま其その旧ふる名なのの跡あと也やなり

夫木 をよめるのの橋はしとといいははししのの約やく 隆源法師

尾張富士 富士村小引と本官山の對 して俗に小富士ともいり 孤峯最高く遠くは駿河の士峯と

中ちゆうとと近ちかくく入鹿の大池と見下し尾三濃信の連山一瞬しゆん小つことと風

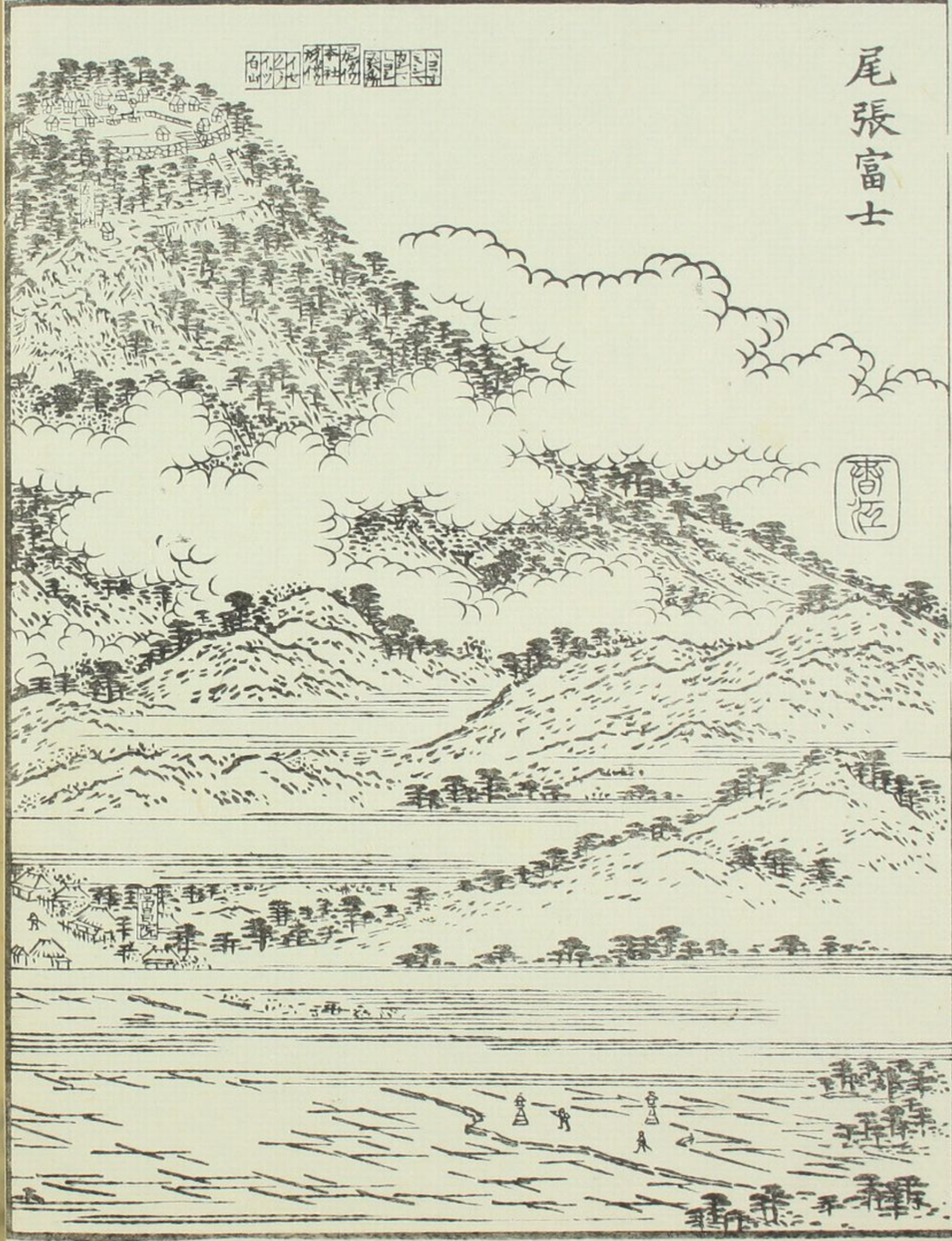
小弓とをいふと六月讀神と月事神とが例小同い け分のちのちの約はううの約、今ハあうがうい



尾張富士

白川 尾張 尾張 尾張 尾張

香



大あぢや

少あぢのい

人あぢの

いあぢの

あぢの

道直

まぢの名も

まぢの

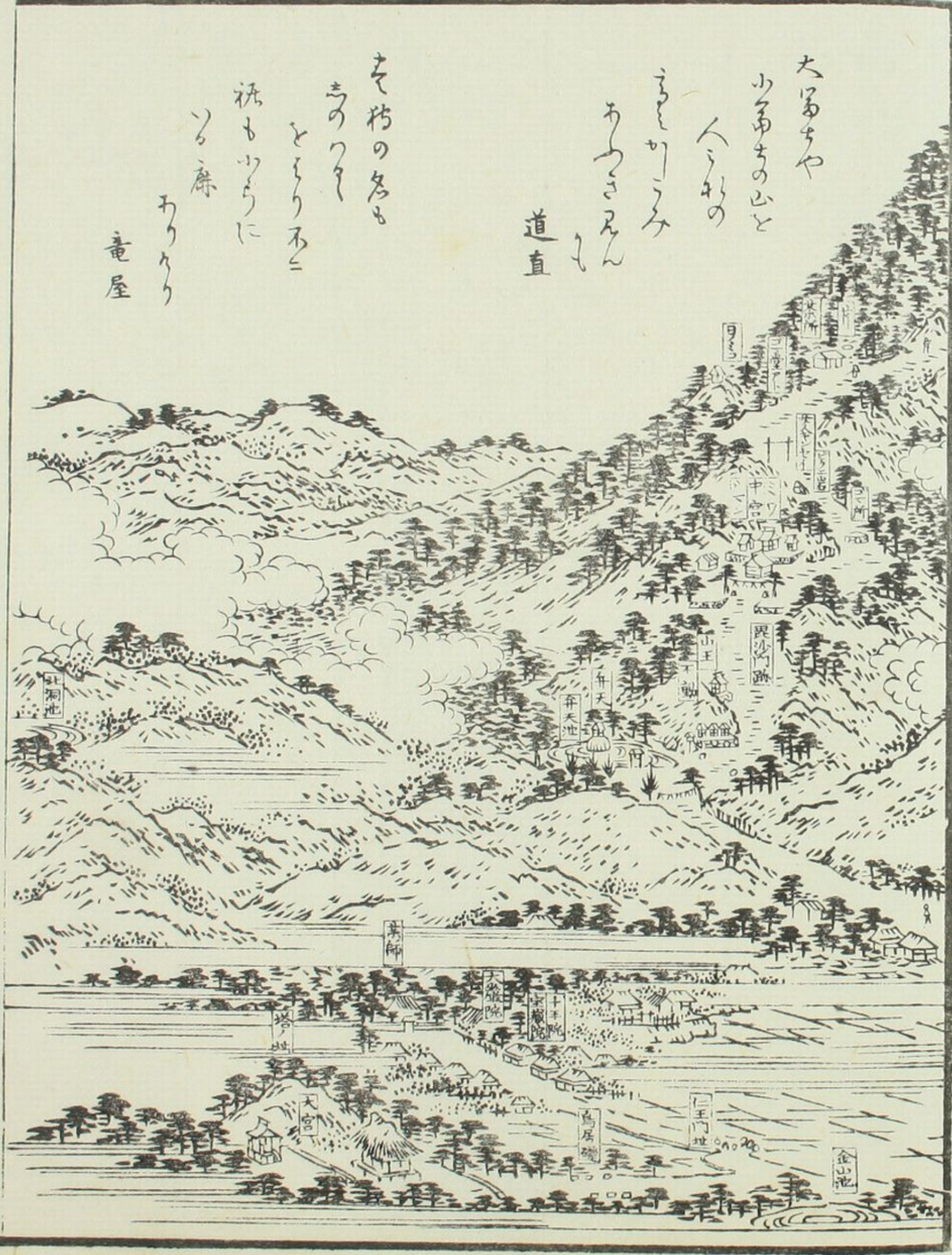
まぢの

まぢの

まぢの

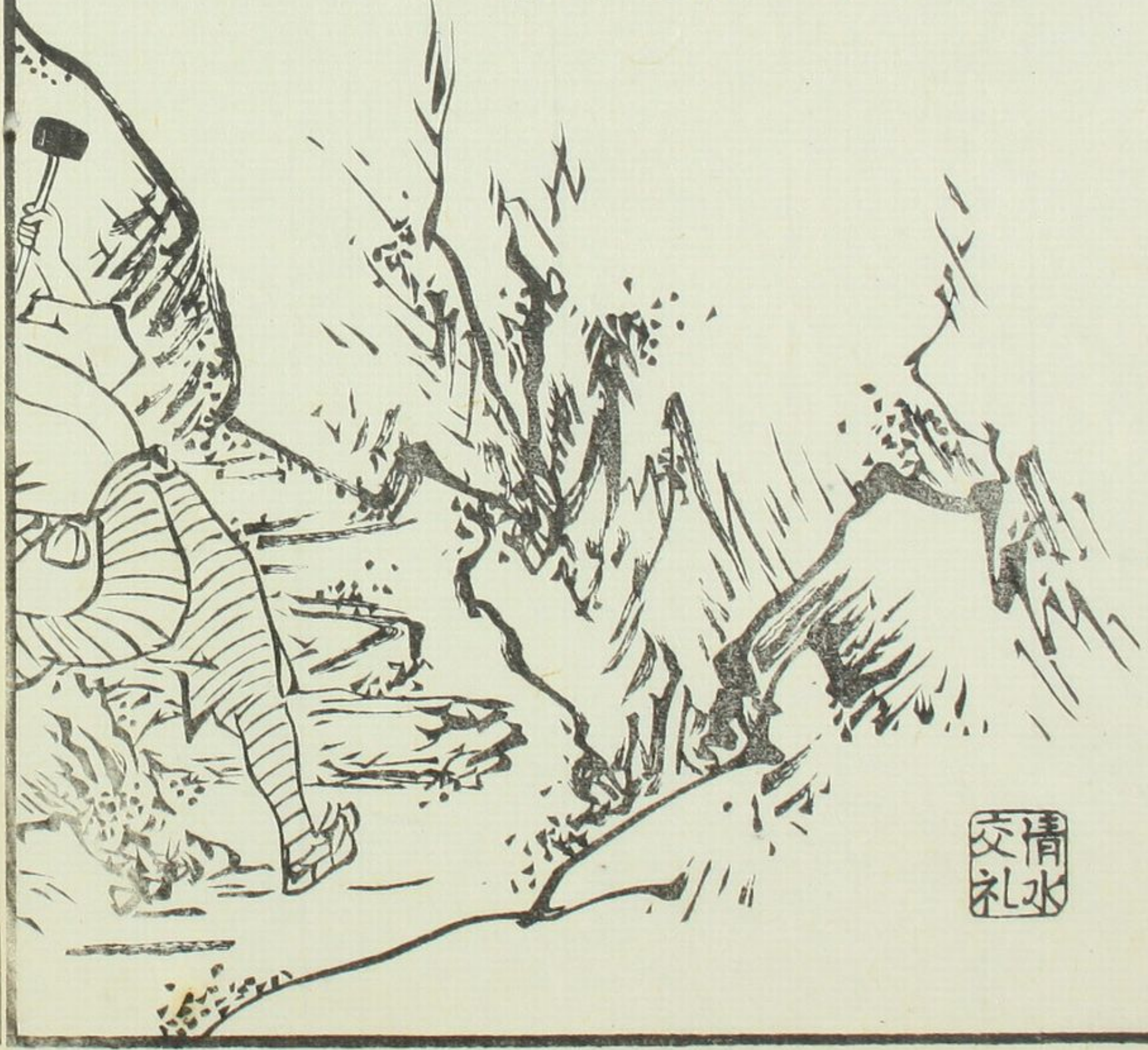
まぢの

まぢの



竈石切

長沙寺洞の山産する石  
其質わらわらして器物小製する  
小匠一々れは山の里人石工と業  
とする者多くあつて常山小入  
石燈籠いすゞ手水鉢てみづ其餘その他の細工  
とてききこみお供まじり山の  
谷川やがわの木の葉石はなは石路いしぢの者  
殊ことに多きをせり



清水  
交礼



光無双の佳境あり凡擬富士ハ諸ふありとども皆其形あり  
名付ふふと此尾張富士のいれたありて近江の土と彼河  
小運びて湖と富士山とを造る多し一時捨夫の神此地とて一箕  
と覆ふ多し則此山とありて一いつい傳へれば彼彼河の山  
也同ト土石なりとぞ

近世高田與清が著し國鎮記とてその小波河の富士山とてその清ふの擬富士と云ふりて陸奥富士薩摩富士

### 富士淺間社

尾張富士の峯にあり本社祭神木花開耶姫命左右金剛界社胎藏界社等

山社伊豆社ホと名あり夫より麓まで本社教祠ありて釜岩社日神社中宮社

八幡社三輪社山王社辨財天社ホりて竹古跡多し國上小蛇て尾傳べ

### 例祭

四月初申日六月朔日九月十五日十月初申日之其内六月朔日ハ時ハ大衆より俗小富士

新宮と云ふ五月晦日の夜より山上山下に大船を渡りてたゞ安妙の群衆山も多し  
くりては火をふりて花やりにててかまが嶽の大文字の坊傳りて至朔日ハ別當修験  
出生し淺徑護摩執行あり終りて近より馬と鞍又も社小左邊と奉納して祈  
とつる年あり

### 別當大嚴院

長来山富光寺と云ふ真言宗犬山藥師寺ホ

常昌院室藏院泉正院千手院金藏院の五坊あり

### 修験

常昌院室藏院泉正院千手院金藏院の五坊あり

### 富士三ツ池

同村小ありて金山池北洞池辨財天池と云ふ波河の富士山絶頂の湖水小擬へて

### 善師野驛

名古屋より本多路へ出る宿の宿驛とて小牧宿より土田宿までの馬籠あり

此地ハ栗植ホの果樹は多くとて頃まで栗植とて大樹ありて其の  
殼ハ一の穴ありて化虎に果ありてむり小名の啄来とて實をてつてて穴ありとて  
されば鳥喰植とて名をとりて毎年貢納せりと其本樹て今ハ止とて

江戸往還 信美ニ山凌險來張城郊外望悠哉忽伸連日崎嘔

### 鷲岩箕岩

同村街道の側あり共ハ形ちとて名づ

### 護應山清水寺

同村小あり臨濟宗美濃國上加納瑞菴寺ホ

寺傳小りもあちハ延暦廿四年坂上田

### 建あり〇本尊 觀音堂

聖德太子作の馬頭觀音と安置ある西三十三観音

### 田村磨塚

村内ありて又古小田村磨の画像あり

### 福聚山禪徳寺

同村小あり臨濟宗美濃國可兒郡石原村真禪寺ホ

### 繼鹿尾山八葉蓮臺寺寂光院

名古屋大須真福寺ホ

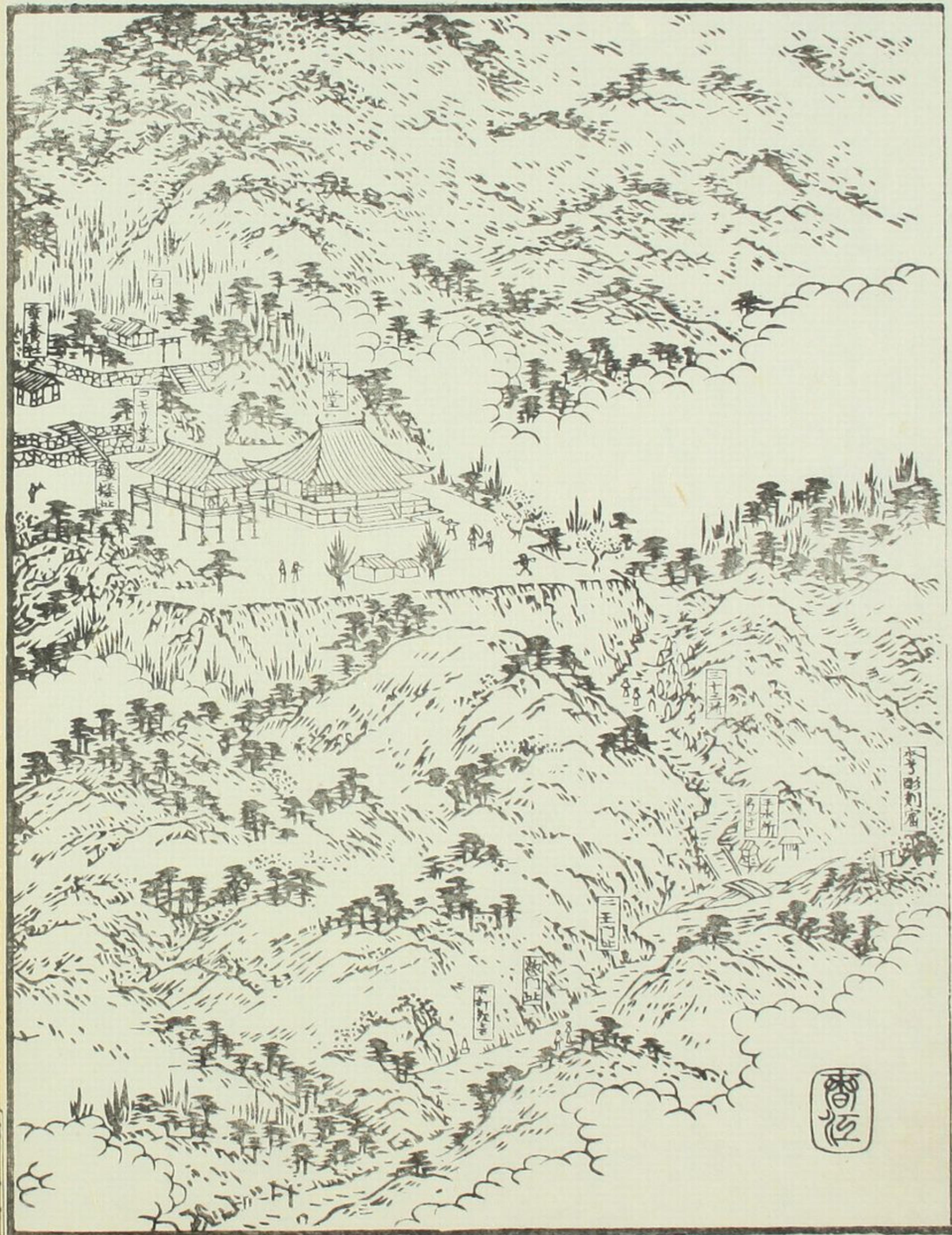
### 尚の開基あり

和尙ハ白雉四年夏五月遣唐使小山上吉村長丹寺ホ

年中天竺の善先畏三藏ある小海とて自刻の阿弥陀の像と安置

其後養老

總鹿尾山  
 蓮臺寺  
 自適園詩集  
 衆秋鹿嶽試登臨嘉遯堪思  
 文攀心行盡欲迷幽徑曲疲  
 來聊越茂松陰雲間犬吠人  
 家在林表鐘鳴梵宇深應接  
 無違且忘反把戈難駐夕陽  
 沉  
 千村諸成  
 西溪集  
 昔想青巖路今登鹿尾山澗泉鳴  
 玉散松逕帶雲關指勝偏乘興吟  
 詩一解顏香樓羅拜罷最喜出人  
 間  
 服部俊徳



香



雲峰屹々石幾々  
 大士堂高小補陀  
 眼底獲江秋一碧  
 渙舟點破夕陽波  
 和田澹齋

峰のあゝ麻け  
 陸屋の山よき  
 かうくえにかくし  
 延次山のしらむ  
 田雀丸



座禪石  
 眺望



高正鬼門の法護とて其場より作當寺の由来と尋ふ南郡  
 下野村小山嶺と業とて者わつて常に此山中と持たけり或日  
 朝より夕まで得ずてたゞむねく谷間より可の麻涌り出せば  
 うんたぐ対するけききて凡に其麻の尾より光明やくやく照く  
 やさけり彼者うごの思いとありてんは千手観音の灵像  
 少くともあり終に当山小安置一徒鹿尾山と号けり今も前坂の  
 岩小鹿の足跡くびく沙より當古杉老松蒼蒼として閑寂  
 玄隱の古淨刹より中にも座禪石より岐種川と見下は光景  
 籠堂より西南の眺望眼界蒼茫として山水の美華端の及ぶ所  
 小わづら

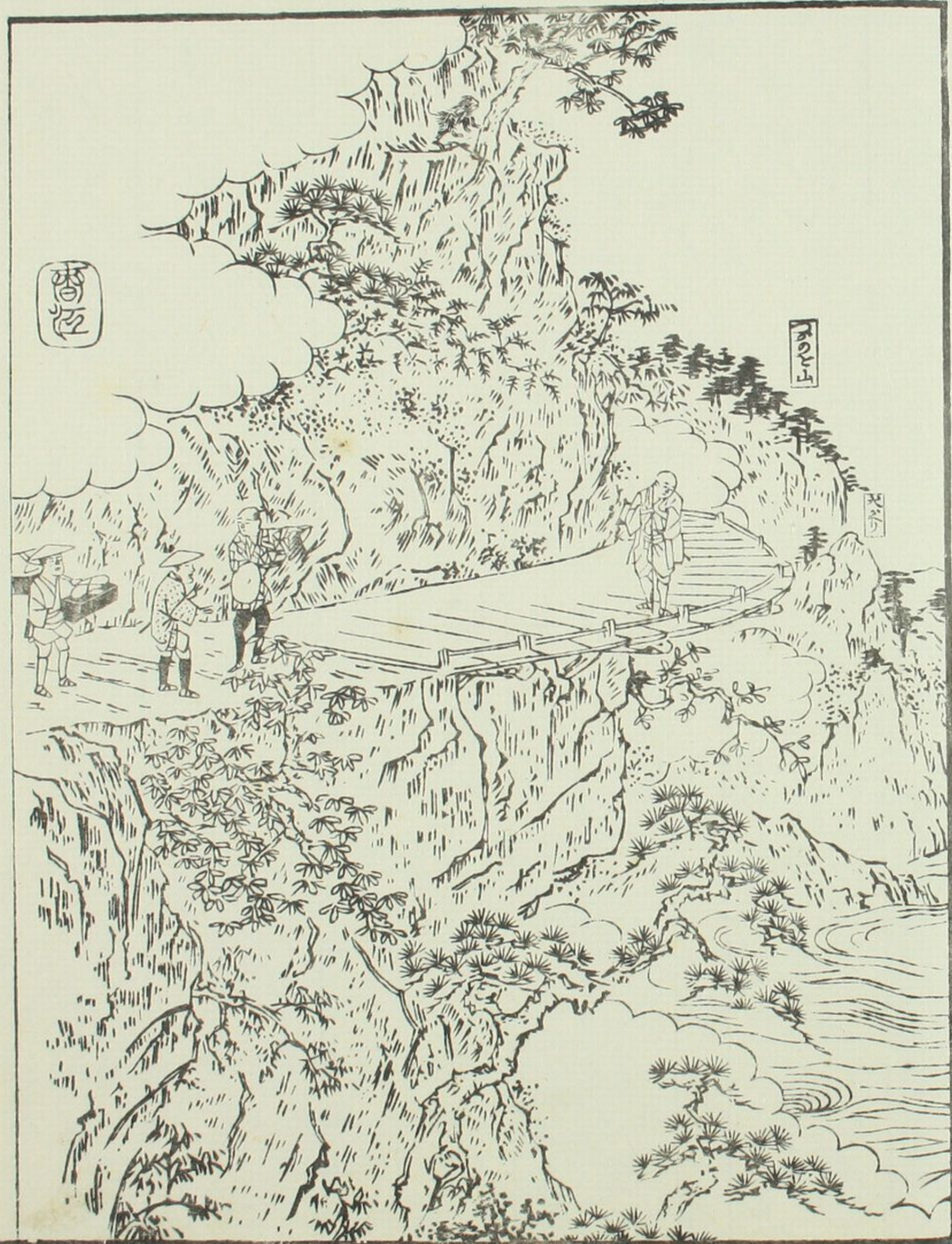
**本尊** 千手観音ハ高正三十三観音の一所りて出現の岩窟裏の中央あり相傳へ  
日本武尊化現して造りたる像也 天智三年七月十二日出現し其時の神迹  
といふ事麻の宮と當の旧地小き所なり **寺室** 茲大所所坊の香炉大日如来不動  
の土管谷氏より寄附の甲冑ハ松平右衛門太丈正綱着料の古器なり其外寺領飯田信長公の  
 朱印 國祖君御黒印ハ母五郎たき長考柴田氏其勝家依り市に傳へり法又救通又

鷲岩  
 箕岩



高正  
 思文

箕岩



香

山

山

栗栖棧

見りくれ

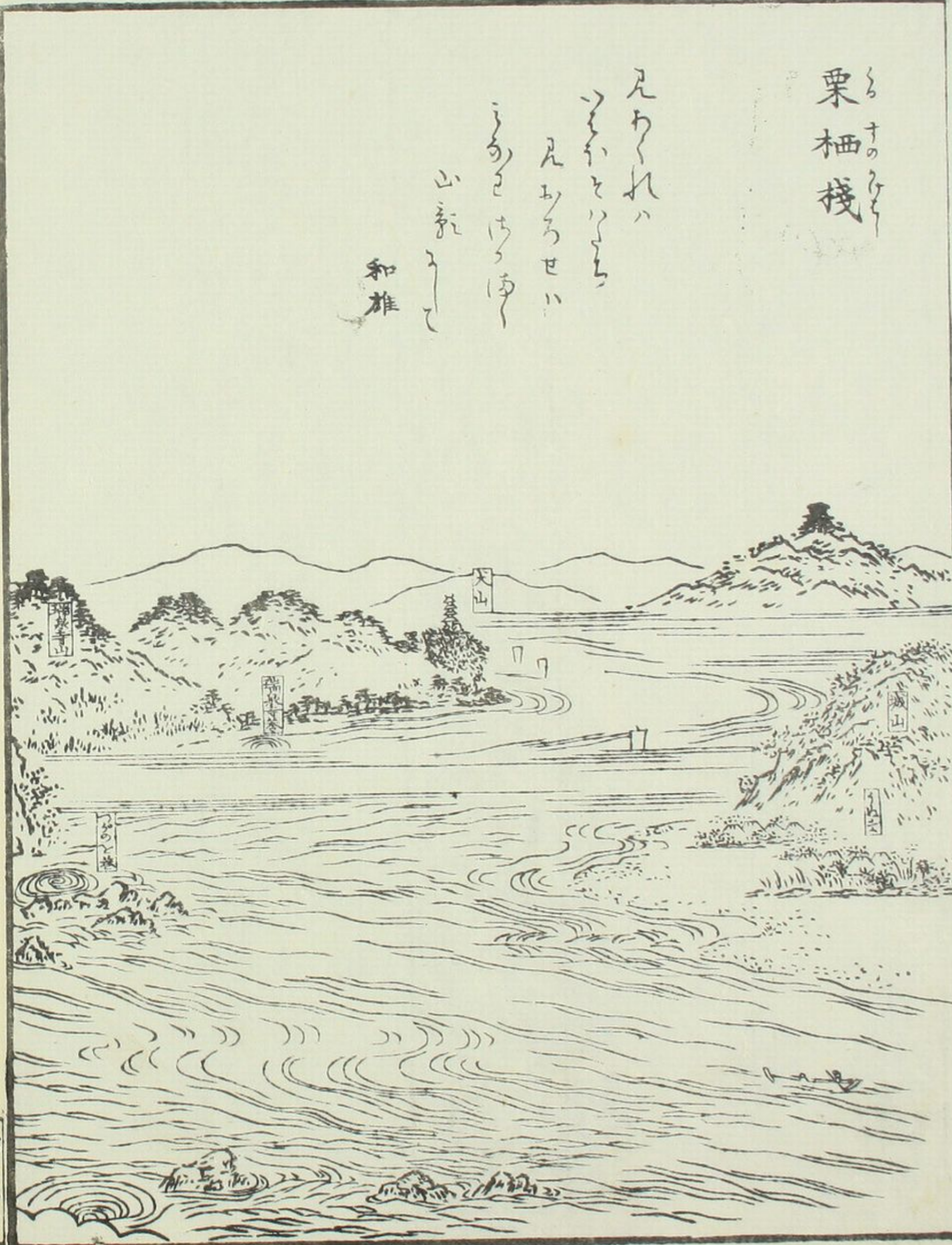
つれづれ

見りくれ

いりこけ

山

和雄



山

山

山

山

山

山

古縁起書画の取甚多し

有花即入門約題有鹿尾門並瑞泉遺恨山房借無

夏日游繼鹿山蓮臺寺同賦其勝贈物意上

上方六月似清秋平楚蒼々眼界悠成類正太

峻欄前下見蘇川流梵音響處噪蟬滿樵外遠望栗山

鳥幽終日松濤吹不已納涼忘暑坐林頭

佛殿重々筆古岑攀躋一夜宿祇林岡田新川

近露葉分光月色深曾有化人停白足能令長者布

栗栖地神社栗栖村あり本國帳小春日部郡正四位下栗栖地神とあり社より同集説云

栗山同村あり樹木茂りて美俗く幽谷の地なり中にも字カニケケをとりあり

木曾川水原ハ信及も居味より由流石と稱て栗名の所也五十里の長流ありて水勢を

古木森々茂りて風景地小美なり更に蜀江の

大吉権やとささの川ハ

信流のみの

谷のまに 落つりり きてらわいり

つし 吉権をみよ 名をさき

尾流のかし りし 是はのかし

か山乃 里と隣と 百はぬ

谷とくし けしは 水川のなり

わつ枝よ 大細引く 鶴鶴

さしゆきつら ふいきも さや小きこしぬ

大さし川ハ ささくの

高し川ハ

春

秋輔

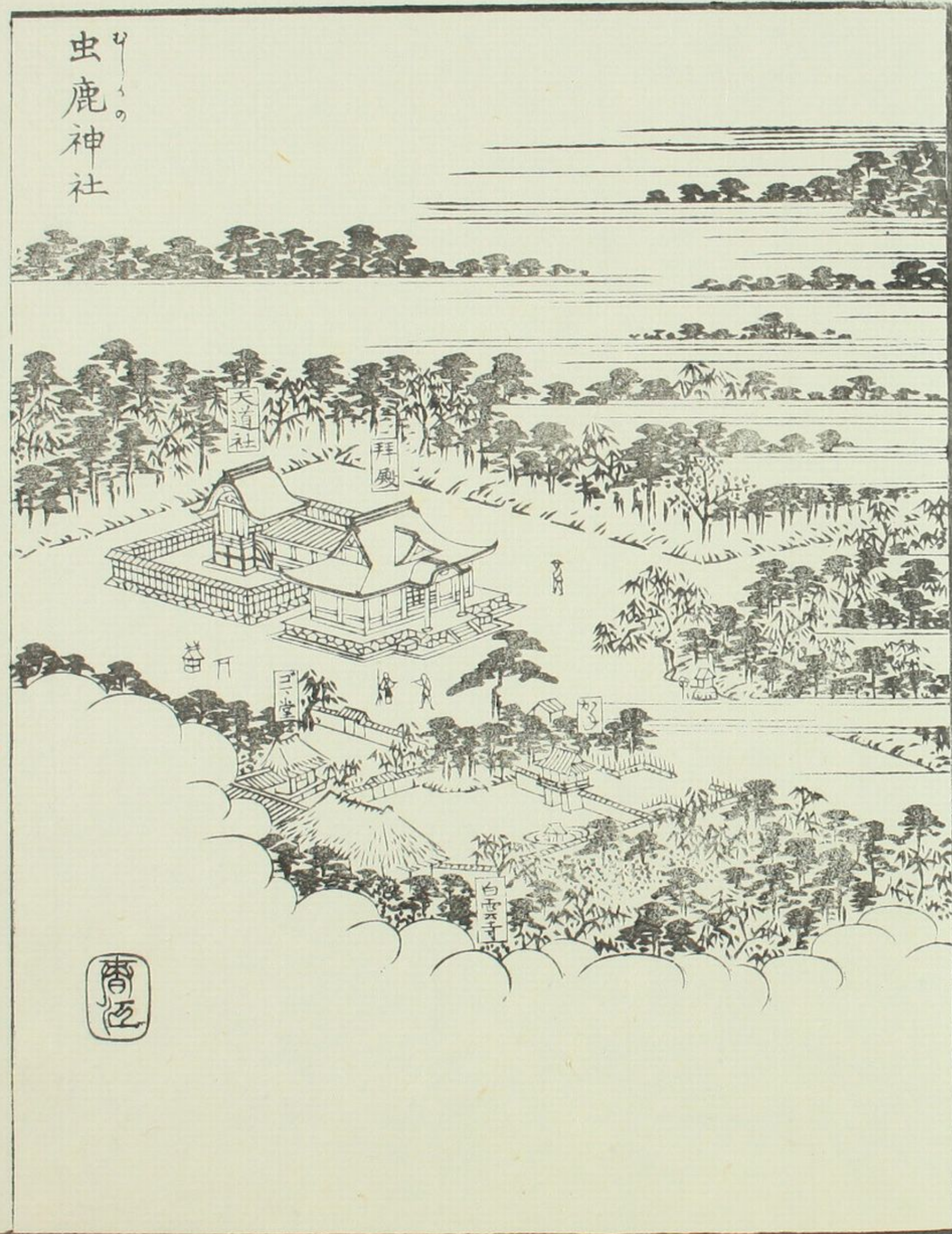
虫鹿神社前原村あり 延喜神名式小虫鹿神社本國帳小從三位虫鹿天神

とりの官社之同集説小初坐虫鹿莊入鹿村寛永十年移村民於前原

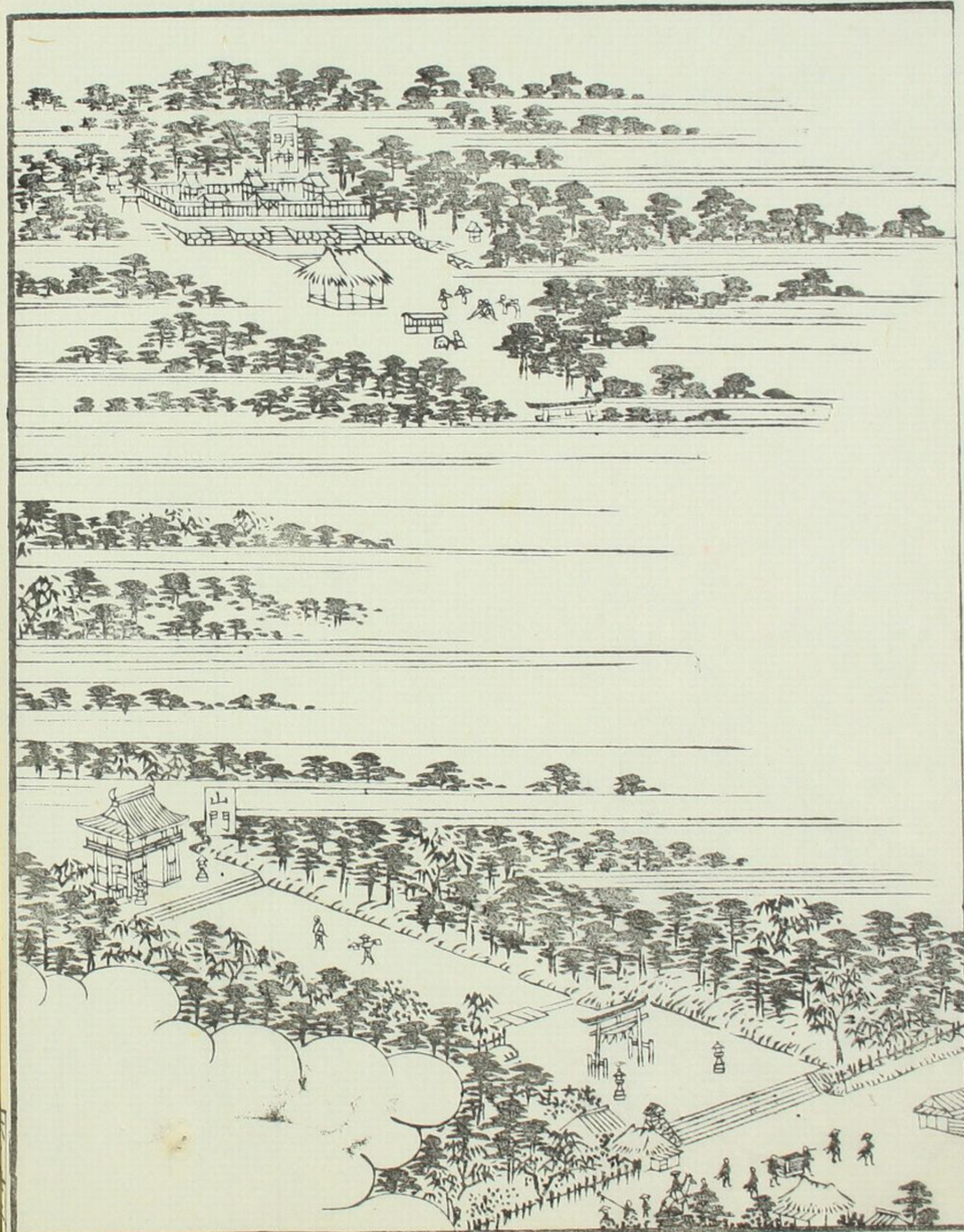
造沼池之時遷座前原村とりの後年



虫鹿神社



香



社と天道社と二所あり共小入鹿村にあり古社なりと云ふは鹿の  
莊名と稱せし津津なるべし天道社の白雲寺とあり三明神社ハ  
社人司どふ

入鹿山白雲寺 同所あり天台宗也田密藏院末も傳ふは往昔行基菩薩の開創なり  
と云ふも土年丙午九月奉建して天道宮の社勢と司どふ中奥開山白  
雲比丘の名とて寺号とせしと寛永十年

橋爪妖火 傳ふは橋爪村の農民勤五郎といふ者成年の夏田の水と引んとて青木川  
の野に妖火と云ふは是年間に四百餘年の屋敷と傳ふは其の夜は妖火と云ふは  
徳授寺の現住大陽和尚一偈と賦して母子が退福と宮に其の妖火は其の妖火と云ふは  
彼和尚が作りし鎮妖火頌并序文なりと云ふは長ければと略し偈のいと左記す

四百強年母子魂隱憂相結託橋村江流今幸修眞  
福當下路門甘露門

羽黒里 今羽黒村といふ寛永の頃開如井坊久喜といふ者尾州羽黒と領知し  
蜷川出雲守掌なり

比良賀天神社 同村あり本國帳に従三位比良賀天神といふは是より平賀ハ  
一ノ事春日井郡の部小のりなり磁器の名なりははははに陶工どもが祖汗とまう  
て景敬と社をなす今ハ當村の氏神大一大見  
大明神の社地小末社のむらりて坐せり

妙國山興禪寺 同村あり臨濟宗天山瑞泉寺末末也ハ梶原茂助義景大旦那少  
と云ふより寺号とせり別位牌 本尊 釈迦 木像

磨墨塚 同村あり梶原景季此地に住りて馬を磨く所ハ磨墨塚といふは是の塚  
源を馬の同松十代をの塚跡なりと云ふは源を馬の塚の跡と表しなるなり  
よ云ふは附會の流なり是所小信を公の塚ト梶原

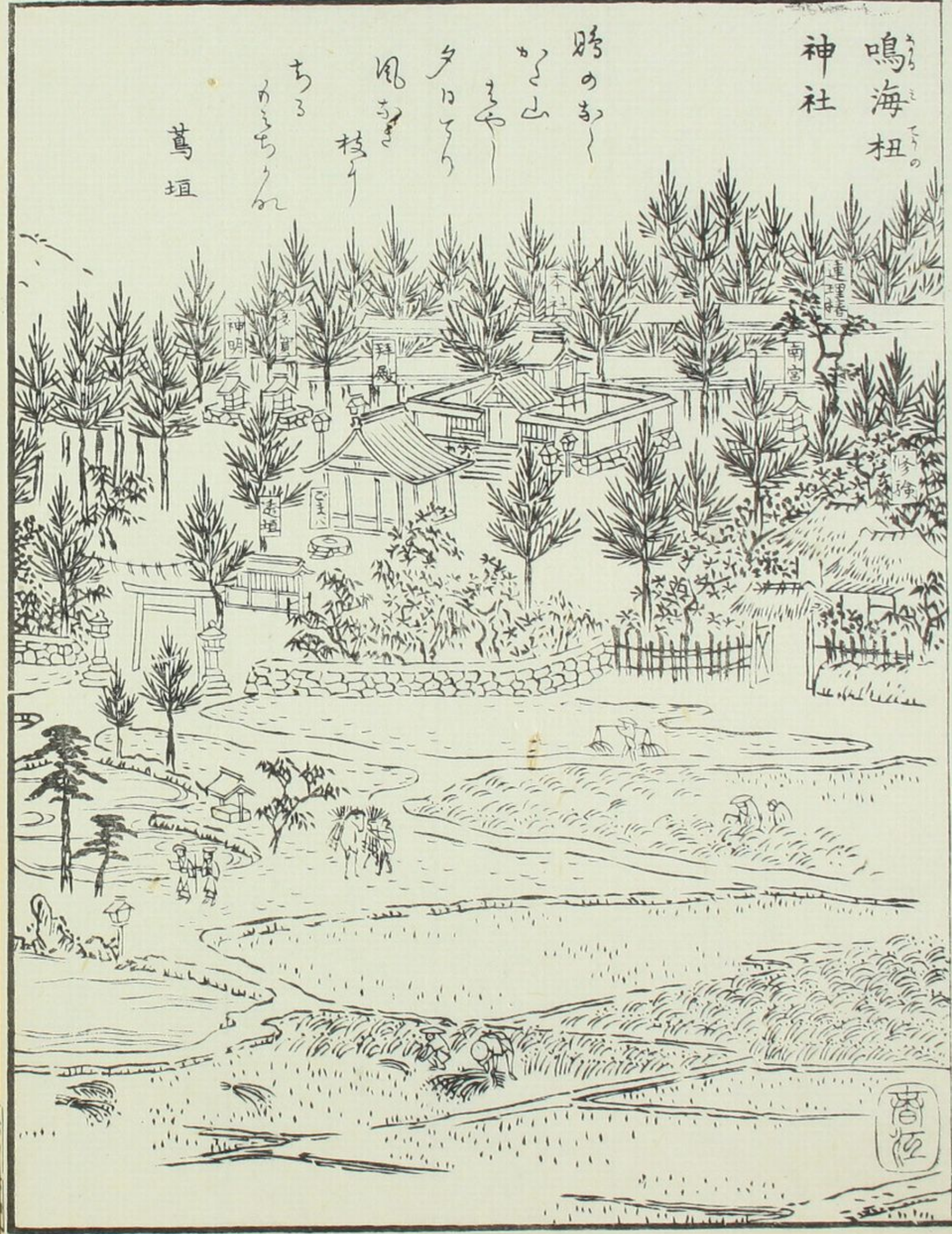
羽黒川 同村あり水原ハ本宮山の北より出り川中廣くとも昔ハ石  
源を馬の同松十代をの塚跡なりと云ふは源を馬の塚の跡と表しなるなり

羽黒古城 同村あり太閤記に卯月十四日羽黒の古城津普請仕仰付堀尾茂助山内  
萬統の糸目物日記に付同廿九日津馬と納り云云稲葉通邦が参考長久手記云十四日  
秀吉羽黒の舊壘と修堀尾茂助吉晴山内伊右衛門一豊伊友掃部助祐時に守りむ  
又奈良高田山の方小城と築き稲葉右京亮  
貞通長谷川辰五郎秀一とち傳とせり

羽黒合戦 同所あり八幡林の古戦場 天正十二年秀吉公と信雄公と争ひ  
起り合戦小及びりハ 東照宮信雄とたどけて尚ふ小あり

ぬ三月十七日太閤方の軍將貞治の魚山の塚に表武藏守長一  
三子雄騎と卒して羽黒村の八幡林小陣よりハ 東照宮津方  
の軍將酒井左衛門尉奥平美作守松平又七郎本多豊後守松

の軍將酒井左衛門尉奥平美作守松平又七郎本多豊後守松



杵

平主殿助等二千餘騎赤立樂田五郎丸羽黒ホの村と放火し其陣所小攻寄口美作守又七郎八百餘騎少敵軍三千ごりの真中一突てついでにバキの森方も搦えらと足と三魚川退く長一ハ魚山の方へ逃のびたれが犬山のせまて追つめ家人と多く討取しが松平又七郎家信ハ其が家士せ呂助れ馬つと羽玉の東の山下まで返し合口戦ひが組討とあり又七郎幼弱うるんせ呂小組伏らと首と搦とじとり所小又七郎の家来松平但馬守馳来り逃してせ呂と突伏し其時又七郎起返りて終小せ呂が首とぞれり所せ呂が長子助三ハ五六町ごり退る小助助馬の口取逃けて父君討とりしと告ぐれば忽ち鬚の髪と切汗中と流し母并妻の筈とて小娘小坊せ呂りを父が戦死の場へまゆり敵方の馬上武者一人と突立り多勢小ごり合終り討死とぞりたるが故味方の諸軍其勇と譽て惜まざりたるなり

太閤記長久手戦記武徳編年集成四戦記等にんり

野呂塚

野呂川の側小つり野呂合戦の条にんり其父と母とを向り其外瘦槌塚寺塚駒塚機織塚四塚稲塚等多くあり

梶原氏城跡

同村天守とし小地ふり梶原源氏馬同松千代盛田家小属一代ハ城跡小後り信長記ハ云及に尾呂の伝人梶原源氏所が續子松千代九生年十三にあり

其形も病小犯され己が宿所小居りけるが津所中のこととて未幼稚なりとて有繫弓取のまうればめたりしと我とて津所へ入ると佛年をけいけいも唯ふまじり故のみ小つり君の津供とさむとまかちりやにソひけとて同名の家の子又をまるとり者津て譲けいたは津所中へ入るとまらもは有格ありとて君津父子を今送臣のよ小犯さるとまらも何様も津祝族の人一度送徒津遊野の伝わりなれば勢く先療治と加りして其折とて忠節とそられとて其津所へ池入は様とて津名代小恐る信忠卿の津供とてしとて居りて居りて馬引寄り寄り津名代とて二条小池舟寄りに津所中へ刺入て廣橋小跡を松千代り為体委細小と上主の代官小津故と防まるとと上りては至忠斜り津感小つり則津より下場りけとバハ我切にさすも其小後世までの面目ありとて再三頂戴して庭上小噴出とんが返り水車八方透まり切てあり故数十人あごうに持伏し且く防ぎけと

鳴海祖神社

同村のつり鳴海祖神社とあり延喜神名式小鳴海祖神社本國帳小從三

より東の方に真福院とて修治りては社と守りてあり又境内に并々天社あり

嘉智部里

ふつ村のつり嘉智部里小牧驛善師野野野の間にあり里に茶店あり

皇太后親王などの津名代とて諸國に庄園とあり何れ部と稱しけり地ハ嵯峨天皇の皇后櫛嘉智子にありゆえ里の名とあり日本後紀曰弘仁五年七月辛亥



諸鐙神社  
永泉寺  
羽黒古戦場

尾張国丹羽郡田廿四町  
賜夫人從三位攝朝臣諱

諸

鑣神社

同村小つりて諏訪明神と称次延喜神名式小丹羽郡諸鑣神社本國帳小  
從三位諸鑣天神とあり官社あり尚社に天文十三年の棟札ありて奉

鎮諸鐵座諏訪大明神社とありとあり諸鑣と樂田の古名のやふふ人らざり  
樂田とつり村名の天文以前よりつりつり名うれば諸洲のみとの小名うまふ沖保食

神健南方命といふ例祭  
七月廿七日祠官河村氏

鳥森天神社

同村小つり本國帳集説小從三位鳥森天神柳庄樂田村とあり  
本國帳元龜本と爲杜といふ貞治本に鳥杜小作の共小鳥の誤字

景德山永泉寺

同村小つり臨濟宗  
當寺ハ天文元壬辰年の建立野呂惟

久の関基りて泰秀和尚と開山と次和尚ハ信長公と交り厚く奉

當まに奉りたり其に平手政秀の菩提のより小一寺と建之

にさ旨命とあり泰秀ゆけるハ我れ子沢彦と開山とあり

わりの名則其意小す己政秀寺と創建とあり其後天文年中當

寺の諸堂悉く兵火の小つりて政秀寺五世徹源和尚先師の古

蹟ととて力ととて再建し其寺にありて中興とあり

寺傳小つり

開山泰秀ハ大徳の才ありけり孝に諸あり雲水僧教百人集り居り  
其中一琉球の信ありけり彼化と興禪寺ととて建之

樂田城址

同村小つり織田陣の遺蹟耐久永業て居居す其後津田下野守信清が城  
と攻取り持城と成永禄年中信長公信清と退ひ坂井右近政尚守り

本尊

何弥陀  
亦像  
湖山水  
門内の池とあり  
信長公名付ハま

傘松

門前小つり古松ありこれも伝之  
名付あり

其後と久多軍の時秀吉公  
の陣營とありあり  
太閤記小羽柴統前守秀吉尾州表出勢

の趣ハ津川玄蕃允岡田長門守浅井田宮丸秀吉のつり小謀せり

と事と不便と思ひ其勢懐と散せんがなりや先勢濃州垂井

赤坂巢股も小着陣しけり後陣ハいさ醍醐山科宇治勢多也

小充滿して大坂の御一左右と待居り前後其勢十二万五千の

着到ととてつり秀吉卿三月廿一日大坂と打ちつり宇治瀬田も小

扱つり勢も次第小あふり廿三日四日ハ先勢犬山の下大豆戸の渡と

越天山五郎丸也に陣取つり日と逐て後陣の勢あまもあつり尺

地も更小なるりつり所小秀吉守も廿七日午刻小川と越つり尺  
犬山の城小入りつり未刻小樂田羽也也まで諸大名より召つ色



高橋



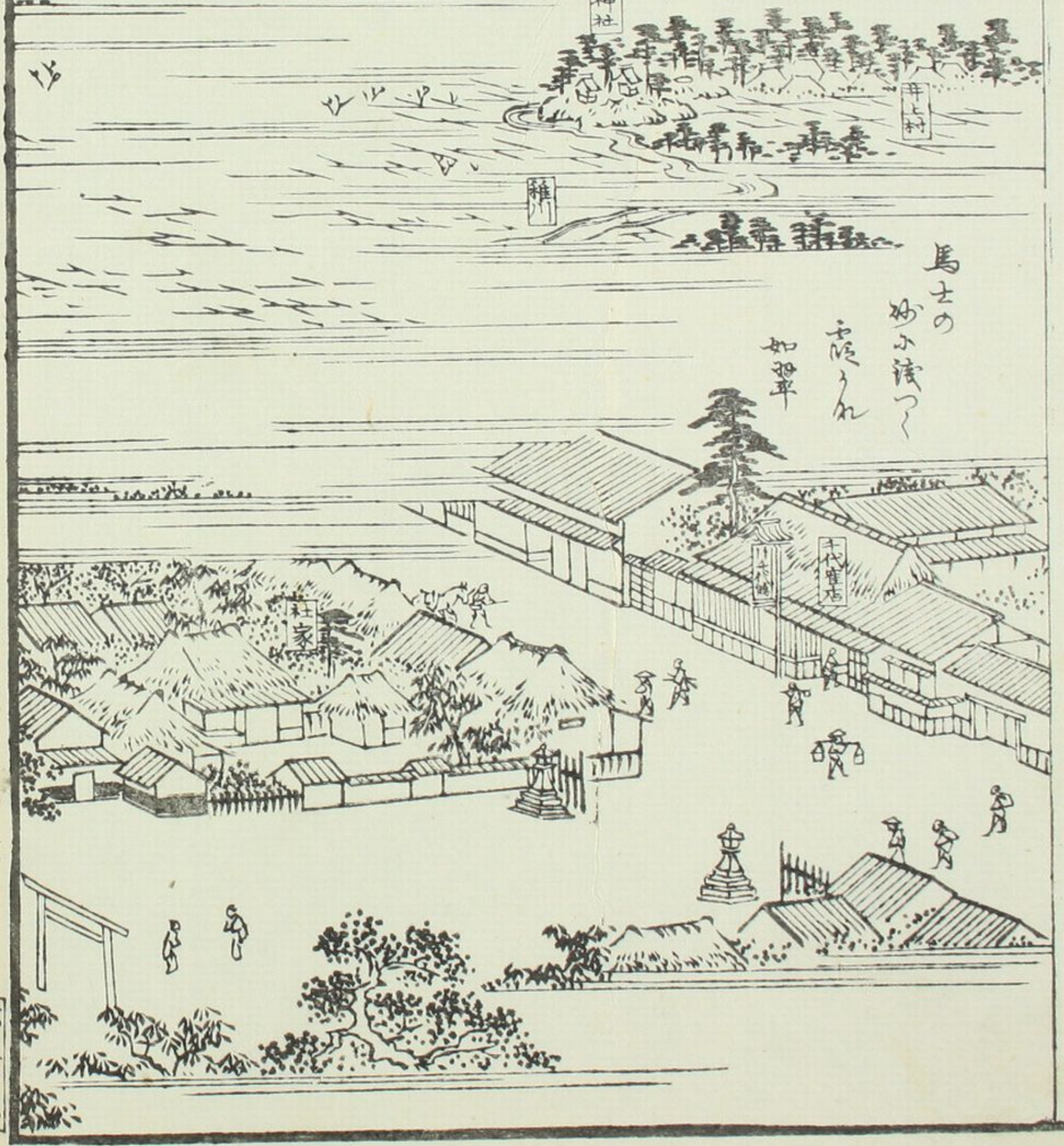
秀吉公の軍勢  
樂田村の野陣の圖





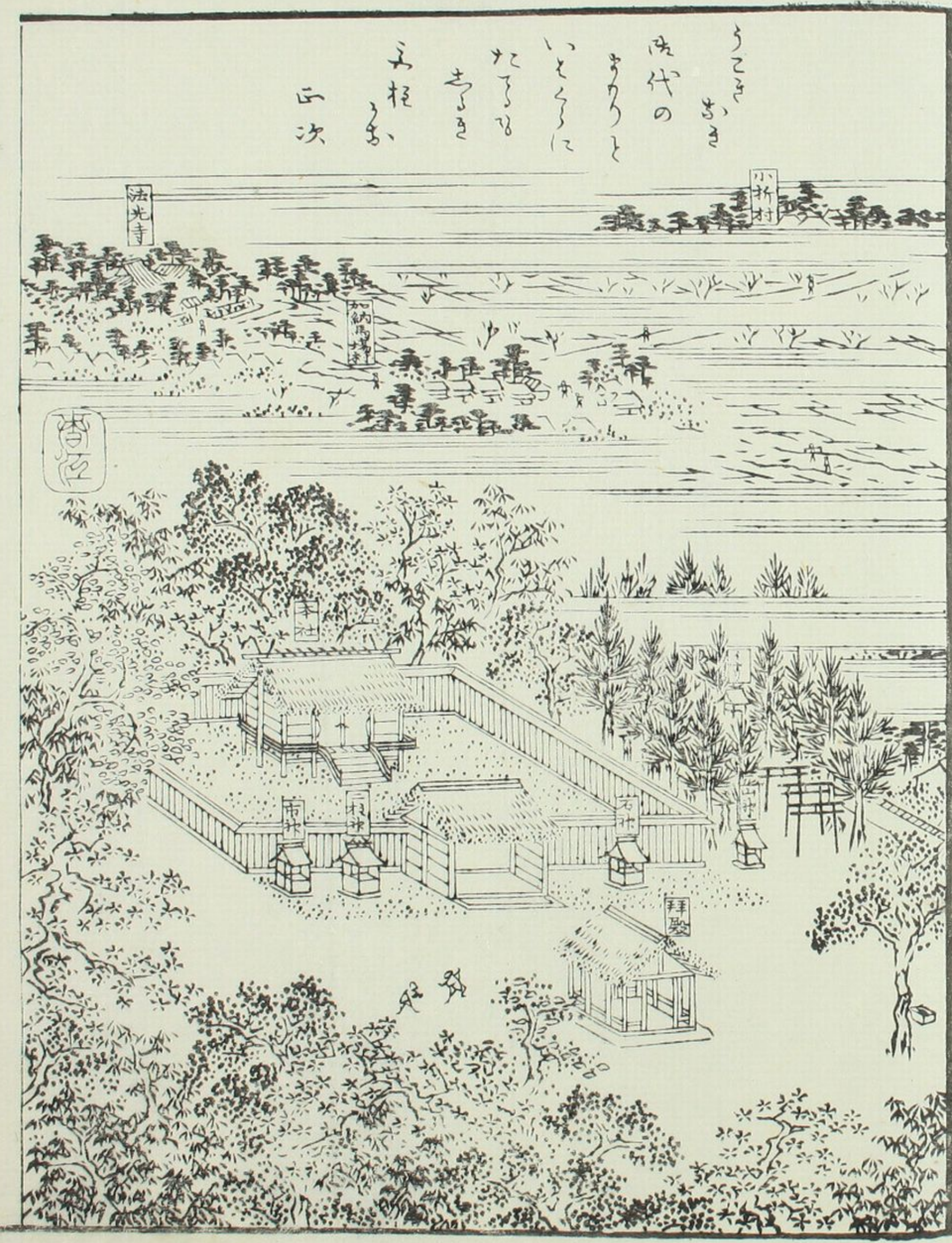
神明太一宮  
井出神社  
銘酒千代雀  
店

千代雀は酒造家  
大のやうな製と  
お山の慈愛酒  
大甲の保命酒  
おのれは酒造  
幸々  
皇君もまゐり又  
府下及び各  
所所々々  
て人のあつても



馬士の  
妙小法師  
千代雀  
如和車

千代雀  
銘酒  
井出  
神明  
太一宮



法光寺



竜潭寺



寄陽  
上座  
片袖  
水仙花

竜潭寺は建雲山トシテ白坂雲興寺の  
末刹あり永正二丑年津田氏の奉願にて  
僧本興建三心光寺トシテ後天正十四  
成年島新の城主織田伊勢守信安今  
の所へ易比して竜潭寺と改号し  
とんじり



岩倉里  
新溝證法寺



虫薬保童散

島新山川氏より出そ  
「子相傳の青葉」にて  
名「一山」とは津洲の  
芳名丸と八茶店あり候  
して學の知れぬまゝ

東中  
さうりゆ  
さうりゆ

山川氏

慶長七年寅十一月廿三日伊勢の祠官より達しける書状あり又此祈令  
も仔細所とゆづりめでとるあり又慶長十年己十月十日世言院君

御遠宮の棟札あり 末社 子安社市神社山神社 白山社天神社 例祭 六月十六日車樂 三輛と出候

神明社 同村市神にありしは同村のち新光寺といふ地ありしが中むりのひろみうつりていひ傳へ  
も今狩あり昔は新溝の  
池とあるに足ま

山内對馬守一豊

同村の人をいふ十三歳で父にかこ成長の後猪右衛門尉と名乗て信忠公に仕へ公をせしめ  
て秀吉公の侍に天正十一年若狭小浜の戦を經て同十三年近江の半渡の戦より一討ちとて  
十八年を以て越前川の戦より一豊五年神君奥の系勝進討ちの時一豊先陣ありて了安を津宮にたす名に  
いふ事伏せしむし佐吉に任じ同九年從四位下を叙し同年九月廿日卒と藩翰譜に記さるる今  
七佐康の祖あり一豊織田家仕人のため東國才一の名馬ありとて安に安んじしは一豊の傳ありて  
求る人もありしに一豊もほく思ひしが身まがらけに死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
不ど口勝りしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
とて一豊の傳ありしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
かひしむるは一豊の傳ありしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
らん時ありしは一豊の傳ありしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
ありしは一豊の傳ありしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは  
位公に記さるるに一豊の傳ありしは一豊は一豊仕人のためめありける馬を安んじて死せしむるは一豊の傳ありて安に安んじしは

新溝證法寺

同村あり一向宗東依 尚寺創建年月詳あるは齋天を宗ありと宗祀は  
京都東本願寺直末

ゆ依し今の家に改じ上人関東よりゆ京のゆも止宿あり  
しつじ地敷の多くて炬りりうなれが上人故と封じしは新溝  
と堀て清水と流るるにありて故の生ずる事ありてありてあり  
溝と堀とありて新溝證法寺といひて寺傳ありしは  
より新溝といふ地名と流り傳へるるにありて今もけ寺に  
故のありし奇といふに  
本寺所記の裏書に新溝證法寺といふ其外釣鐘  
手水鉢の銘等にありしとありて寺室祖師上人  
真筆の九字  
名号あり

織田伊勢守信安城跡

同村あり今田圃あり字と棟跡といふとあり織田敏  
信 兼一様といふとあり武南家の時ありとあり  
けし上の四郡といひ信安よりあゆみ居すこれと上の織田といひ信安は  
て武勇文事とあり良ゆといふと下の織田清次の子長公と不和あり  
倉より合戦し信安の子信賢は永禄二年退城す是列家老梶田隆理亮前せ小  
次郎名が奸曲といふとありと總見記及び尾陽雜記に信安病死の後  
の凡 例の織田伊勢守信安の父祖より氏も名も信安といひて卒せりま  
は田勢十郎入る三入の物ありといふと何代目の信安と  
と不和あり信安代も(物馬)といひて跡を旗とあげて敵討す



岩倉合戦



刑部師 豐原堂主 寫

草木萬葉  
 輕春天秋  
 冬露雪豈  
 消殘何果  
 成人損閑  
 胸急々豚  
 飛入蚊服  
 右伊勢守  
 信安自讀

事なしく及びし。永禄元年七月十二日信長二千餘騎と率て  
岩倉の城を攻む。浮中におわす。犬山より織田十郎左馬信清  
千騎より馳加り。都合三千餘騎の成り。岩倉城よりも  
三千餘騎の成り。合戦。信長の上知。さう決地と斜小  
廻り。透る。ちぢりけ。敵方横池。突立られ。と使と  
立。ちん。次其虚と付。中条小一郎。何事も咄と  
とわげ。一。突て。か。岩倉勢。浮。城。引  
退く。信長。信清。南。小。引。退。岩倉。一。追進。城方の軍將  
是。と。ん。く。犬山。勢。引。千。騎。引。退。三。千  
余。騎。一。夜。小。引。犬山。方の。土。倉。四。郎。兵。衛。和。田。新。助。言。本  
左。吉。生。的。勝。助。中。島。主。水。正。楮。子。二。れ。馬。も。究。竟。の。兵。士。浮。中。  
川。と。ち。越。一。戦。ひ。る。岩。倉。方。の。お。田。た。ら。允。り。犬。山。の。士。う。り  
一。が。近。年。岩。倉。小。属。し。け。小。今。日。の。合。戦。と。下。知。て。わ。り。け。と。

江戸の湯屋を見て引組て勝負を決せむと陰を控むと組て上と下と  
近びらる。豫小前田が首を提てゆり。かくて犬山より信長公引返り。一  
款大勢を軽敵あり。早馬安浪を打て。上。又。引。返。一。馬。廻。り。と。ま。て  
一。が。此。合。戦。の。究。竟。の。兵。共。九。百。餘。討。死。て。信。長。公。清。原。へ。陣。一。ま。ひ。り  
この次の年又岩倉へ押寄せ。三ヶ月。び。攻。ら。れ。る。不。ど。に。款。叶。ひ。と。や  
思ひ見。城。明。し。一。時。ち。あ。り。に。あ。り。か。る。と。織。田。軍。記。織。田。真。紀。等。に。見。也  
生田橋 大山寺村と春日井郡徳重村の間岩倉所及生田川。板橋あり。川の清流。一色。村の  
せり。て。交。日。親。と。る。に。其。漢。人。も。う。ま。り。水。入。り。船。と。抱。て。出。る。信。長。公。引。返。り。の。時。  
青木川 佐世川の下流。多。源。古。本。村。より。多。小。山。村。天。下。村。の。石。を。流。し。沙。せ。村。の。下。に。流。せ。川。と。あ。る。合。し  
吾鬘里 釋日本紀。引。用。一。の。尾。張。風。土。記。丹。羽。郡。吾。鬘。郷。卷。向。珠。城。宮。御。宇。天。皇。品。津。別。皇。子。生  
七。歳。而。不。語。傍。問。郡。下。無。能。言。之。乃。後。皇。后。夢。有。神。告。曰。吾。多。具。國。之。神。名。曰。阿。麻。乃。弥。加。都。比  
女。吾。未。得。祝。若。為。吾。充。祝。人。皇。子。能。言。亦。是。壽。考。帝。ト。人。覓。神。者。日。置。郵。等。祖。建。岡。君。ト。食。即。遣。覓。神。時  
建。岡。君。到。美。濃。国。花。鹿。山。攀。賢。木。枝。造。縵。誓。曰。吾。縵。落。處。必。有。此。神。縵。去。落。於。此。間。乃。識。有。神。因。置。社。由  
社。名。里。後。人。訛。言。阿。豆。良。里。と。見。り。和。名。抄。の  
丹。羽。郡。吾。鬘。流。布。板。本。に。誤。り。と。ある。せ。古。三。地。あり

阿豆良神社

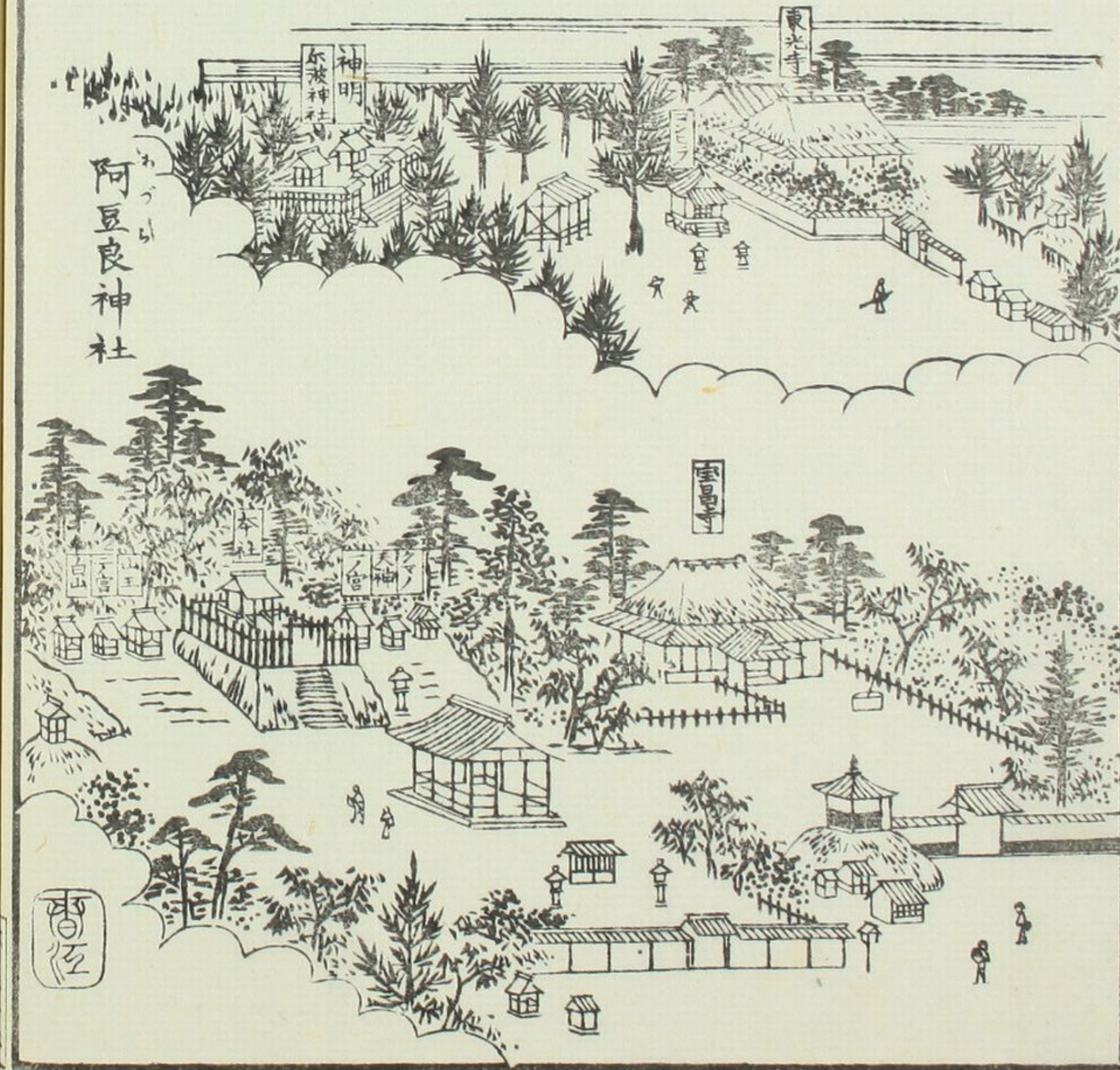
吾鬘村あり。延喜神名式。丹羽郡阿豆良神社。本國儀に従一。吾鬘名神と云。一。社。一。社。僧。空。昌。寺。  
今。も。將。吾。鬘。大。明。神。と。稱。ひ。天。鹽。津。日。女。命。と。云。と。る。と。云。一。社。僧。空。昌。寺。

浅野里

張州府志。稻置庄とあり。誤りて浅野庄の本所あり。康正二年。造内裡段錢。並。国  
役。引。付。に。壹。貫。六。百。文。北。野。社。領。尾。張。國。下。淺。野。保。段。錢。と。見。え。と。は。ハ。ミ。の。事。あり

爾波神社

爾波神社  
 古林煙接野  
 人家乘柘陰  
 陰狀淺沙鷗  
 鷺不離祠下  
 水半江秋雪  
 宿蘆花  
 鷲津蓑裳



阿豆良神社

まゝ高野及び近村の對面竹多く大なる竹林あり和漢三才園會に鳳尾竹高不  
 過五六尺葉細三分許其笋冬月生故俗呼曰孟宗竹とありて春笋を生ずるは  
 巖々府下に運送す彼漢土の所謂廿四孝として雪中竹の事と伝へり

淺野彈正少弼長政

同村の人なり藤原公定の分脈系譜の淺野氏、清和天皇の  
 後胤として淺野判官代源光時より世々尾張國住居のよりん  
 たり長政則其裔孫として又又長政、長勝の時に信長公の清和の流るり高臺寺殿の  
 御時、長政の孫吉吉公の祝睦厚くありたり太閤の家臣ありては、高臺寺殿の  
 意外く天下靜澄のより忠言を言されりありて世の人の知るごとく朝鮮  
 征伐の時に、太閤自、彼公自らむむと、長政の侯として益うさるる退  
 治とありて、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 及ばざらば、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 禁裡仙洞北政所の事を、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 内小余せり、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 子悪事とありて、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 國祖君の配偶とありて、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退  
 ありて、長政の侯として益うさるる退治とありて、長政の侯として益うさるる退

馬身塚

赤見國玉天神社

大赤見城址

同村西南の方にあり織田彈正左衛門尉勝久其子平七郎久長居住せり平七郎後小彈正  
 と云き久長豊興母家の姓と冒して服部道珍と云永禄三年桶狭間の合戦に今川義元と突目し  
 彼部小平忠次ハ利孝母の孫あり其後裔今高野ありて代々村長として後部氏と稱し

丹羽郷 今丹羽村といふ川南郡の今郷といふ和名抄に丹羽郡

爾波神社 丹羽と云ふ丹羽臣と云ふ波縣君等の位一書地なり  
因村あり延喜神名式に尔波神社本國帳小從三位尔波天神と云ふなり今丹羽郷の  
生去井と云ふ下で実川南郡の葛氏神といふ大石川の東にありと寛文六年今

の尤ふつよりて付若の社化と古宮といふ事神八井耳命より集説小神八井耳命者尾張  
丹羽臣之祖と云ふなり例祭八月十日社傍惠日山東光寺臨濟宗兼栗郡黒田村室光寺本

○まゝ丹羽小惣多氏といふなり中と書法小大守古波尾高源頼朝の末葉人天文十一年秋秋成  
侵されは地少なり誓す夫より救代を經て寛政五年内のこと出村といひ情多きなりて門生多

一節小名をうり其次に信宿小丸庭と稱一松原といふ其次弘之信小徳を即と稱益富  
り其次宣光都を即と稱一穀高といふ其家學と傳へるをこの諸に雲水傍多し

其内穀高といふに安政三十六家絶句の八入頗る多し

宅美神社 西大阿蘇村の宅美といふ小旧跡あり武内の神社也本國帳小從三位宅美  
天神といふ二運寺に社とあり一社あり一社あり一社あり一社あり一社あり一社あり

名のこれ

浮野古戰場 永禄年中信長と足倉の謀之織田信安との合戦あり終に足倉方  
利ありて降ふなり足倉古城のなりなるに合戦せり

阿具麻神社 天摩村あり延喜神名式に丹羽郡阿具麻神社本國帳小  
從三位阿具麻天神といふ官社なり例祭八月廿五日

鹽道神社 佐鹿村あり延喜神名式に鹽道神社本國帳小從三位鹽道天神と  
云ふなり村名もはたより起まり例祭八月十六日丹羽村裏眼寺にあり

重吉古城 其子年人不知其の所首長と改りて尾長といふ夫より十六代又を即重忠信長  
の

小室長時小房す其子尾長内ま吉信長より本州三ツ井里にあり大永年中城と築て  
居と云ふに永禄の信長長とのより小房城一三河小越之矣年を信長と云ふなり甲辰



碑銘塚

香



我田本足代村少計死す其為尾及又八郎を房二男を傳つ依守也其八郎為其の初孫也  
三男清兼と名あり三井の里の坊にて其本川の勢に居候し夫より尾及とあり其青水  
吾也其清兼と名あり秀吉も其子也其父文福元年朝鮮征伐の時尾及の所傳秀家の命あり  
我功あり其時彼地のを流を致し一泓の淵に其の轍を敷き其地を今三井の正  
眼寺あり且其母の海東野津吉の故を其山を暗か合守り因設市虎々女より其後其  
又其又其母と都々其母方の其山改り其山と名あり其子素山夫も其後其明より其孫也其後  
て其吉村  
小居候す

立野神社

上野村のり延喜神名式立野神社本國限の從五位  
立野天神のり例多八月十四日

穂積舊郷

今穂積郷本村と名あり和名抄小丹羽郡穂積  
とあり神鳳抄の穂積と名あり

生駒氏宅地

公の住居豊後守のり生駒氏宅地と名あり其後其宅地を其子素山夫も其後其明より其孫也其後  
の後性院君のり其宅地を其子素山夫も其後其明より其孫也其後

碑銘塚

同村のり富士塚と名あり其後其宅地を其子素山夫も其後其明より其孫也其後  
的祖先のり其宅地を其子素山夫も其後其明より其孫也其後

天地者生之本也先祖者類之本也孝子慈孫不可  
不知其本也尾張國士生駒主計利勝為其祖建碑  
于小折村富士塚而欲著其功述其慶揚其名一碑  
履歷以請詞于余余感其不忘本之志也其家傳曰

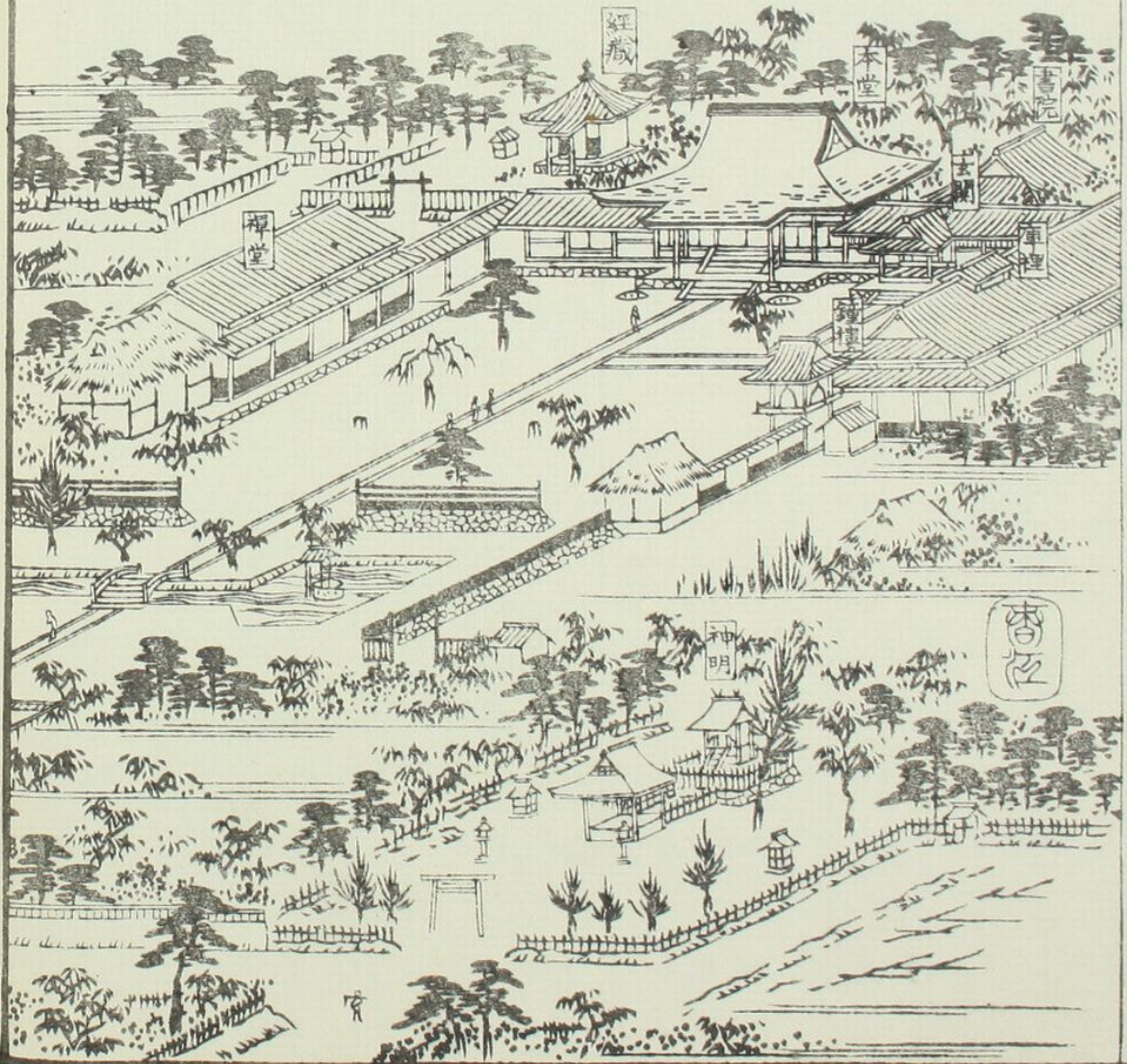
在昔忠仁公建山莊于和州生駒郷而其末流生々  
居焉遂以生駒家廣者利勝六世之祖也其明年折  
左京進其相賀守國政其大藏人宗長八右衛門  
有門尉家長一相賀守國政其大藏人宗長八右衛門  
衛門尉家長一相賀守國政其大藏人宗長八右衛門  
之臣生駒也其女嫁于其子素山夫也其子素山夫  
大長亦信雄也其女嫁于其子素山夫也其子素山夫  
家長亦信雄也其女嫁于其子素山夫也其子素山夫  
吉有隙也信雄志於正十三年信雄與相國豐臣秀  
宅尾州長兵衛信雄志於正十三年信雄與相國豐臣秀  
利豐年幼其兄右近守長家視敵境而歸小牧榮守  
神議自折八村登富近善長察長視敵境而歸小牧榮  
和議同折八村登富近善長察長視敵境而歸小牧榮  
秀吉之命任關白豐臣秀次長亦視敵境而歸小牧榮  
原之役利豐統屬左衛門大次郎長亦視敵境而歸小  
尾張國利豐統屬左衛門大次郎長亦視敵境而歸小  
吉源公封于尾州利豐統屬左衛門大次郎長亦視敵  
者乃其子也今尾州利豐統屬左衛門大次郎長亦視  
為今嗣子也今尾州利豐統屬左衛門大次郎長亦視  
此古曰祖考祖考之嘉名將傳其孫世系如後特選  
勝之嚮無祖考祖考之嘉名將傳其孫世系如後特選  
先之嚮無祖考祖考之嘉名將傳其孫世系如後特選  
昆有也所期祝為詞既成且係之而枝繁葉密猶於後

八大竜王社



久昌寺

手書詩稿附錄  
 一自聞清梵  
 便知炎暑微  
 雨添山色爽  
 鳥送夏雲飛  
 老衲珠無事  
 浮生得所歸  
 枯禪將動處  
 晚坐足忘機  
 禹臣



銘曰 小折之村 陟彼高丘 富士不遠 累々塚幽  
 松林接影 木曾入眸 西顧淡海 東指參州  
 爰問絶景 猶記昔遊 藤縣岩存 李白懋休  
 蠻國服信 以祀武侯 矧又此境 神君傳軌  
 風拂旌旗 日照戈矛 耀榮一時 流譽千秋  
 和二年壬戌二月上旬 東武州學整守主人林直氏誌

八大竜王社

同村より創建の年月未詳と云ふが、  
 成四月生約氏造營の棟札あり例年八月十六日

埴原氏宅址

同村より埴原氏の宅址あり甲斐國の埴原氏より  
 清原の六角半より遷居し居りて位を曾祖父より  
 且その侍女と揚りて妻女と成其縁ありて由地小居たりを遺す

嫩桂山久昌寺

同村より曹洞宗 名古松寺末 至徳元年八月由所の住人林某法名

真觀等の本願より實峯和尚開創一慈雲山竜徳寺と名けが  
 乱世小衰微りて文明年中生約左京進家廣と申其後生  
 約家宗の女右大臣信長と小娘と信忠信雄岡崎三郎君の御  
 簾中と之とありて母堂病卒の後由所の新地と云ふ地と  
 茶毗して其法号と久菴桂昌大禪定尼と名づく其居地小嫩の桂

二株ありて久昌の法号とて其夫人の香花の

場雄山和尚と云ふ中興と云ふ永禄九年山号寺号と改む

○本尊 釈迦の鎮守弁久天社 運慶作至徳元 寺室 本堂の扁額及び聯、東阜心  
 筆より長刀一振むい実峯和尚座禪也大地まてゆげられいれあひそかしく切教  
 けりていふこと近年火災のゆゑに傷損あり中心の法小實峯和尚理上按制  
 蛇刀と云 塔頭 良桂院 天正元年 僧良桂の建立

村上山般若寺

同村より曹洞宗 宗より久昌寺末 文明五年昌山法師遠幸して真言

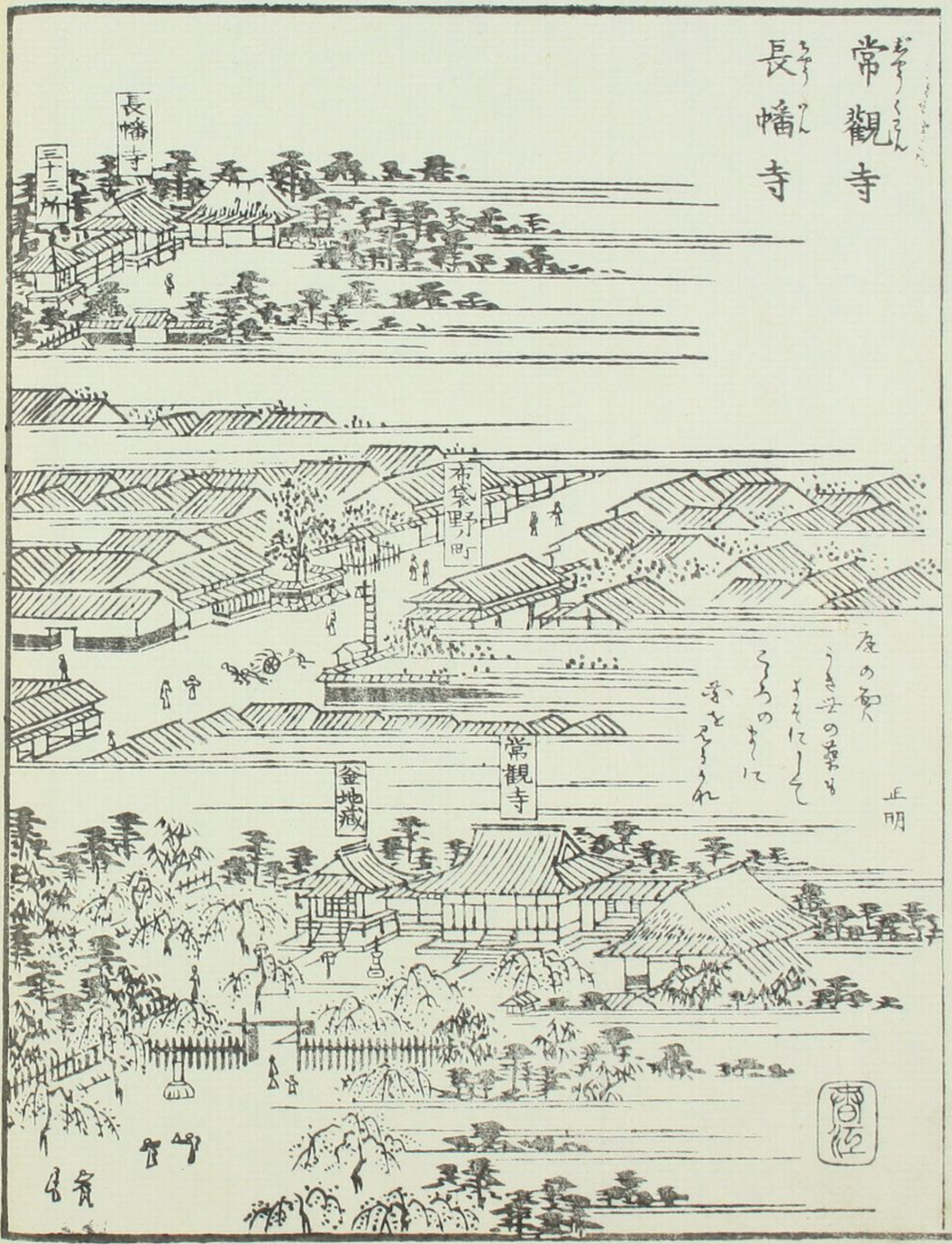
院より境内某所をのぞき大和國生駒山の鬼取某所の像とて彫りて其像を  
 い系所の鬼取の名ありあるの門ありて鬼取の教の怪おしめられ  
 と斬りて怪おのりて聖日其所小ありて五輪の石塔  
 と切けり流りて取おしめられて是國の無吉の他よりと五輪と名づく  
 て生約家の

櫻雲山常觀寺

同村より曹洞宗 當寺の開基は古くは年月知り

かゝ永禄元年大庵和尚中興す本尊地藏菩薩ハ 仁明天皇  
 の御時鑄る洞像を世に傳へる其像より世に凶變わんとす  
 ぬめは像汗と申す流るがゆゑ由六地藏の一所にてたふ

常觀寺  
長幡寺



正明  
夜のあり  
うき世のあはれ  
よそにこそ  
うらみの  
あはれ



泰福の人多しむらびる像と盗み後波國小負ひりて舟に泊りて  
小津んとりふらふらふ威嚇と示して夜々怪美と云ふ  
ふと人恐怖して本國小津にけが其地の方京天津の初友は嘉瑞  
と感し鰐口一口と榎一株とけり像小添へて送りて今於あち  
小わけて其銘小讚州山田郡十河郷高原天神鰐口應永十三年七月  
十六日とんりひる像金の上小立せりる容うとい俗小金地蔵と  
秘次境内に楊枝株わけて山号の秘むらびる花の須は群集せり  
稲置神社 丹羽郡稲置村 延喜神名式小稲置神社本國帳小從三位稻置天神と云ふ抄小  
と多き社なり命は 垂仁天皇の皇子少く日本書紀古事記等より見ゆり中世天道山高麗寺之  
る尾傳社勢と司りて定保元年社も寺も屯ぬ郡八事村よりつて村事本の天道と秘は前  
編の尾と今合記にすれど社も旧地ゆも砂こきて稲置社の  
あはれなりと云ふなりとて友社とすなりと云ふなり

搗栗御厨 勝栗村より神尾抄小尾張国内宮上搗栗御厨 勝島と云ふなりと  
今御厨の廢れり際ハ郡の名産少く漆島の地小多くありと云ふなり書り永  
祚年中の尾張解文も請被停止号有藏人所召例貢進外加徴漆拾餘石事右漆丹羽郡土  
産也例貢進藏人所召三四斗也然而所徴已以巨多也云々と云ふなり今ハ郡ハ漆  
産するなりけり漆島も二三十年以來あまの漆の事ハ古書にも見ゆり信長ハ甲府  
の武田家の漆と云ふなりと云ふなり甲陽軍鑑に元龜二年霜月下旬小織田信長より

傍に権を授けし使者より金具の鞆、五口進上り、則其使の甲州藩所望のに過ぎず、  
 仰けしと申、斐國漆三千杯、佐の権を授けし、（青沼助三傳方より、後次より、  
 中ノノ、と云ふ）

**削栗神社** 同村のり、延喜神名式、小削栗神社、本國帳、小削栗神社、天神と云、  
 今ハハ幡と  
 称、次集説、小削栗神社、神名抄曰、栗刺俗云、久利乃以加、  
 三例、永八月三日、ハ

大社としてあり、ハハ幡を削栗に  
 を授けし、今、四島の字にあり

**檜栗山徳法寺**

同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 天竺宗、ハハ幡を削栗に、  
 天竺宗、ハハ幡を削栗に、  
 天竺宗、ハハ幡を削栗に、  
 天竺宗、ハハ幡を削栗に、

改む其、上人、ハハ幡を削栗に、  
 改む其、上人、ハハ幡を削栗に、  
 改む其、上人、ハハ幡を削栗に、  
 改む其、上人、ハハ幡を削栗に、  
 改む其、上人、ハハ幡を削栗に、

**上郡駒**

奈良村、ハハ幡を削栗に、  
 奈良村、ハハ幡を削栗に、  
 奈良村、ハハ幡を削栗に、  
 奈良村、ハハ幡を削栗に、  
 奈良村、ハハ幡を削栗に、

**永昌山観音寺**

同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、

**神明社**

同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、

尾張國、  
 尾張國、  
 尾張國、  
 尾張國、  
 尾張國、

**名産竹箆**

同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、  
 同村のり、ハハ幡を削栗に、

此、  
 此、  
 此、  
 此、  
 此、

作りと、  
 作りと、  
 作りと、  
 作りと、  
 作りと、

作りと、  
 作りと、  
 作りと、  
 作りと、  
 作りと、

後本の、  
 後本の、  
 後本の、  
 後本の、  
 後本の、

少、  
 少、  
 少、  
 少、  
 少、

又朝日、  
 又朝日、  
 又朝日、  
 又朝日、  
 又朝日、

常、  
 常、  
 常、  
 常、  
 常、

熱田の、  
 熱田の、  
 熱田の、  
 熱田の、  
 熱田の、

組、  
 組、  
 組、  
 組、  
 組、

小、  
 小、  
 小、  
 小、  
 小、

て、  
 て、  
 て、  
 て、  
 て、

**勅額山長幡寺**

赤、  
 赤、  
 赤、  
 赤、  
 赤、

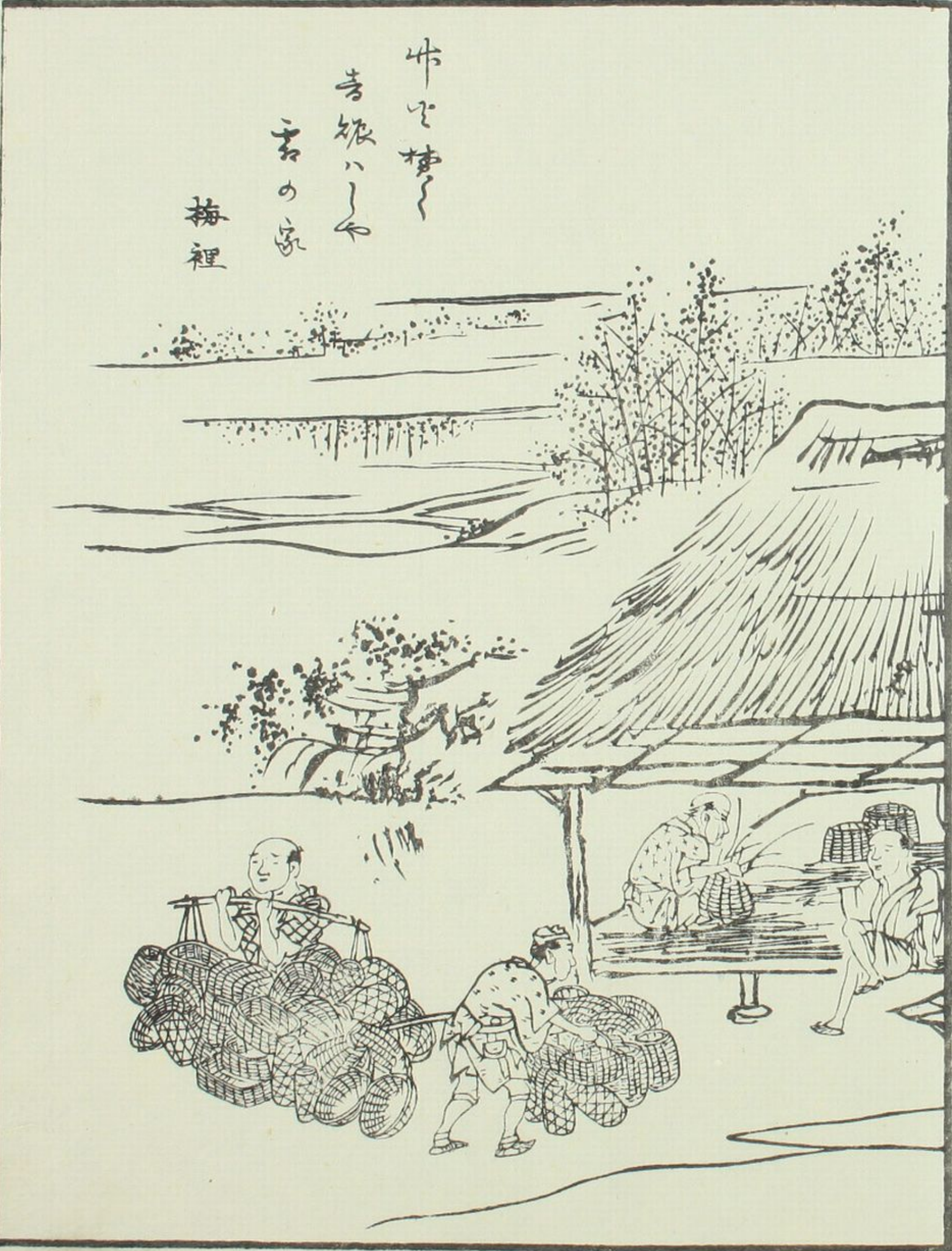
作、  
 作、  
 作、  
 作、  
 作、

子、  
 子、  
 子、  
 子、  
 子、

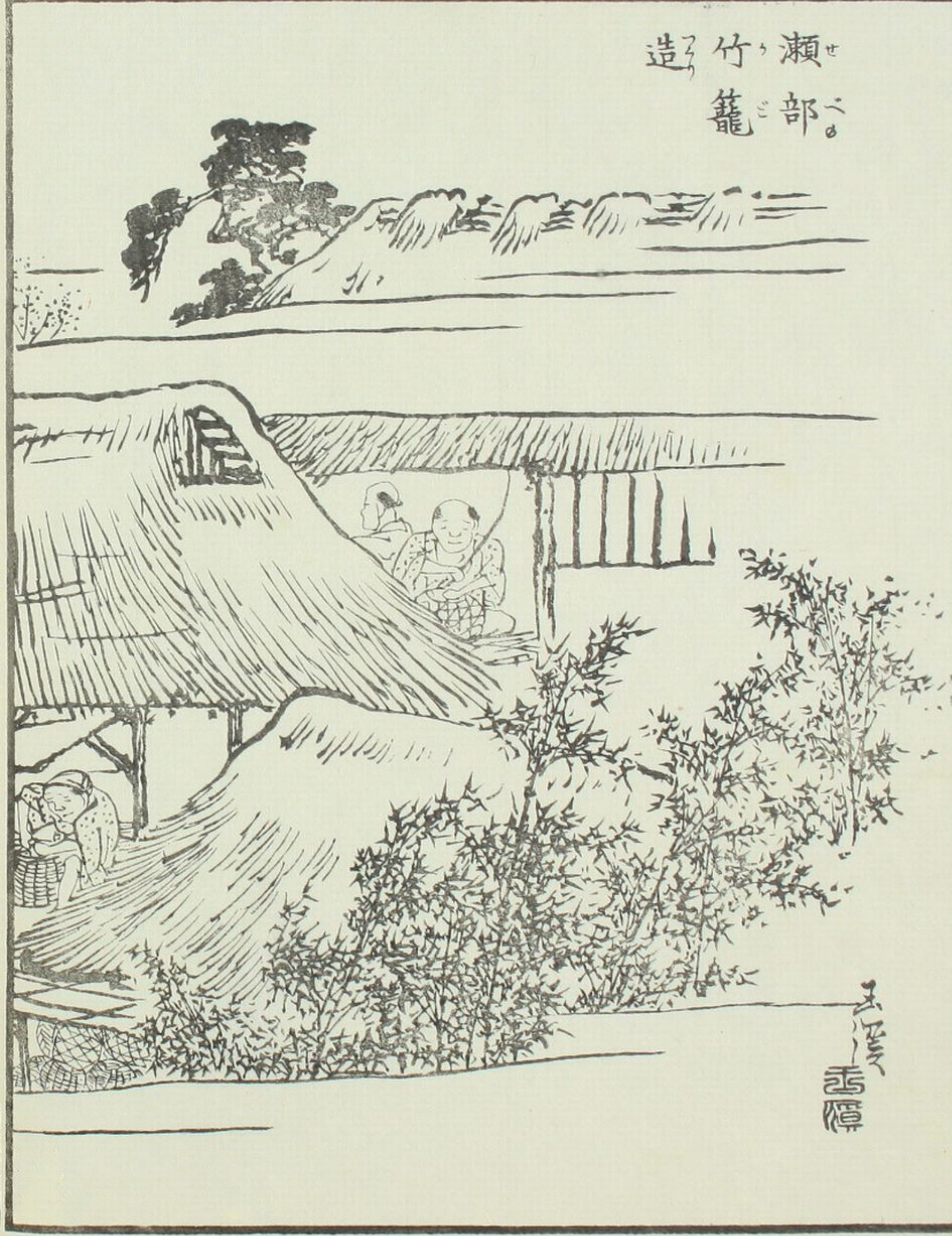
**伊賀々原神社**

本、  
 本、  
 本、  
 本、  
 本、

竹と竹  
 寺娘ハ  
 家の家  
 梅裡



瀬竹の造  
 籠部



香障

小従三位伊賀々原天神と云侍り奈津勢田大神宮也  
末社高藏社源大夫社等一り例祭八月十九日

### 高屋御厨

今ハ高屋御厨此ニ村と云神風抄ハ高屋御厨様代系三十寸赤曳糸菓子等と云  
蟹の料ハ又高屋村ハ神明神の境内ハ大杉ハ幾ニ大樹也  
近也教里ハ高屋御厨の境内ハ大杉ハ幾ニ大樹也

### 八幡社

宮後村ハ高屋御厨の境内ハ大杉ハ幾ニ大樹也  
三年宮八月十五日ハ例祭と云馬四疋と奉り獅子舞ハと云

### 若宮八幡社

社傳ハ云高屋御厨の境内ハ大杉ハ幾ニ大樹也  
と慶長御遷府の節高

疫神社ハ瑞籬拜殿透垣鳥居ハと云又此社内の砂と云安産の

守りとするに必矣験あり例祭八月廿九日  
安長村ハ一アありて女人形の祭一正あり是と沖田皇后と云は此ハ沖田孫の人の形と云

石枕里 石枕村と云ハ石枕と云ハ美濃の蚕井のせり高木新講の記通ハ大

石枕の本と云ハ又俗ハ石枕と云ハ美濃の蚕井のせり高木新講の記通ハ大

石枕の本と云ハ又俗ハ石枕と云ハ美濃の蚕井のせり高木新講の記通ハ大

石枕の本と云ハ又俗ハ石枕と云ハ美濃の蚕井のせり高木新講の記通ハ大

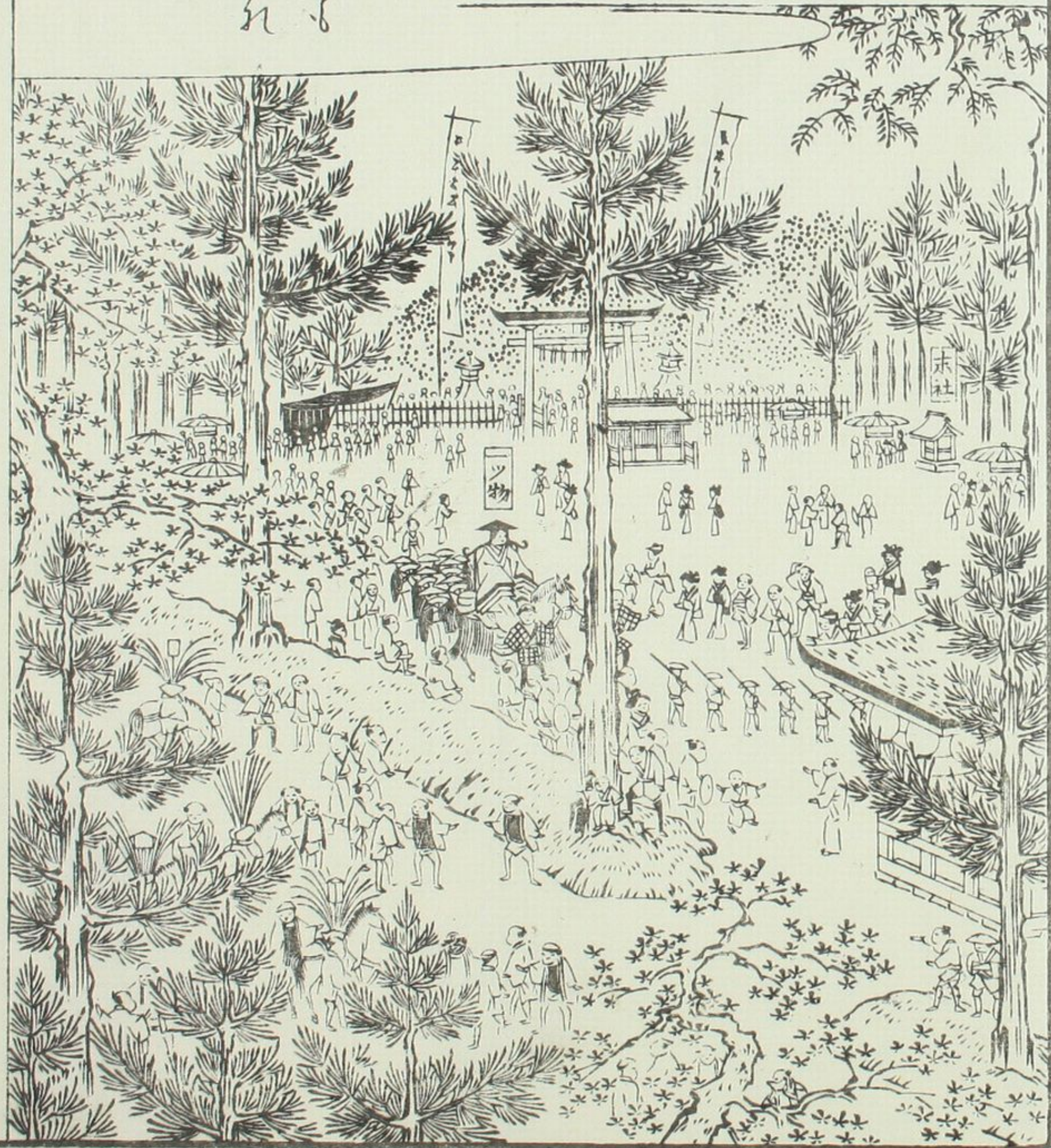
石枕の本と云ハ又俗ハ石枕と云ハ美濃の蚕井のせり高木新講の記通ハ大

### 高屋の大杉

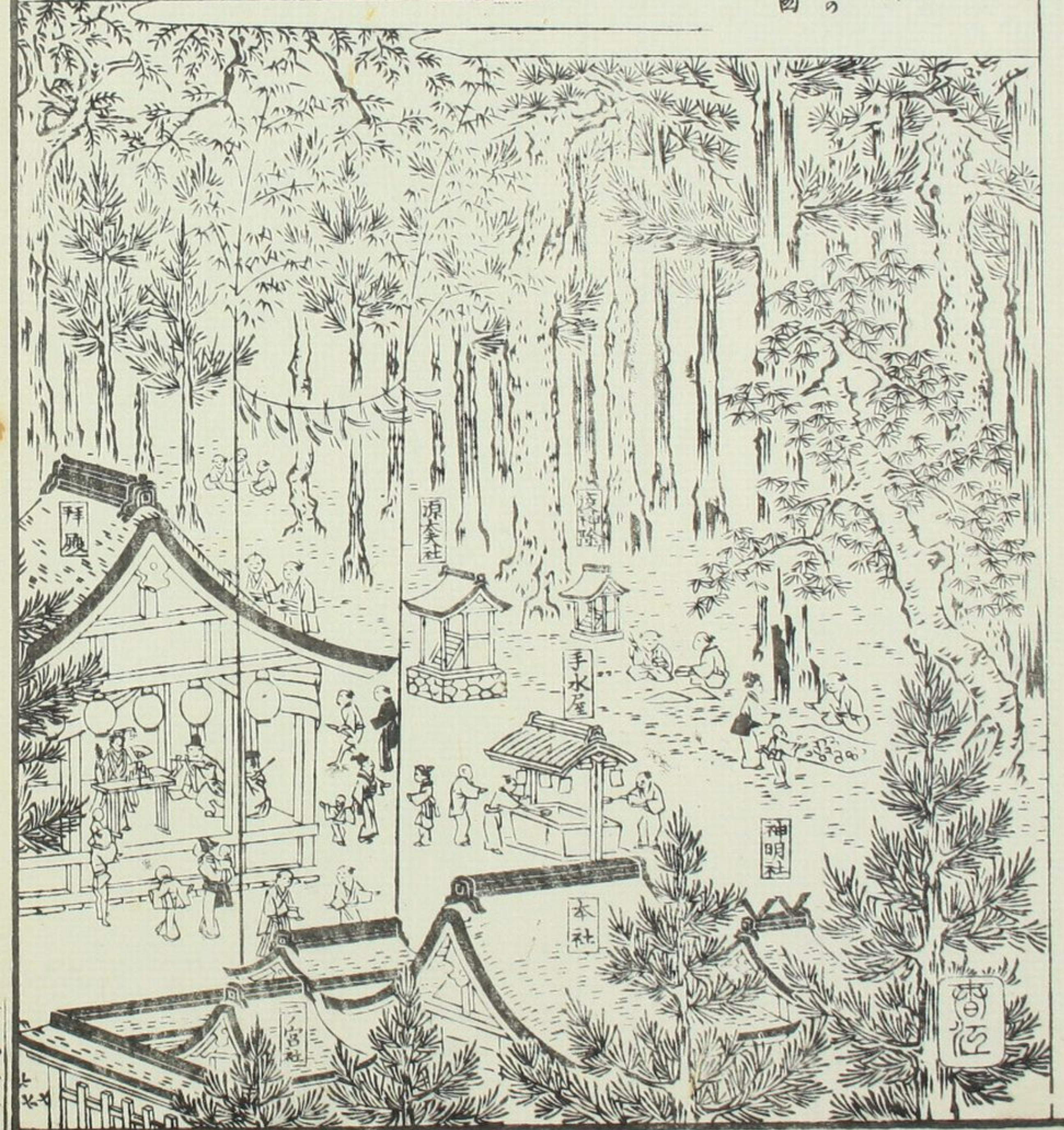


香徑

杉の  
まじり  
の  
旭湖



力長  
若宮八幡社  
祭礼の日  
安良の  
一物と季後十圓





石の花と限らざるに其花よりチ教し物取し屍を如くす事ありしが彼老僧死して其冥たんとす一けは里人いひて社とす之を後小橋前と改めて一村の生々沖と改まるとあり群書類従本の今川了俊の二言抄の奥書に曰此本就續善庵主瑞禪僧失重而不見之者也了俊自筆本其子孫今川彈正少弼方借出仍享德二年癸酉八月二日下差於尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**小口神社**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**吉祥山妙徳寺**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**小池氏宅址**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**大龍山徳林寺**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**開山寺より俗小山姥寺**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

け祥月忌日さつともう異僧よりて經典と讀誦一修一修と消  
失つて山姑物語小んりちちの開山壽岳和尚に安永二年己十月  
佛通清鑑禪師と勅号あり

**前刀舊里**

尾張氏の類し神八井耳命之後也と新撰姓氏録のち一氏蓋の事八續日  
本後紀の承和八年四月

**前利神社**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**山名里**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

**山那神社**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

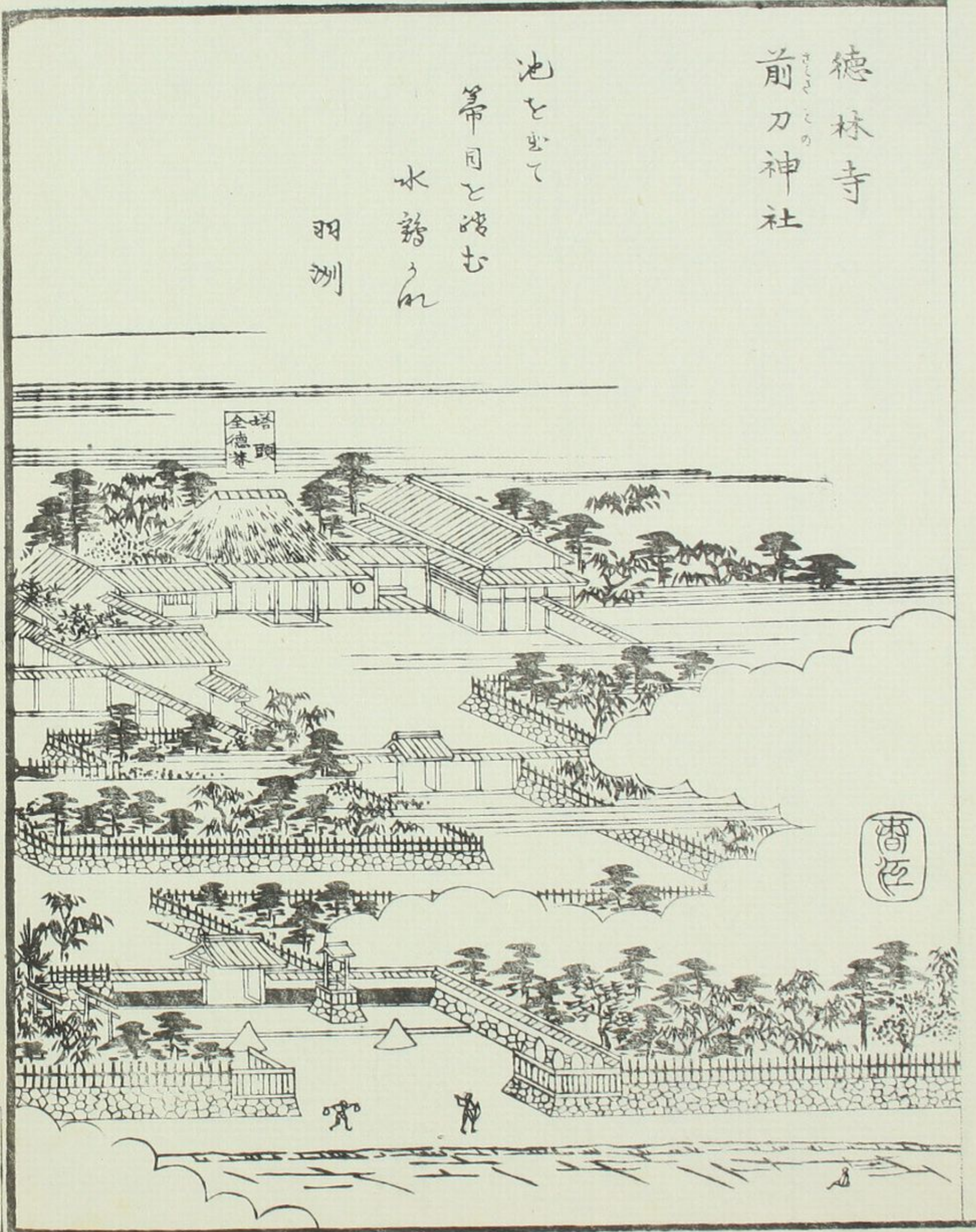
**金毛山龍泉寺**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

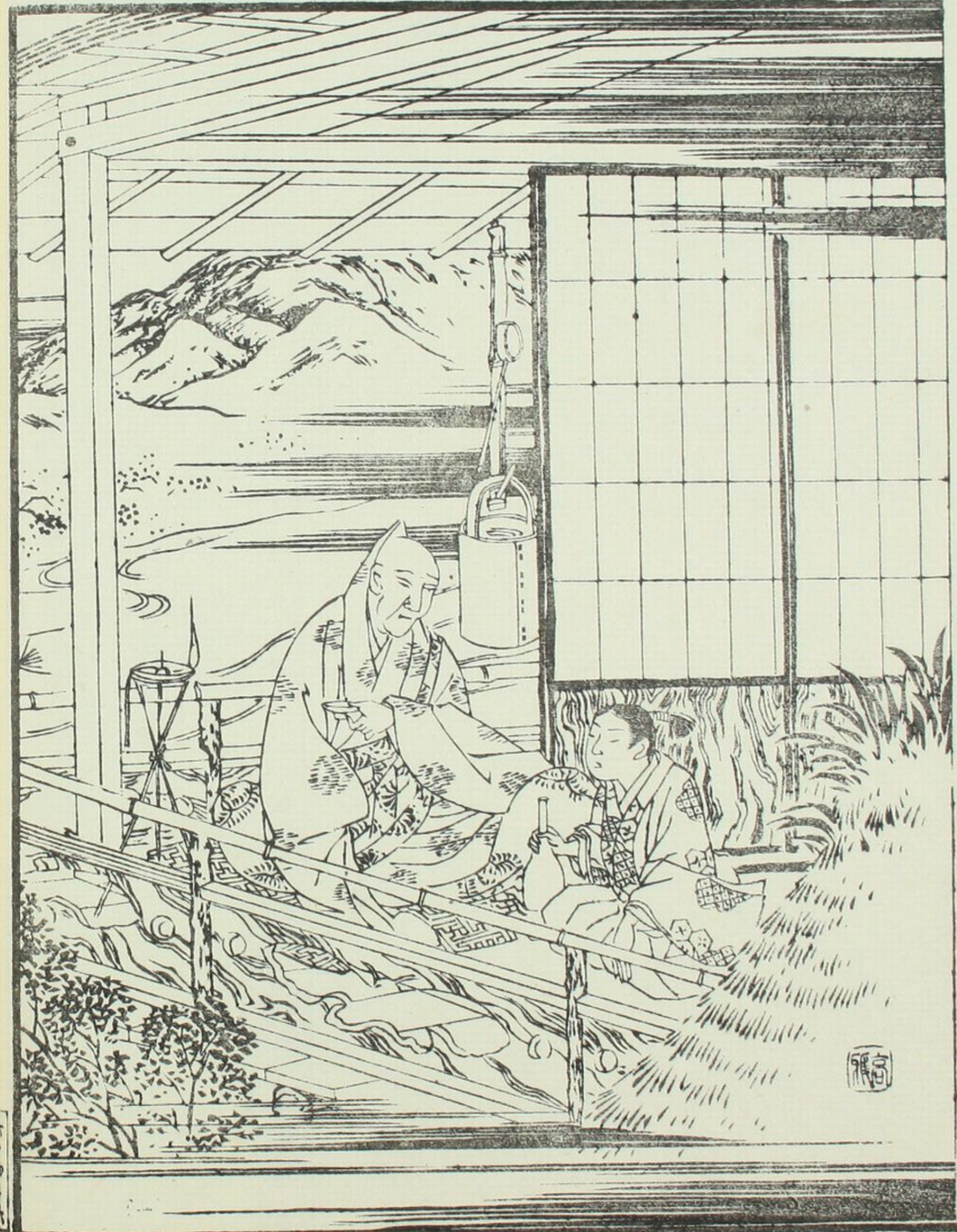
**大豆途渡**

尾州丹羽郡稻木莊岩杭郷吉祥庵二覽之依懇望桃井讚州之手跡也

吾孺道記  
あつたらやまの里んりちちの開山壽岳和尚に安永二年己十月  
に和寺尊海僧正



尊海僧正山名の  
里小宿の圖



義時湯倉の執権より、後鳥羽天皇の作と云ひ奉り、義久三年、長時と云ふ

下り、官軍とあり、義時が子と大將として東軍十萬餘騎上洛す、大炊時、大炊

多福山頭寶寺

尚の法嗣、受法、淳和九年、九月九日、建

般若

般若ハ古き御名、文和三年、四月廿三日、熱田御神領目録、般若

上沼下沼

野郷畠貳拾玖町、八反十歩、古き大名、文和

楳野天神社

下登、祭文、殿瑞籬、透垣、渡殿、拜殿、鳥居、御供井、

託美神社

同村、延喜神名式、託美神社、本國帳、從三位

金華山覺王寺

同村、佛濟宗、都妙心、末、永正七年、庚午

木津間

同村、佛濟宗、都妙心、末、永正七年、庚午

犬山

當國の、北の、極、里、其地、小、廣、北の、方、岐、種、川、小、

嚴重

嚴重、大城、聳、其郭の、東南、西、小、縱、横、の、町、建、士、農、工、商、の、家、

軒

軒、神、佛、閣、覺、其、外、面、小、中、切、大、本、町、内、田、余、坂、木、

下

下の、五、邑、市、街、皆、犬、山、と、惣、名、次、足、利、家、の、所、由、斯、波、武、

衛

衛、の、家、領、此、犬、山、妙、法、院、法、親、王、家、莊、園、領、

康正二年

康正二年、造、内、裏、段、錢、并、國、役、引、付、小、妙、法、院、御、門、跡、領、尾、州、一、橋、余、坂、段、

錢

錢、と、わ、る、も、此、地、の、事、り、け、宮、の、御、領、知、の、由、縁、り、南、朝、の、宗、良、親、王、も、

忠

忠、び、て、け、地、小、

宗

宗、良、親、王、は、地、小、

宗

宗、良、親、王、

乾

乾、峰、城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

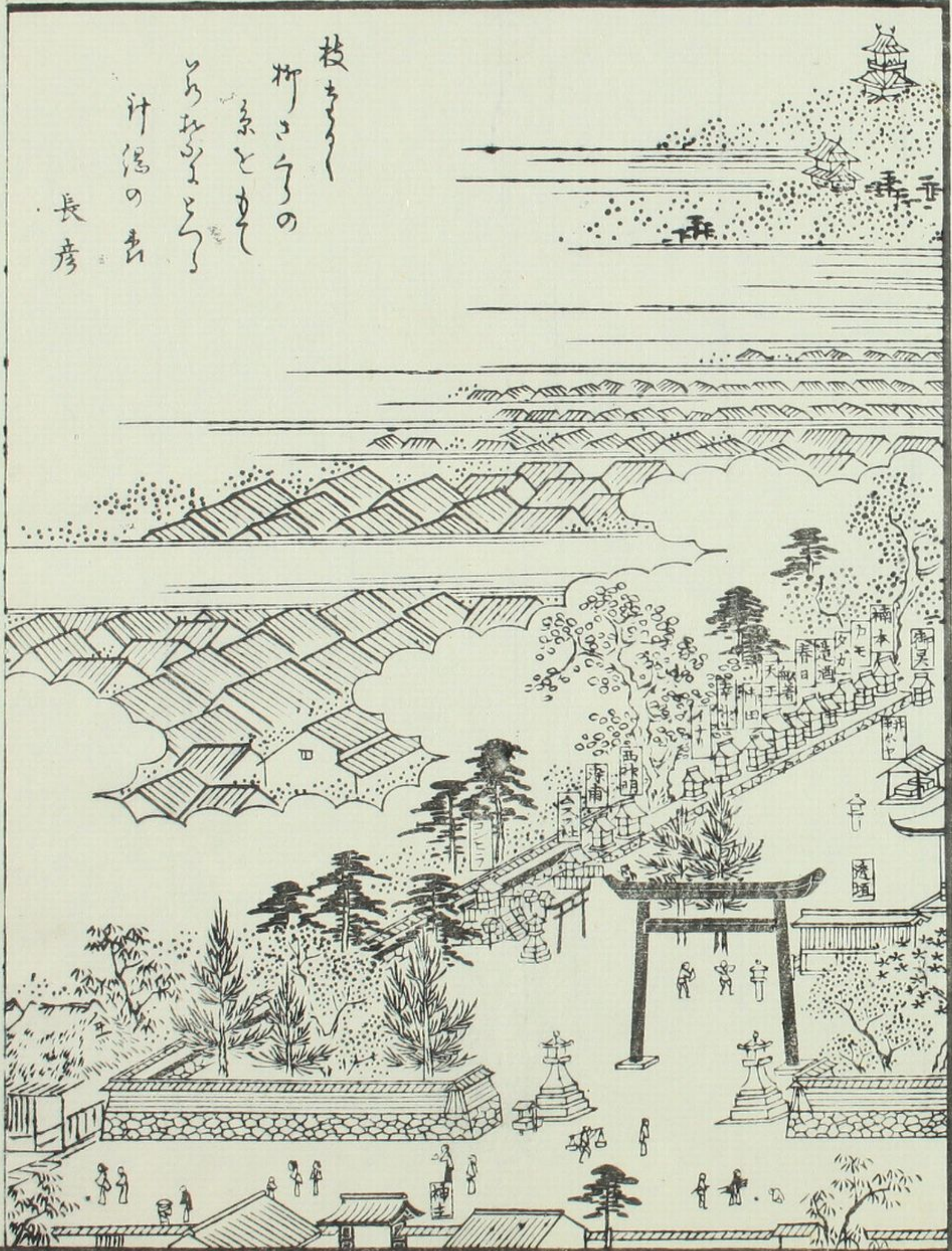
城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、

城

城、陸、虎、小、部、少、心、寺、三、世、の、住、僧、死、因、禪、師、犬、山、の、号、と、改、名、乾、峰、と、



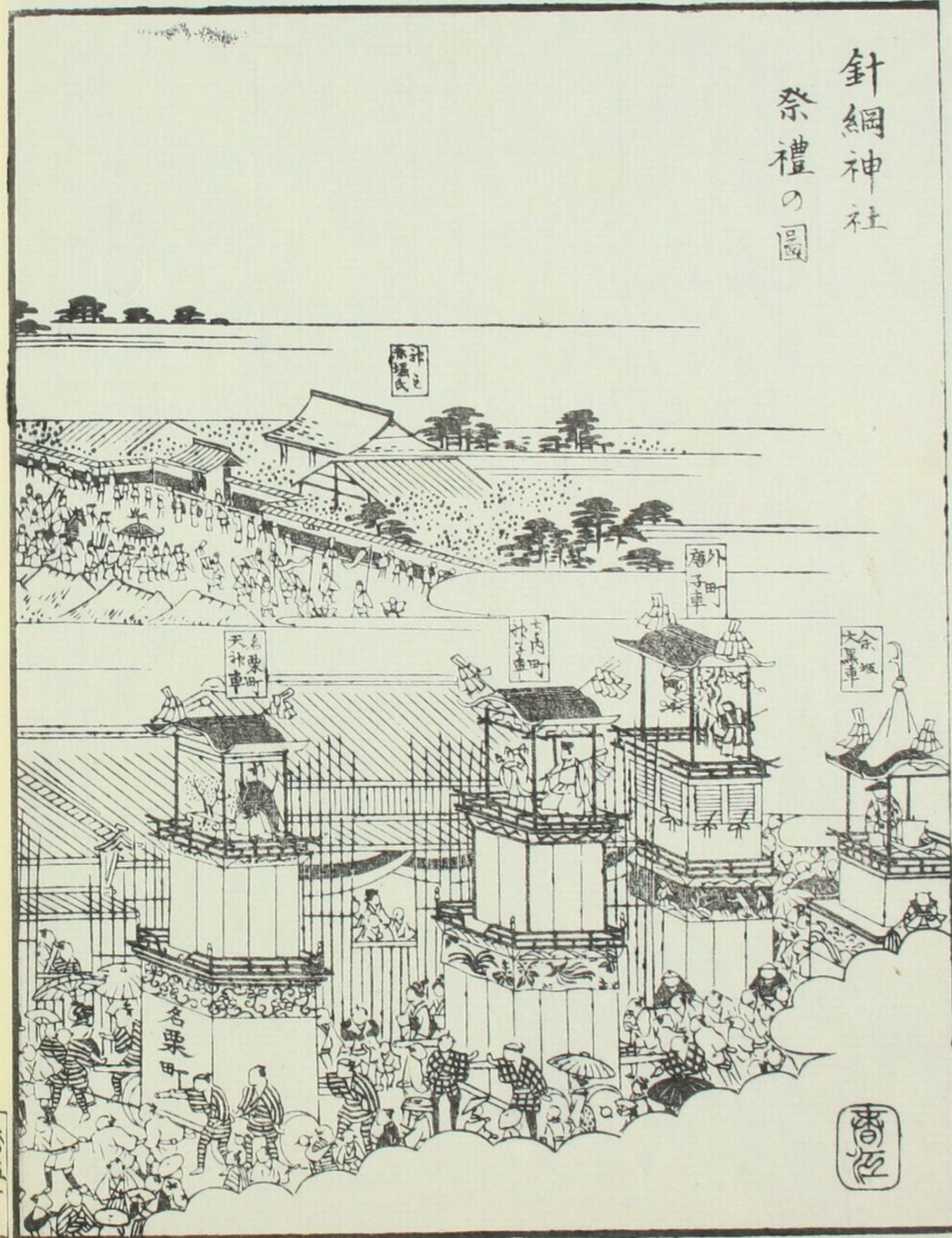
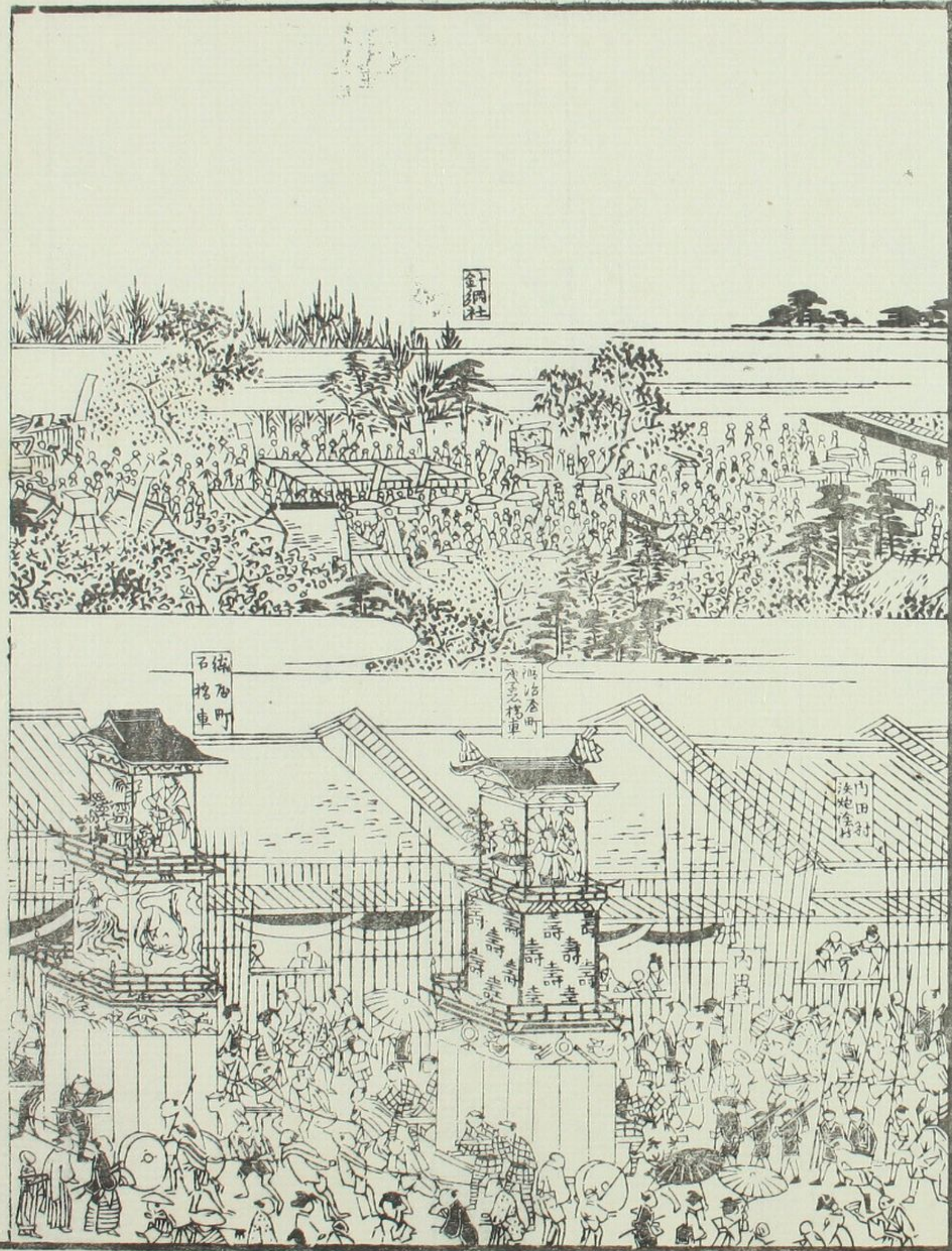


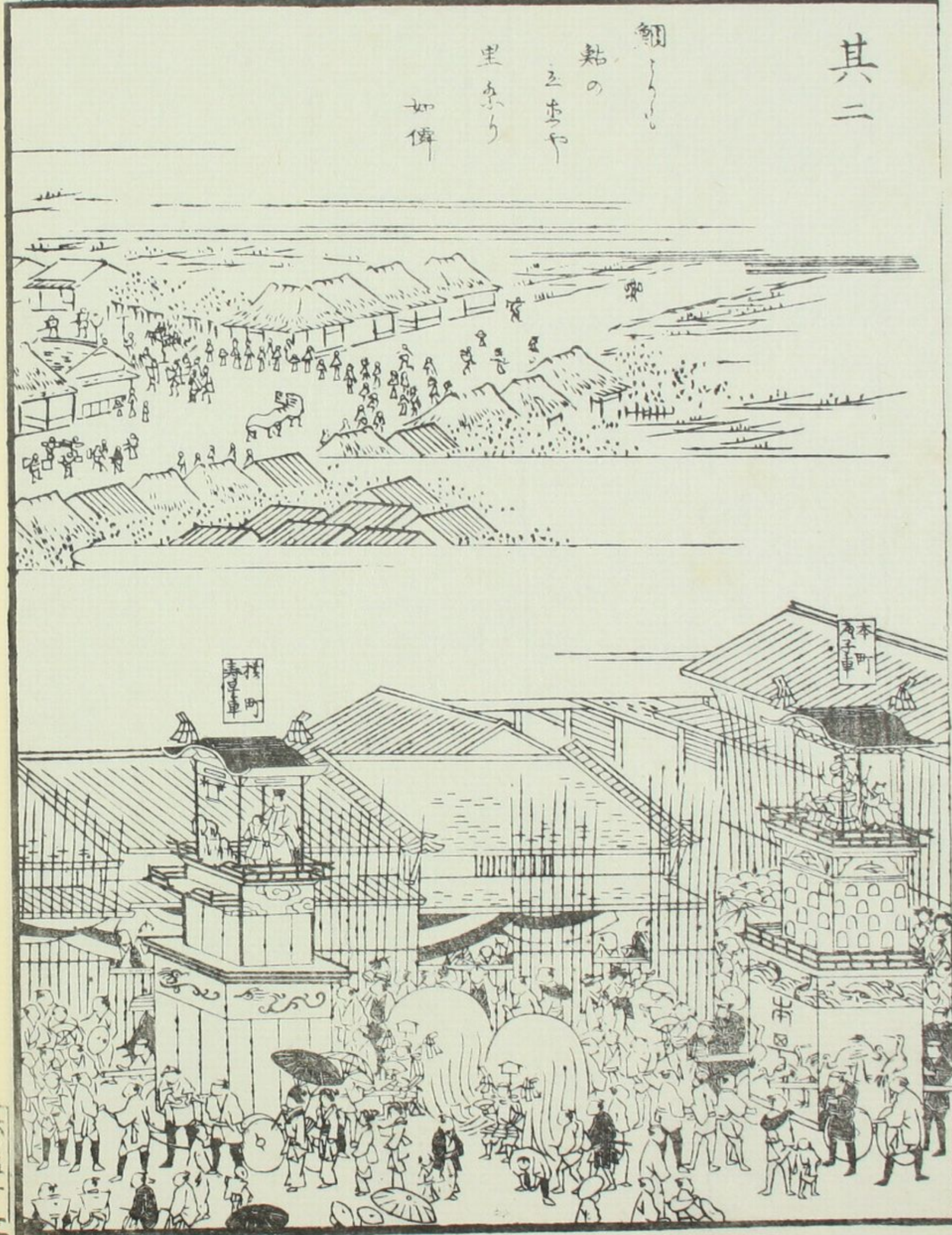
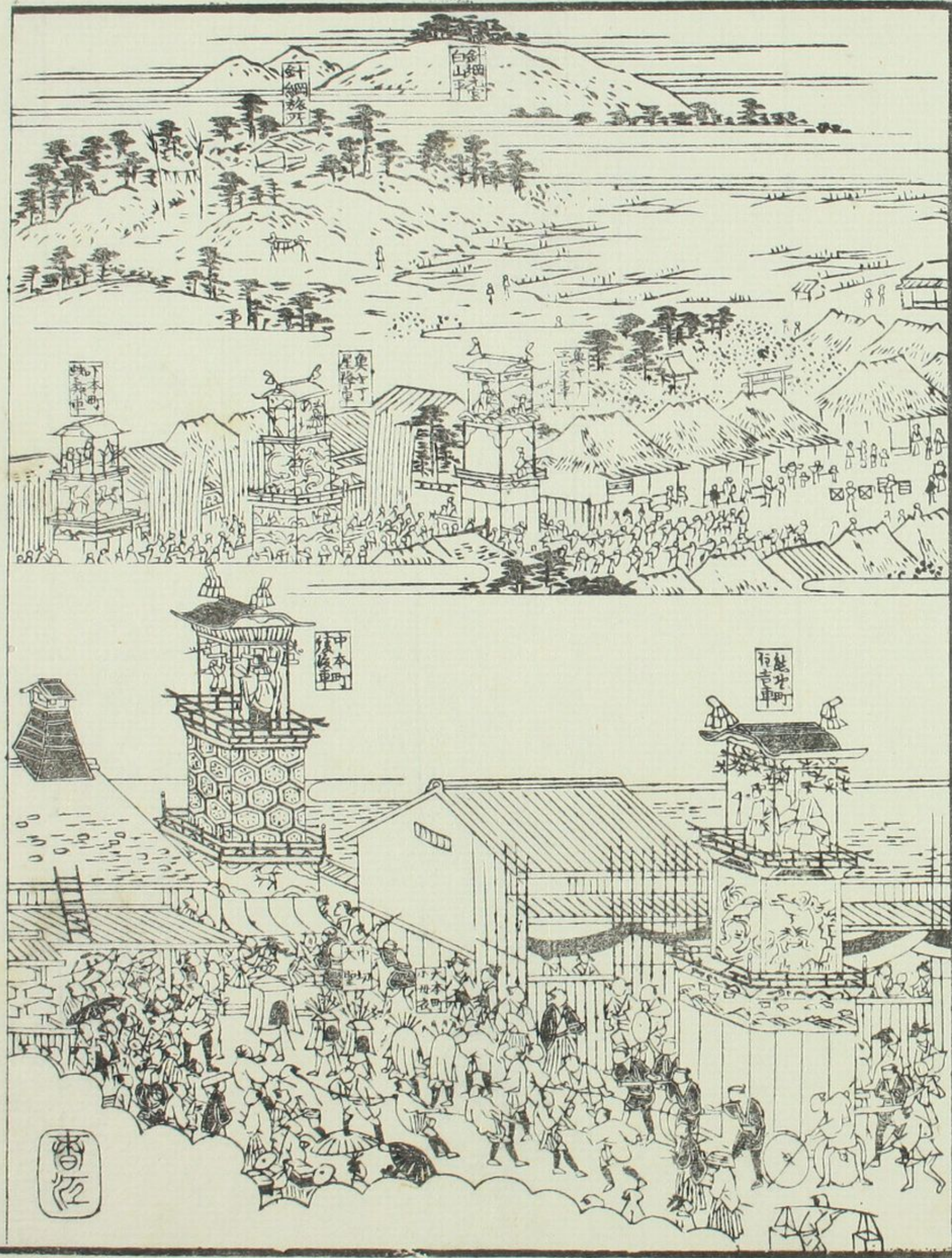
枝まき  
 柳さくらの  
 系とまじ  
 とあはれよと  
 汁徳の表  
 長彦



針網神社  
 天地とまじ  
 河ぬ  
 うまの  
 まき  
 鳥丸大納言  
 先祖御

香印







日光登山道記

日光登山道記 日光登山道記 日光登山道記

部々々々のあちも此の如くは... 石井大納言 行宣卿

名産 忍冬酒 徳屋町和泉屋... 焼酎のやうに作る其の後...

名産 芍薬 南府の所産... 形も大なり其色鮮紅...

名産 刀器 同所小鍛冶職... 多く刀鍛其外小刀...

日輪山常満寺 大木町小鍛冶... 浮林もあまらう...

一部山専念寺 同所小鍛冶... 同所小鍛冶...

神護山先聖寺 外町小鍛冶... 黄蘗派の...

鶉飼屋町 城の西の方本... 鶉飼屋町...

了義山徳授寺 同所小鍛冶... 徳授寺...

愛宕社 木下小鍛冶... 愛宕社...

青海山薬師寺 同所小鍛冶... 薬師寺...

一翁山妙感寺 城の東方... 妙感寺...

犬山焼陶器 妙感寺の北... 焼陶器...

花散澤 丸山の西... 花散澤...

岸蘆汀草借香新一澤清波浮玉塵三月東風春欲

日野前大納言資受卿

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

日光登山道記

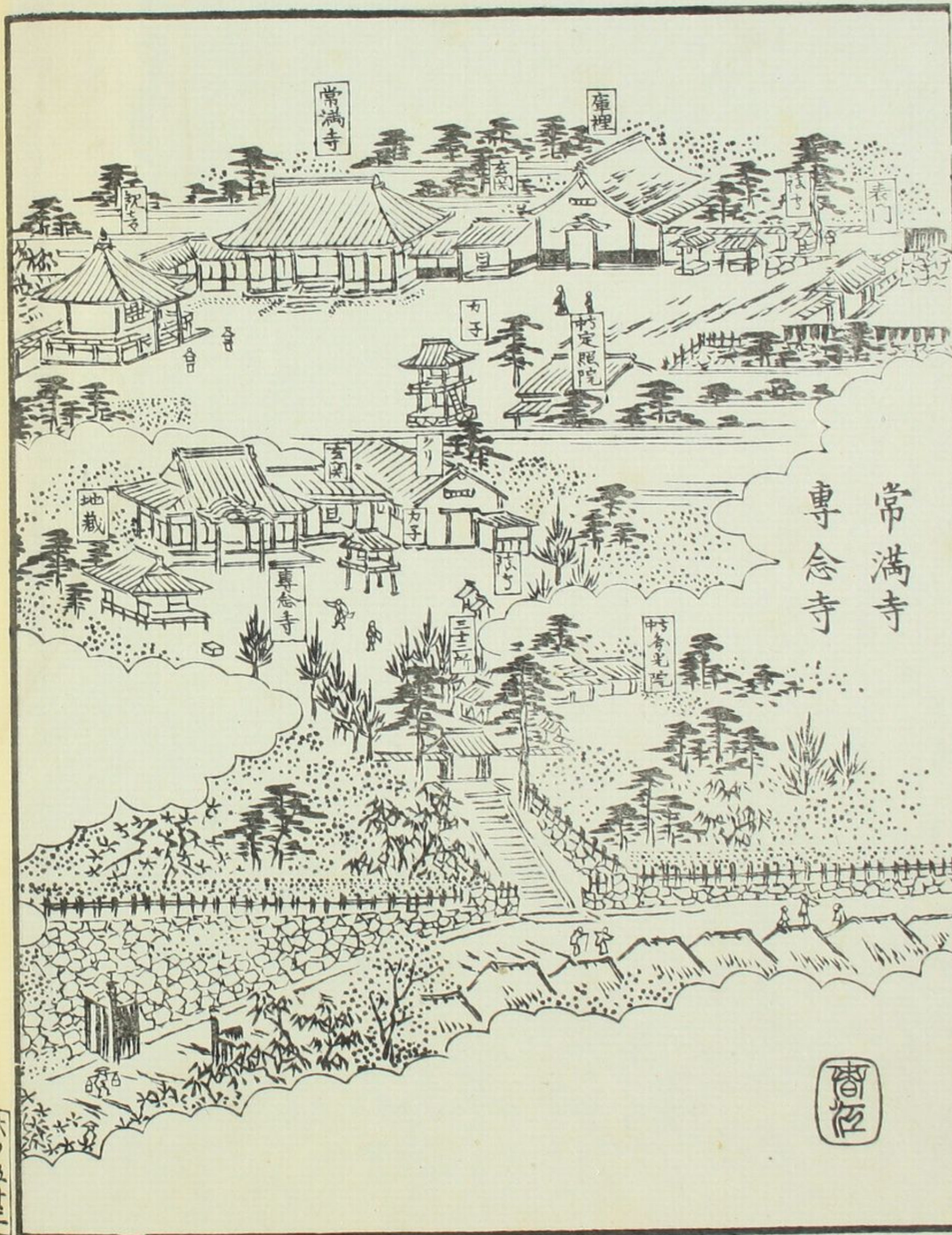
日光登山道記

日光登山道記

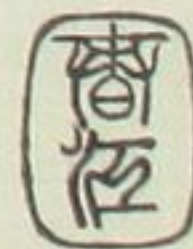
日光登山道記

放雀集  
 一路通幽處登攀  
 不復難客來宜避  
 暑泉咽坐生寒花  
 雨亂香閣醒翻滿  
 玉盤寧同河朔飲  
 落日足清歡

僧圓純

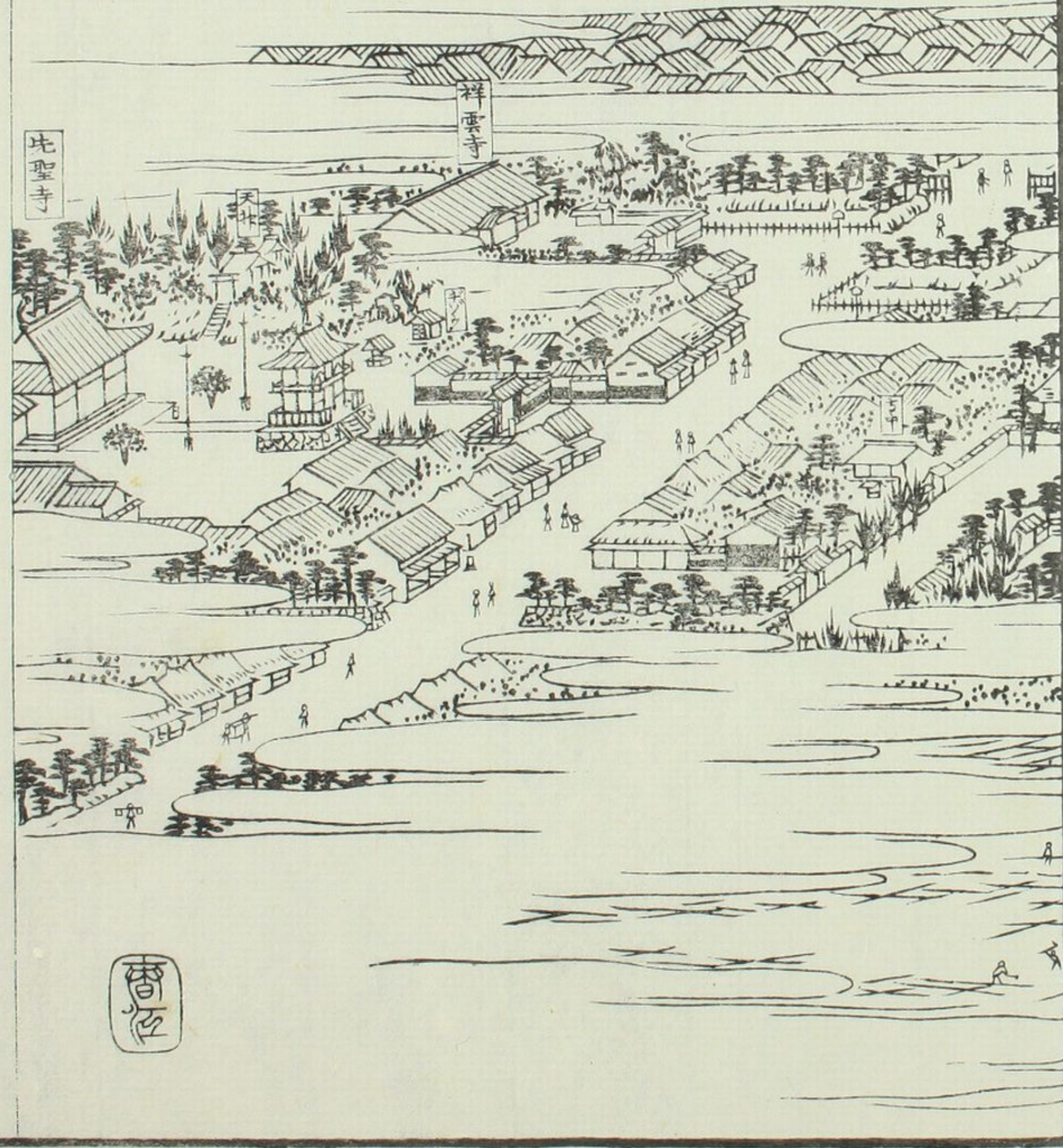


常滿寺  
專念寺

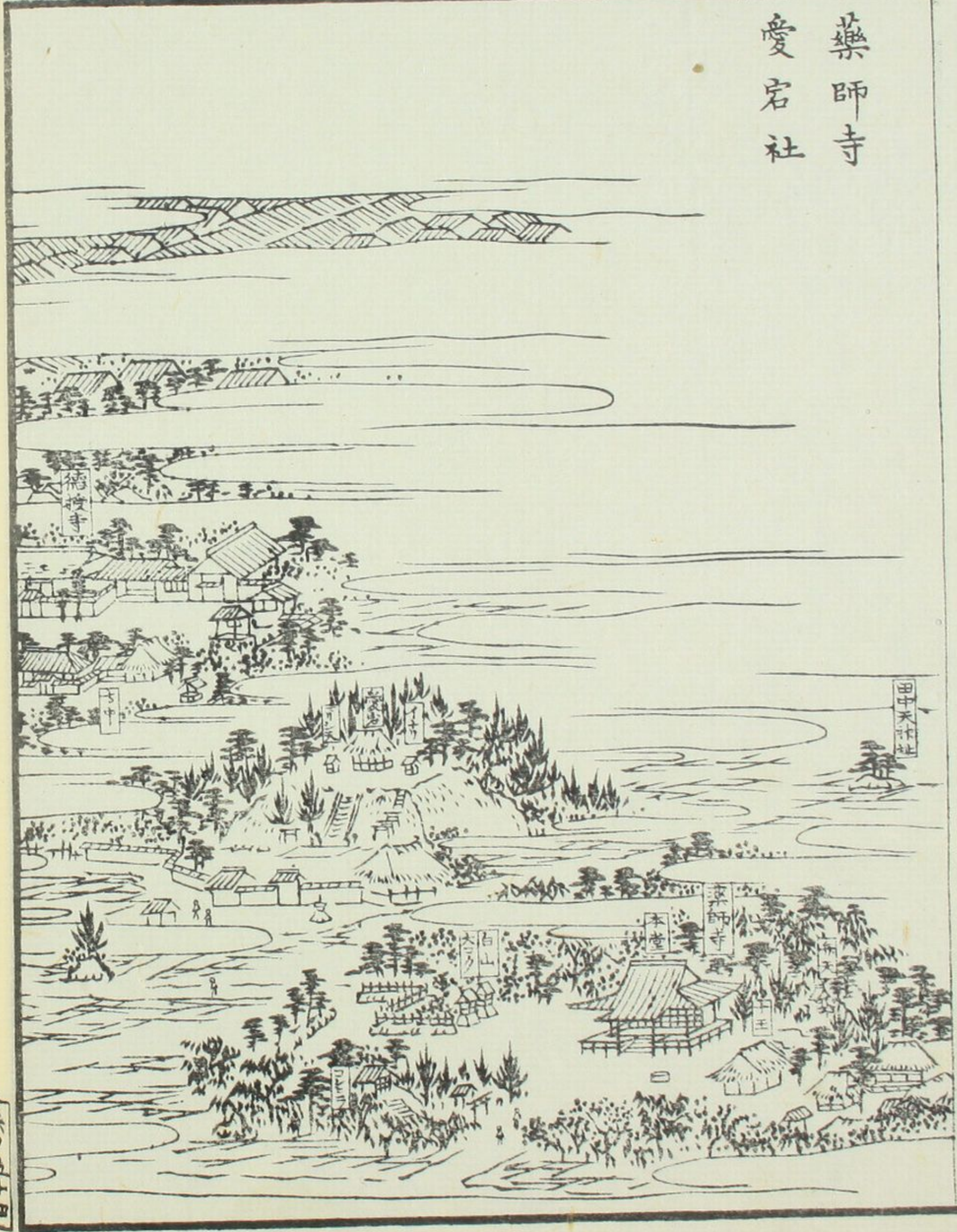


德授寺  
先聖寺  
祥雲寺

尾州先聖寺  
有贈 僧南源  
東遊年 僧南源  
欲造先聖殿  
直造古名場  
門對玉城近  
川赤玉帶長  
問禪多勝士  
衛法現金湯  
繼述前人志  
還地挺特郎



藥師寺  
愛宕社



山はくさきりのちれりる花はるはの名とよき  
名山ふりていふやんきき花散乱のけり  
はて見むらむらしむらふきくふらふはの春うき

鳥丸前大納言  
光祖卿

外山前宰相  
光實卿

外山修理權大夫  
光施卿

青龍山瑞泉寺

内田小方隆濟宗  
赤井心寺末

應永二十二年妙心寺の日峯和尚あり

と建立して其師匠宗因無因禪師と開山して日峯尚ふ小末を  
継鹿尾山おぼして或山寺小寓宿一 大藏徑と披閱する事多年あり  
しふ山下に住り里民多其道德小ゆ山と附屬一寺と營建して  
和尙と住しむ舊此山よ水乏しり師居任わくく道徳小  
りて耳泉湧出次これふりて瑞泉寺と號し扶桑禪林僧室  
傳ふんり日峯名ハ宗舜藤原氏京都西嵯峨の人妙心寺第四  
世の任職少く文安五年正月廿六日寂と 日峯ハ其字ハ  
張の産りて平姓荒尾氏り妙心寺の授翁ハ万里小路藤房入道隱

遁して任職せしむ其法嗣と受て妙心寺に任職し應永十七年六

月四日八十五歳と遷化の妙心寺六祖傳ふるり無因りり

尚ふ出生の人と師もいりりて尚ふの祖と仰げ抑當山

と本堂方丈客殿等の諸宇山腹小列し塔頭其左右の岩壁山阿ふ

遠くしる景趣比類ふく壯観して瑞泉十境の目りり所謂

大白峰 西の方伊吹山 萬松閣 西の方各務野 西江水 西北の方木曾 十八灘

石頭城 内田沼の向 宿龍池 方丈の後小 昆明池 境内小 壺龜

廟鎮守社 雲夢澤 方丈の後 扣玄室 方丈と 等々 ○本堂 4つ 虚空

鐘樓 中門の南 上鎮守社 境内小方系沖 下鎮守社 境内小方系

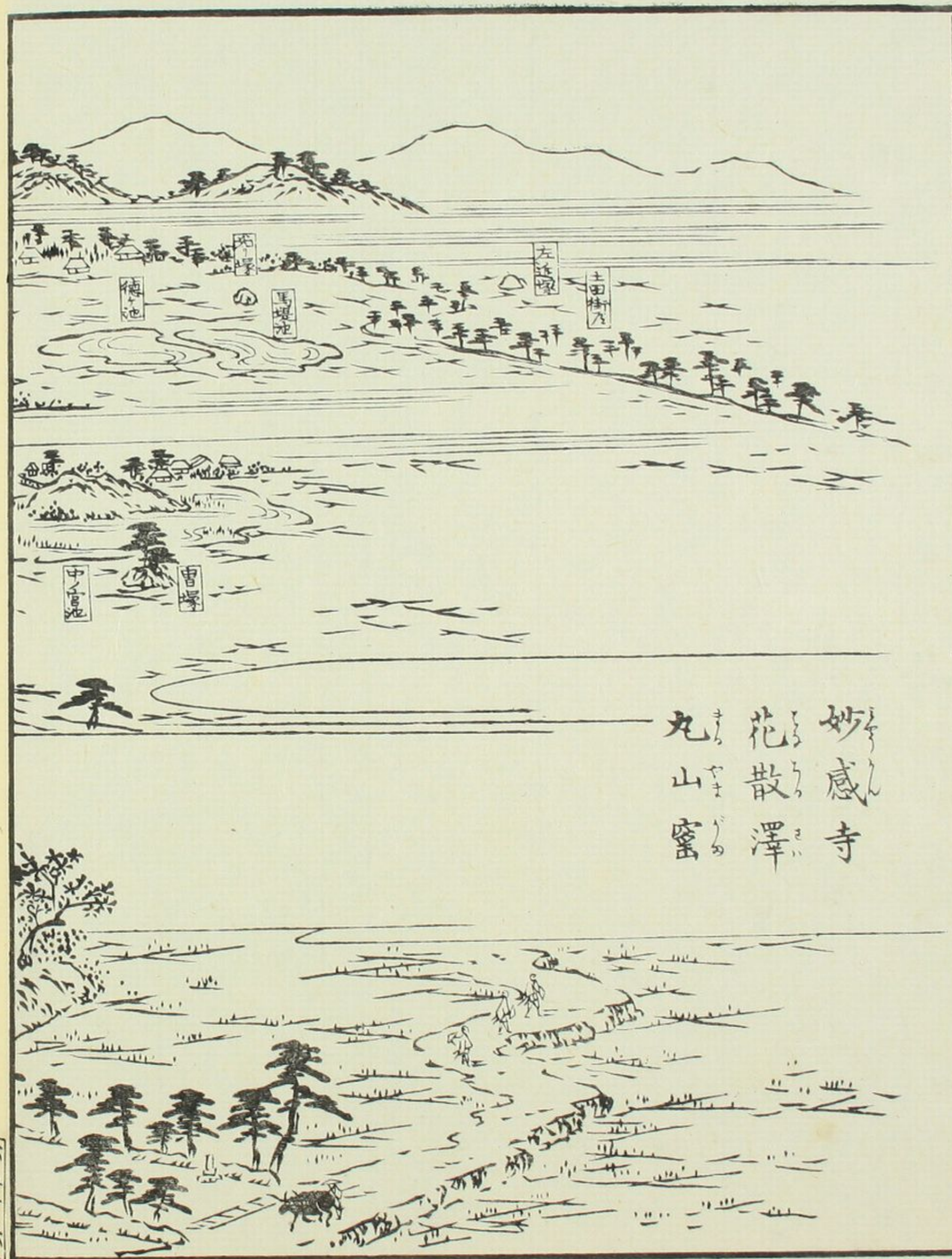
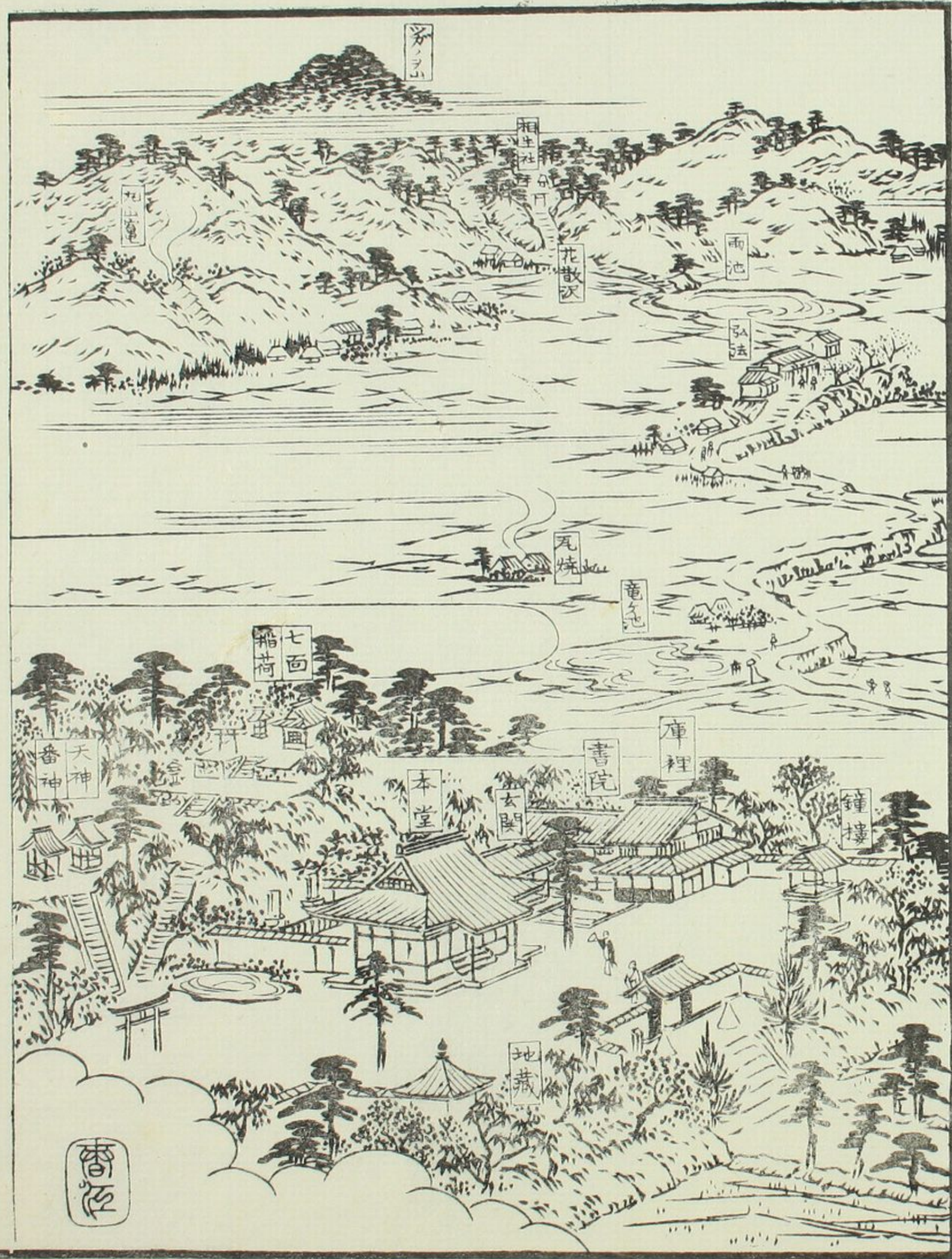
賀神天道宮 靈室 無因和尚墨蹟無因和尚画像 墨堂 日峯和尚画像 尚贊 雪江 文殊 晋

師墨 塔頭龍泉院 應仁二年景川の建立あり 卧竜菴 文正元年悟溪の建立あり

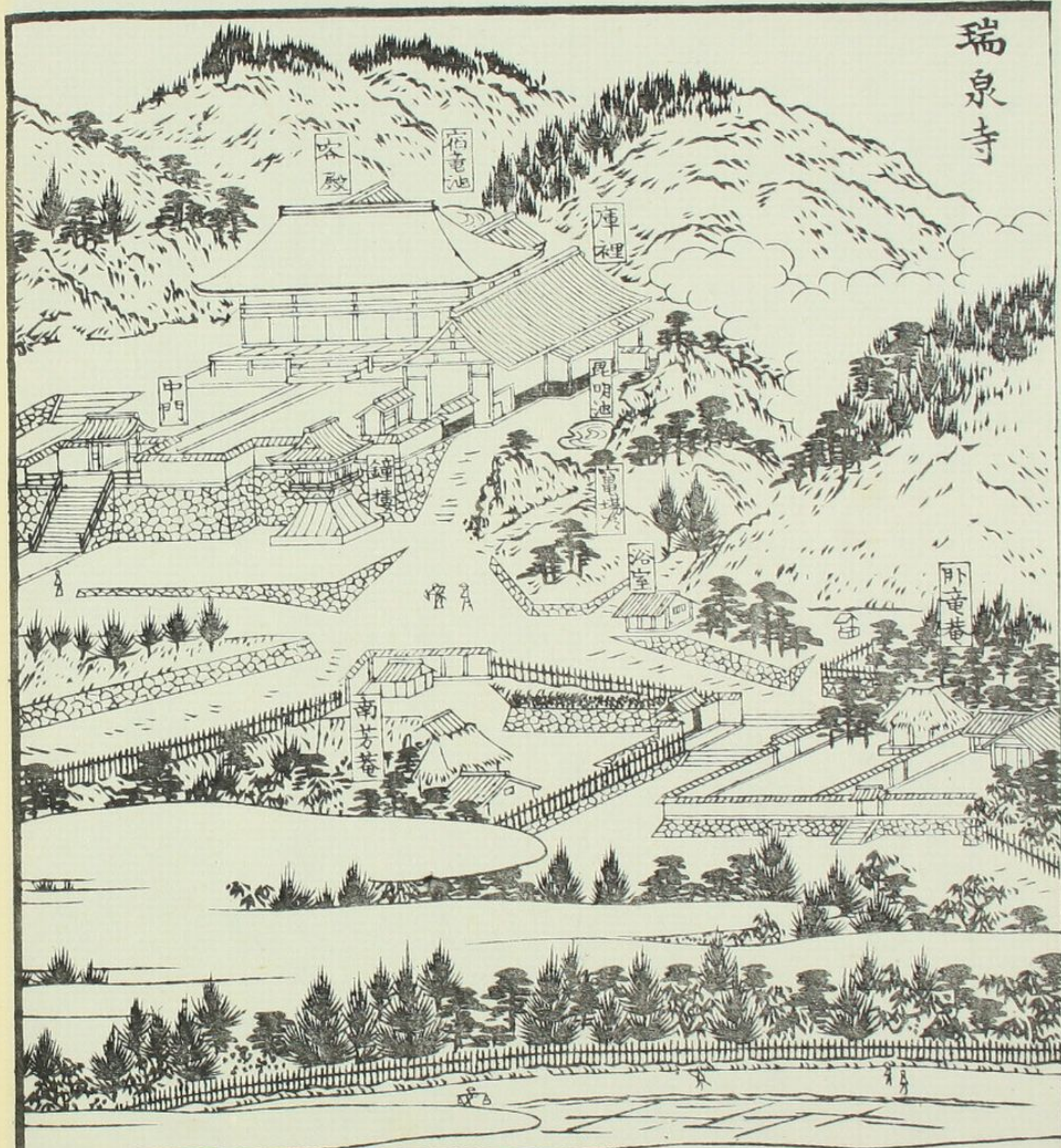
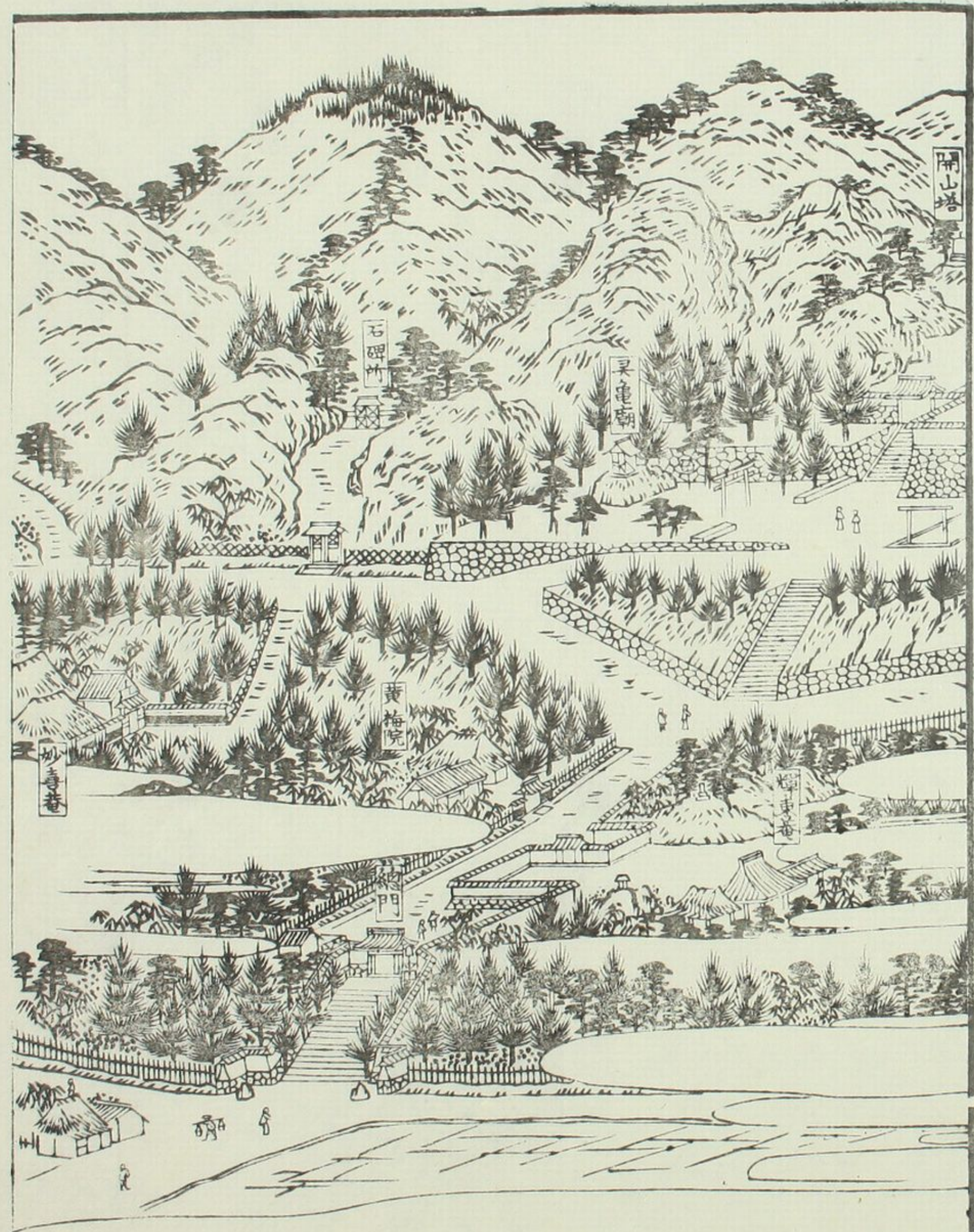
輝東庵 文明元年特芳の建立あり 臨溪院 文明十四年東陽の建立あり 瑞泉寺隆濟の

四流と稱し開山師の古傳あり 雪江和尚の直傳あり 此れ妙心寺の規矩とちり官事と 黄梅

稱し又後者と号し景川悟溪特芳東陽の四大和尚ハ晋く世人の知る大徳の禪師と



妙感寺  
花散沢  
丸山蜜

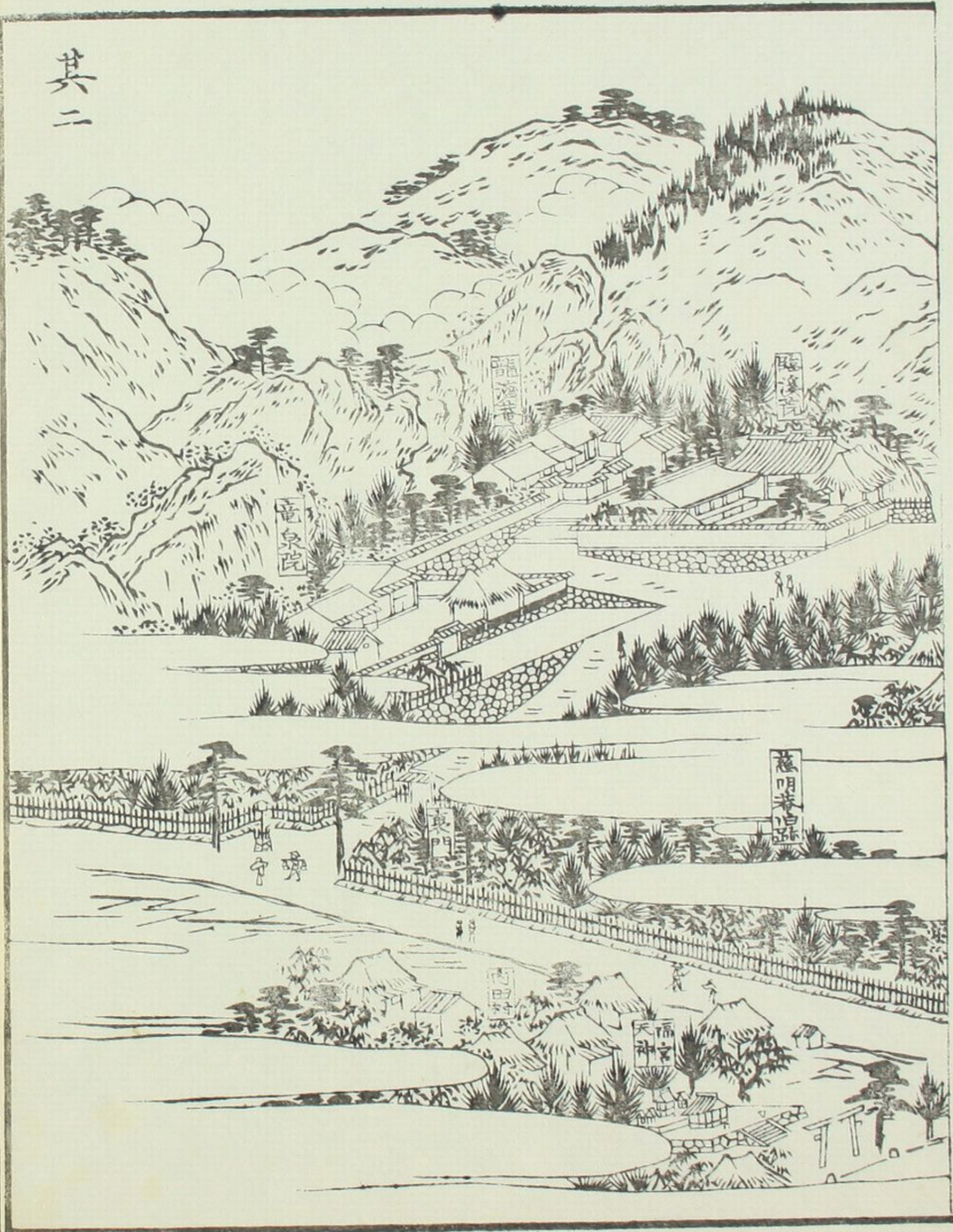


瑞泉寺

閑步道遙登  
瑞泉宿龍池  
上得詩禪青  
松綠竹紅塵  
絕又訪高僧  
入扣玄

文州





其二

院

永享七年義天の建立し

龍濟菴

宝徳二年雲谷の建立し

妙喜庵

永享十年義天の建立し

南芳庵

文明十七年天經の建立し義天雲谷天經ともに世々名を傳へて其の傳へたるの終りて石川信前公の書簡多し

寺領

秀吉公の御朱印より打てり性高院君及び因祖君の御黒印より打てり

梅光親筆  
數畫 風 赤 前 輩 倫 只 今 翁 獨 面 猶 春 洛 花 亦 待 來 級

日 五 鳳 樓 前 眼 一 新

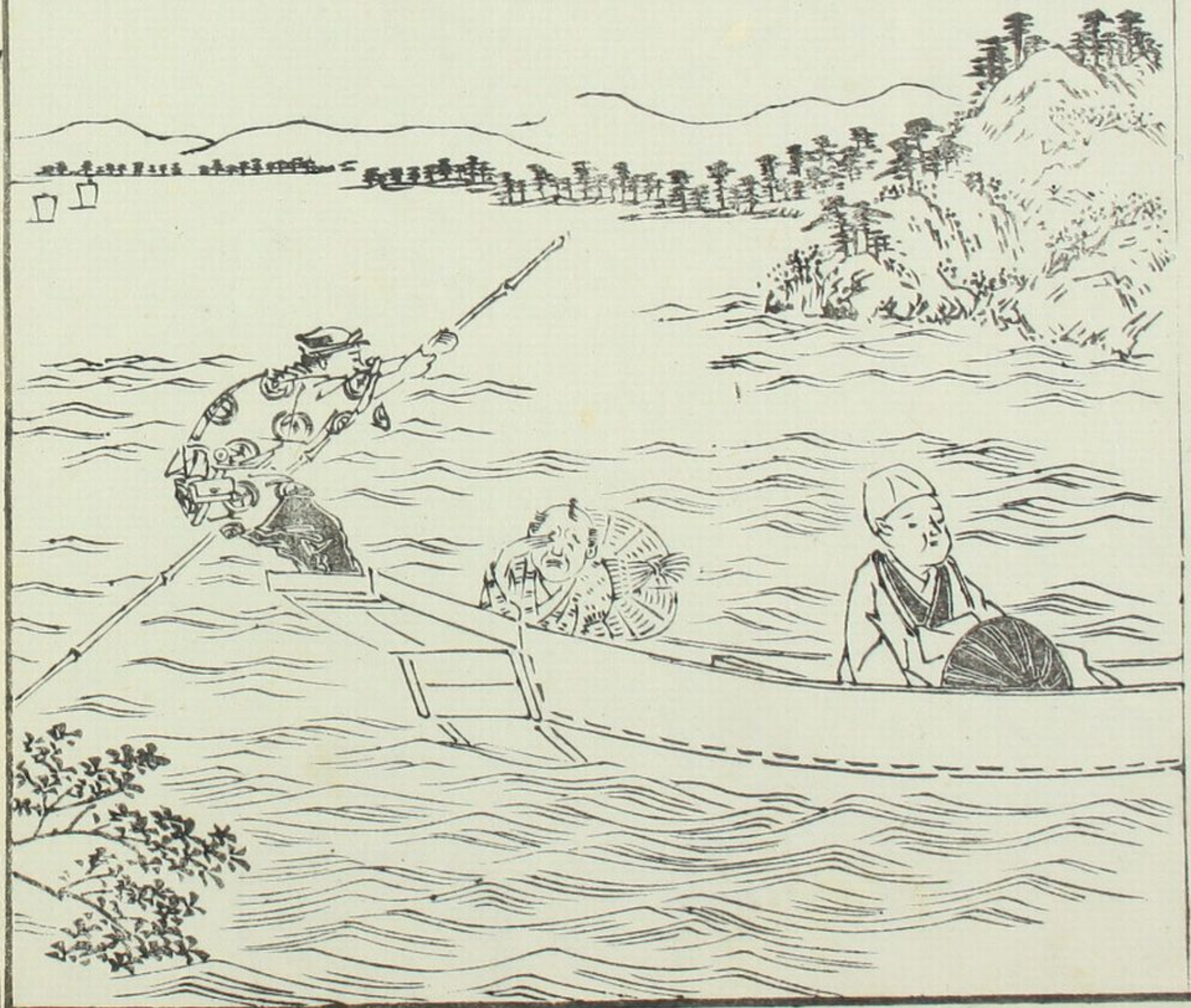
内田渡

内田よりある川を渡り美濃國各務郡諸村一づく羽流一づく河白ひの羽流の珠山の後り尾より羽流川のまに續日本紀にも尾流川九折の後りのついで守留馬より中島郡赤松川のまに續日本紀にも尾流川九折の後りのついで守留馬

狝犬山といふ名義の遊獵の業より起るる名めて鹿狩鷹狩等小深山廣野小入る時必狝犬と具く鳥獸と返出させ是と射ると要し次々小山野に狩獵すると大山と名づると舊本今昔物語語小より今城下町並廣く大山と名づると大山と名ぶ地の東南數里小豆の甚廣大なりふり九尾鹿尾栗栢の山又樂田村小つげ嘉都の地羽黒村今枝村の地と大山とも大山庄ともいふ事申むの書籍にも

丈艸遊世して  
故郷と去る圖

丈草の犬山藩中内儀某の子あり  
常に継母に侍りて至孝ありし武防  
指のうやをありて武事なりしに  
家と舟小嫌に位と辞し元禄元年  
利安一玉堂和尚の禪をとりし  
此時廿七歳なりしなり文政小通臣  
侍久まの種族成平に侍りて武防  
と号し芭蕉翁に侍りて俳諧の名あり  
遁世の傷みく多年負家一瞬牛化做  
蛤蜊得自由火宅最堪泥沫盡追尋  
法而入林丘と欲しきなり流しはつと  
まのやうにれんがのついでまをりし  
あつてまをりし武防の法に侍りて  
栗津の童、圃の菴と結びて俳諧を  
口うけ芭蕉翁と開祖と号し元禄三年  
一月に侍りてまをりし武防と号し  
其の十帖に侍りてまをりし武防と号し  
今同の堂 其頃春櫻の許に美濃の水因り  
と友し 風雅な侍りてあつた高里の秋と  
いふなり 梅のあもりし武防の法あり

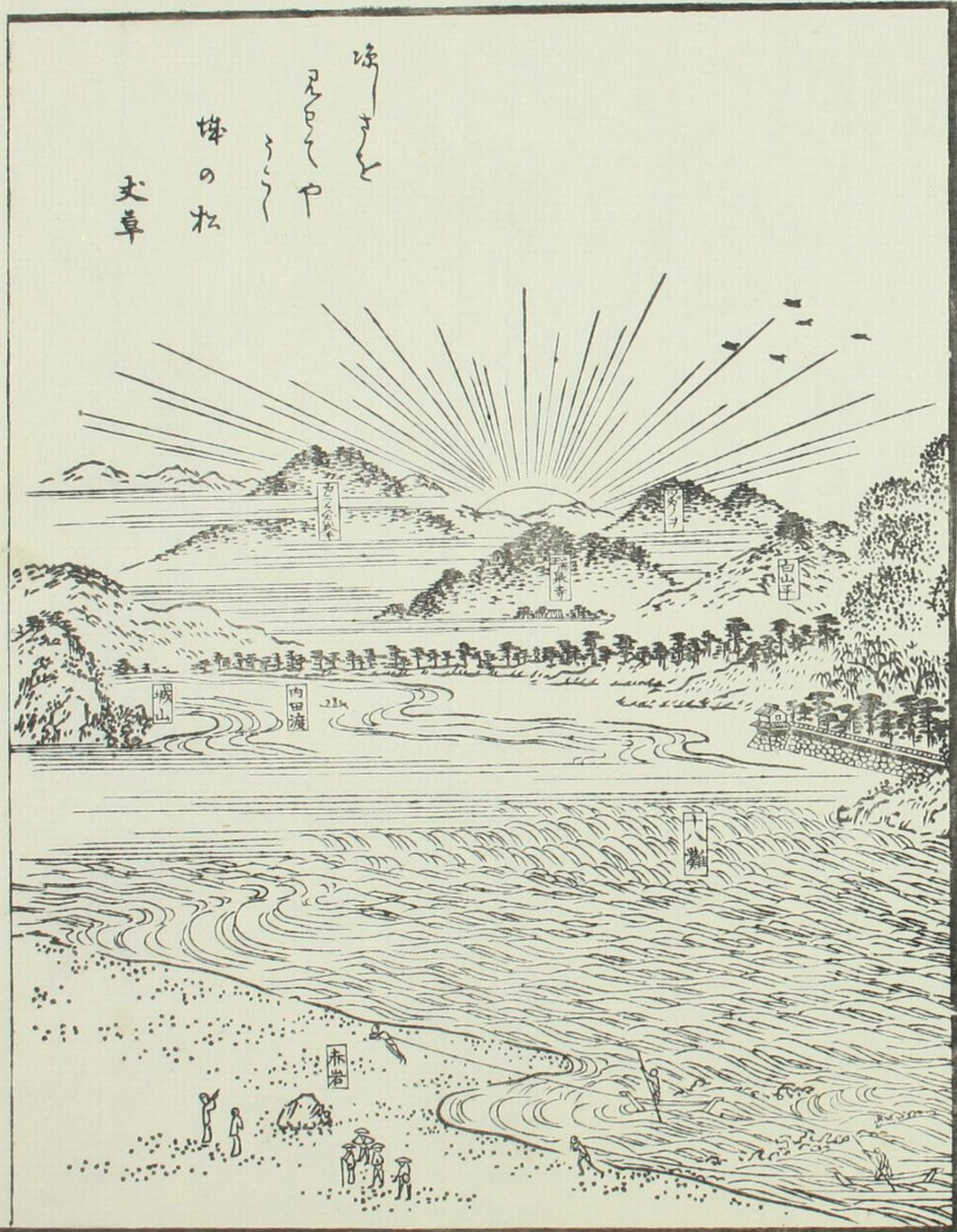


海くやいし 看とありしに 其は  
元禄十七申年二月廿四日十三歳にて  
童の園に死す著述白集 鹿時著あり  
ひ人の傳 白梵菴馬関 龍丘集及び  
近世時人傳 仙家寺人談等あり  
たり 又暮の瑞泉寺あり



丈草





涼き  
 夏  
 城の松  
 文章



岐蘓川北岨より  
 乾峯城と望し圖  
 擬上白帝城  
 一從躍馬倚崖  
 鬼千古孤城煙  
 外開天末浮雲  
 空自在中原秋  
 色為誰來瞿塘  
 返照隨行幔赤  
 甲晴嵐落酒盃  
 試向最高樓上  
 望可堪暮雨擁  
 荆臺  
 君山

香煙

志づゝんり夫らの地膏澤りて鳥獸棲やもく猪鹿兎雉  
 子等甚多しこもて古来より地頭の武家及び郷士等常々  
 遊獵と事し武業と勵むるに依りて其遊獵大山の業の  
 ついで地名もあつてついで頂の事りや今の如く五穀菜蔬  
 眞龍等不足しついで禽獸も乏しく飽富りて誠小豊饒比類  
 ちよと上と國と世小賞と来りてゆづり

尾張名所圖會後編卷之六畢

全部引書目録

日本書紀	古事記	釋日本紀	續日本紀
續紀金澤本	日本後紀	統日本後紀	三代實錄
古事記傳	舊事紀	類聚國史	日本紀畧
大日本史	本朝世記	統王代一覽	類聚三代格
類聚大補任	弘仁式	公式令	拾芥抄
職原抄	職原抄頭書	職負令	公卿傳
政事要畧	桃華菓業	官職秘抄	倭姬世記
古語拾遺	安居院神道集	神道聖旨類聚抄	神道聖旨百首抄
伊勢三所大神官神名秘書	皇宇沙汰文	伊勢大神宮儀式帳	大神宮諸雜事記
皇大神官年中行事	神家常談	神鳳抄	春日驗記
神祇室典	熱田本紀	一之宮記	二十二社注式
熱田正縁起	元々集	熱田大神宮鎮座次第本紀	永正六年熱田講式
熱田尊命記集説	尾張式社考	熱田大神宮神夏記	尾張国内神名帳
尾張式神傍證	大目神社藏本國體集本	神名帳頭注	參考本國體集
尾張式神傍證	樋河上天淵記	本國體集	萬津津島祭記
杵築社記	龜尾天王社縁起	時綱津島祭記	針綱神社縁起
若宮祭巨細記	市江祭記	中島官古縁起	水鏡
七尾天神縁起	統世継今鏡	曉風集	平治物語
榮花物語	平家物語	保元物語	東鑑
源平盛衰記		長門本平家物語	愚管抄

義久記  
 太平記  
 文正記  
 信濃官傳  
 織田軍記  
 戴恩記  
 甲申戰國記  
 賤嶽軍記  
 四戰記  
 王滿隱見  
 台記  
 康富記  
 十訓抄  
 皇胤紹運錄  
 國道國司略志  
 武家評林  
 豐鑑  
 勢列四家記  
 小野氏系圖  
 淺井系圖  
 大橋家譜  
 尾張人物志  
 義久軍物語  
 劍卷  
 南方紀傳  
 信濃官傳附錄  
 織田真紀  
 征韓傳畧  
 統撰清正記  
 武家高名記  
 聚樂物語  
 岩淵夜話  
 玉藻  
 百練抄  
 康正年造内裡段錢并国稅引付  
 新撰姓氏錄  
 尾張國司歷任畧  
 織田氏系圖  
 難波創業錄  
 稻葉系圖  
 加藤系圖  
 佐々傳記  
 長氏系圖  
 張列人物志  
 保曆間記  
 應仁記  
 甲陽軍鑑  
 總見記  
 當代記  
 天正記  
 朝日物語  
 那古野合戰記  
 盛長私記  
 塙本螢蠅抄  
 公事根元  
 麒麟抄同附錄  
 將軍家譜  
 尾張氏系譜  
 安土創業錄  
 信雄御從士分限帳  
 山田系圖  
 多羅世系錄  
 尊常系圖  
 鍛冶系圖  
 尾張人物志畧  
 神皇正統記  
 應仁略記  
 和漢軍談  
 信長記  
 太閤記  
 山證本桶積倉戰記  
 朝鮮征伐記  
 長久手戰記  
 老人雜話  
 懋舜日記  
 明月記  
 江談  
 西宮記  
 本朝武林傳  
 大宮司家譜  
 豐臣秀吉譜  
 福島正則家分限帳  
 津田系圖  
 紀氏系圖  
 富永系譜  
 先哲叢談  
 諸家人物志  
 大須本神皇正統記  
 鎌倉大草子  
 浪合記  
 重修信長記  
 小瀬南菴大圖記  
 金山事蹟考  
 編年要略  
 參考長久手記  
 關原軍記日薄  
 常樂記  
 園大層  
 尾張解文  
 比賣鑑  
 分脈系譜  
 歷名士代  
 豐臣家譜  
 唱叫留記  
 石黑系圖  
 森氏系圖  
 大中臣系譜  
 日本人物史  
 人物志補遺

人物掌覽  
 武德編年集成  
 名家時代指掌  
 小栗實記  
 九老尚齒會記  
 紀年大成  
 易林節用集  
 庭訓往來  
 真名伊勢物語  
 山姥物語  
 寬明日記  
 多門院日記  
 拾遺集  
 新古今集  
 新後撰集  
 新千載集  
 玄玉集  
 躬恒家集  
 山家集  
 雪玉集  
 藤葉集  
 新和歌集  
 人品集  
 武家英勇記  
 武話碎玉  
 義臣傳  
 國朝諫諍錄  
 和字正鑑抄  
 自遣往來  
 伊勢物語闕疑抄  
 異本山姑物語  
 初井日記  
 萬葉和歌集  
 後拾遺集  
 新勅撰集  
 玉葉集  
 新拾遺集  
 今撰和哥集  
 伊勢家集  
 拾遺愚草  
 黃葉集  
 後鳥羽院御集  
 六帖詠藻  
 藩翰譜  
 明德記  
 孝法秘書  
 奮事大成經  
 孝女曾與傳  
 元龜三年書寫字引與書  
 和名類聚抄  
 類聚往來  
 奮本今昔物語  
 山姥物語繪卷  
 夏目日記  
 萬葉仙覺抄  
 金葉集  
 統後撰集  
 統千載集  
 新後拾遺集  
 夫木抄  
 赤津衛家集  
 色葉集  
 舉白集  
 臨永集  
 兼盛家集  
 大同秀吉出生記  
 里人記  
 義朝最期繪傳  
 忠義士技書  
 孝女曾與傳評判  
 大須本和名抄  
 源氏物語  
 宇治拾遺物語  
 辨內侍日記  
 讀老日記  
 古今六帖  
 詞花集  
 統古今集  
 統後拾遺集  
 新統古今集  
 新撰六帖  
 月清集  
 明日香井和哥集  
 文布  
 隆信家集  
 現存和哥六帖  
 秀吉遺事  
 續武家兩談  
 義經記  
 近世時人傳  
 孝女曾與傳  
 下學集  
 新猿樂記  
 河海抄  
 因果物語  
 蜻川親元日記  
 御也の上の日記  
 後撰集  
 千載集  
 統拾遺集  
 風雅集  
 新葉集  
 柳本家集  
 拾玉集  
 柏玉集  
 鈴屋集  
 為家々集  
 朽葉集

散木并歌集  
 續現葉集  
 良玉集  
 水雲集  
 尾張八景和歌  
 長秋詠草  
 阿薰歌集  
 榮葉集  
 露月家集  
 統徒然草  
 歌枕名寄  
 名所今歌集  
 中古歌仙  
 袋草子  
 撰集抄  
 六百番歌合  
 天授元年五百番哥合  
 龜山殿七百首  
 建保三年内裡名所百首  
 新百人一首  
 千首和歌  
 類題若菜集

李花集  
 鏡門葉集  
 元可家集  
 老槐集  
 津島八景和歌  
 結捨の枕の華葉  
 蘿窓集  
 國基集  
 甲斐ヶ根集  
 僧止水柳井記  
 松葉集  
 名所和哥集  
 和歌部類  
 袖中抄  
 初まおひ  
 職人盡哥合  
 文明九年七月七百七首哥合  
 堀川百首  
 王鉞百首  
 師兼千首  
 類字名所和歌

草庵集  
 玄々集  
 鷗巢集  
 紫禁草  
 萬家集  
 八十浦の玉  
 さく枕  
 醉月園詠草  
 さかかつ  
 那濃利藤和歌集  
 勝地吐懷篇  
 鳴海名所和歌集  
 八雲御抄  
 藻塩草  
 延享二年公宴和哥  
 南朝五百番哥合  
 堀川次郎百首  
 海道宿次百首  
 寒中夜參百首  
 奉納千首  
 十六夜日記

統草庵集  
 炬範家集  
 仙院春日御夢想御法樂和歌  
 實枝卿家集  
 馬の行り  
 左幾久家集  
 木綿苑哥集  
 醉露庵集  
 扶桑拾葉集  
 慶長九年熱田奉納和歌  
 最勝四天門院障子和哥  
 新題林和哥集  
 清輔真儀抄  
 歌枕秋寐覽  
 宗祇秘中抄  
 康永二年五十四番詩哥合  
 自歌合  
 久安百首  
 嘉元仙洞御百首  
 勅撰千首  
 詠千首和歌  
 東関紀行

草根集  
 綾足家集  
 閑田詠草  
 御臣家集  
 繼塵集  
 重之家集  
 庵主集  
 正徹愚草  
 名所方角抄  
 伊勢名所拾遺集  
 新題題林和哥集  
 清輔雜談集  
 歌林拾葉抄  
 千五百番歌合  
 白河殿七百首  
 弘長百首  
 室治百首  
 為家千首  
 名所連哥千句  
 光行紀行

貞應海道記  
 東海道紀行  
 日光登山道記  
 尊海僧正吉妻道の記  
 更科日記  
 宗牧東国紀行  
 東国陣道記  
 狂哥真寸鏡  
 大發句帳  
 竜丘集  
 千鳥掛  
 嵐雪句集  
 熱田三詞仙  
 阿波手集  
 名所小鏡  
 曠野集  
 圖予ろ集  
 泊船集  
 徵誌録  
 本朝語園  
 幹林五鳳集  
 羅山癸未紀行

身延紀行  
 平安紀行  
 覽富士記  
 光廣卿あつまの道の記  
 為村卿紀行  
 宗長守津山記  
 宗長手記  
 かはころもの記  
 俳諧古渡集  
 春の日  
 留守懷紙  
 草枕  
 かこみ不二  
 青嵐  
 春秋樂  
 曠野後集  
 庵太集  
 前漢書  
 異稱日本傳  
 本朝文粹  
 梅華無盡藏  
 丙辰紀行

身延道記  
 廻国雜記  
 富士屋覽記  
 長嘯子あつまの道の記  
 歸家日記  
 東行話説  
 狂歌道中記  
 醉中雅興集  
 鶉衣  
 巴靜句集  
 俳諧初学抄  
 類題土朗斐翁句集  
 鶯ささく  
 皺箱物語  
 文草句集  
 枇杷園句集  
 沙鷗句集  
 白氏文集  
 南宗市肆記  
 朝野群載  
 惺窩文集  
 元々唱和集

春の曙の記  
 澤庵東関記  
 富士紀行  
 遠江紀行  
 名見屋日記  
 惣社参詣記  
 狂歌由縁墨  
 狂哥鳩杖集附録  
 芭蕉翁甲子紀行  
 木瓜つ  
 温故集  
 琴笛集  
 乾山紀行  
 曉莖句集  
 鳥りごり  
 枇杷園句集後編  
 蘿葉集  
 東坡詩集  
 廣東新語  
 新撰朗詠集  
 羅山文集  
 詞林意行集

打出の濱の記  
 庚子道ノ記  
 富士見道記  
 関東紀行  
 玉露叢  
 岐阜の道草  
 古今夷曲集  
 俳家奇人談  
 俳諧夢ノ蹤  
 七勝記  
 豎並集  
 五元集  
 冬のうち  
 幽蘭草  
 知多の菜  
 隨縁紀行  
 いそが  
 兩朝平壤録  
 嶺新餘録  
 江吏部集  
 東行雜詩  
 南郭文集

大江匡衡家集  
尾張八景詩  
赤水長崎紀行  
白湯集  
暢園詩草  
臥游園詩集  
江東吟稿  
再游紀行  
玉壺詩稿附錄  
新川集  
社盟詩載  
常照菴藥樹詩序  
西游紀行別錄  
卧雲日件錄  
尾陽雜記  
蓬列舊勝錄  
尾濃葉粟見聞集  
熟田町舊記  
衣浦千鳥集  
甲斐名勝志  
賤ノ小手卷  
尾陽年中行事略繪抄

春齋采末紀行  
防丘詩選  
頃菴集  
放鶴集  
暢園咏物詩  
養浩齋詩藁  
江府紀行  
再遊詩草  
晞髮偶詠  
周南文集  
謝菴遺稿  
知雨亭記  
尾張風土記殘法  
攝陽群談  
尾陽候記  
佳境遊覽  
尾張古城志  
厚覽草  
岐菴路ノ記  
國鎮記  
御廟道志ノ人  
諸国年中行事

日本名勝詩選  
兼穂錄  
謂北吟葉  
蓬尤詩歸  
嚶鳴館詩集  
撫塵集  
江尾往還蹤  
昨木統集  
禪餘偶詠  
自適園詩集  
清音樓詩集  
小山園記  
民部省圖帳殘決  
張列府志  
尾陽名勝志名勝志  
張列畧記  
參考尾張古城跡記  
厚覽草附錄  
尾張名所記  
清須志  
車蹟合考  
日本名藍圖

日本詩選  
弊帚集  
色園集  
牧山遺稿  
河深雅契  
厚齋遺稿  
鈞虛詩集  
西溟詩稿  
菱荷園文集  
自適園遺稿  
安政三六家絶句  
泥鵬堂文集  
雍州府志  
張列雜志  
張列名勝志名勝志  
張列志略  
熟田風土記  
古渡志  
諸国里人談  
友千鳥  
明曆板道中記  
日本国正統圖記

日本詩選續編  
麦浪詩集  
買山集  
東游草  
畫錦行  
昆玉集後編  
三世唱和  
玉壺詩稿  
金山稿  
寂室錄  
雜華集  
東海瓊華集  
新編鎌倉志  
信濃地名考  
尾列舊話略  
濃陽志畧  
熟田舊記  
知牙露見  
遊長湫記  
門真私記  
年中行事抄  
那古野古圖

東海道名所圖會  
山水奇觀  
梅園奇賞  
養蠶秘錄  
正事記  
續古事談  
群書一覽  
本朝怪談故吏  
雲根志  
雜々拾遺  
塩尻名白草隨筆  
柳菴隨筆  
常山記談  
百人一首夕話  
尾張田歌  
物類品隅  
本草啟蒙  
日本靈異記  
元亨釋書  
儀軌  
東国高僧傳  
述并記

紀伊国名所圖會  
北越聖譜  
好古小録  
骨董集  
古今著聞集  
堪叢抄  
統編書画覽  
安達盛長聞書  
茶道羊記  
尤ノ草子  
年山打間  
若有隨筆  
御加婢子  
御冥加普請記  
豐原統秋辨源抄  
謠曲拾葉抄  
本草正偽  
室物集  
佛祖統記  
弘法大師御入定勘決記與書  
真言古義  
熟田秘釈見聞抄

巖島圖會  
和漢三才圖會  
古今名物類聚  
百鬼夜行  
大著聞集  
塵添堪叢抄  
群書類從本三言抄與書  
近世叢話  
蝸牛菴記  
鼠齋記  
玉勝間  
拾葉羊記  
長恨歌傳  
一得松記  
文安田樂能記  
謠曲黒池竜神  
大和本草  
沙石集  
浄土血脈論  
延寶傳燈錄  
如意藏王陀羅尼經

山海名産圖會  
集古十種  
和漢茶入譜  
異境話式可誌  
年中行事故實考  
世諺問答  
統群書類從骨録  
八幡愚童訓  
菅家後集  
種菴菴說  
閑田次羊  
羈旅漫遊録  
古版長恨哥抄  
催馬樂古寫本  
古代手鞠唄  
謠曲揚貴妃  
用藥須知  
無住国師道跡考  
浄土日蓮宗論記  
穢跡金剛經  
扶來禪林僧室傳  
長明發心集

大山視聞圖會  
埋麴焚香  
皇朝名画拾彙  
蠅譜  
古事談  
仙傳拾遺  
鸚鵡菴中記  
大須摩三郎繪卷物  
辨玉集  
防眞考  
行餘隨筆  
蓑笠兩談  
一宵話  
即曲別紙追加曲  
熟田踏哥詩  
本草綱目  
靈蘭集  
無住国師雜談集  
三國傳記  
本朝高僧傳  
伽藍開基記  
地藏靈驗記

地藏感應傳 日域洞上傳 賢劫千佛名經真書 大應錄 理趣釋日決抄真書  
隨聞往生記 圓光大照禪師行狀 大念佛寺兩祖繪詞傳 七佛說神咒經 實相院門跡系譜  
大谷遺跡録 本願寺系圖 妙心寺六祖傳 覺源禪師略譜 山科連署記  
蓮如上人一代記聞書 關通和尚行業記 感應寺開山木牌記 開山行狀記 西方四十八願所録起  
甚目寺古文縁起 甚目寺古圖 天永寺文明縁起 笠寺古縁起 萬松寺古記録  
大御堂寺古縁起 福嚴寺舊記 福福寺々記 菅津正法寺縁起 性海寺縁起 常徳寺古縁起  
妙眞教恩寺記 島田地蔵縁起 浴地藏縁起 專修寺縁起 政秀寺々記 七ノ寺縁起  
蜂須賀蓮華寺縁起 大野廣葉師縁起 淨念寺古記 牛立村願興寺傳記 中村妙行寺記録  
大野廣葉師縁起 洞仙寺記録 熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏嘉祥元年国府官廳宜  
一宮地藏寺傳記 熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏嘉祥元年国府官廳宜 天福元年十月宜旨  
天平十八年東大寺古文書 熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏嘉祥元年国府官廳宜 同藏建武四年七月證狀  
熱田神官藏嘉祥三年官符 妙興寺藏嘉祥元年国府官廳宜 長亨二年成田時重寄進狀 妙興寺藏應永年寄進狀  
建久二年頼朝公寄進狀 正應四年託宣記 文和三年熱田神領注進狀 永和四年妙興寺寄進狀 妙興寺藏應永年寄進狀  
建武五年山崎賴朝公寄進狀 性海寺藏建武年證狀 熱田神宮祈年祭祝詞 曼陀羅寺古證文 地蔵院古證文  
天文三年大御堂寺勸進帳 尾張國諸社神領廳宜 大縣神社神領信長公證狀 如意寺過去帳  
妙興寺藏嘉祥二年沙弥賜覚讓狀 曼陀羅寺藏弘治三年十月賣券狀 長亨二年成田時重寄進狀 妙興寺藏應永年寄進狀  
龜井山圓福寺過去帳 上社村觀音寺過去帳 文安年中御番帳

總計 八百三十六部

六ノ六十九

日本武尊の神靈白鳥と化して宇都〜宇宮宮實媛公  
乃御許よりあり〜草薙の神劍を慕せたり〜天翔り〜  
其此處ニ来ぬ〜地ニ御陵平當り〜やりて白鳥に陵室の舞  
稱へ〜宮本紀小詳あり〜其い〜（あつ〜）おねを  
天保八年とふ〜姉といひ〜其分の風ニ〜こに年経ゆ  
大杉倒也と其陵墓或い〜海中ある石棺のち〜  
上代小を〜と思し〜或久た〜の器物出〜  
い〜其時其時の官より捉せ〜  
た〜小齋の五冬久納り〜は〜

有らむ事を恐るゝ事一に書しにふる事一を讀む事一を  
 卷首に画せし一に記しにふる事一を讀む事一を  
 心を起し終る事一に書しにふる事一を讀む事一を  
 おもひに書しにふる事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 書しにふる事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 一に書しにふる事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 此は道直の二人と相共ぶ事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 を記しにふる事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 記しにふる事一を讀む事一を記しにふる事一を

深田精一ぬらぬ事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 属しに四郡を板小彫らせ書しにふる事一を記しにふる事一を  
 草稿ありし事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 歸らぬ事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 此の事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 年あり遂に前の例一を讀む事一を記しにふる事一を  
 御代かき書しにふる事一を記しにふる事一を  
 月小日に録せし事一を讀む事一を記しにふる事一を  
 ありし事一を讀む事一を記しにふる事一を

ふも又名をとりも志は人稀にあふ年といはせ官とも  
 をしめたまふことありや有るをかく鄙ふりの書や母  
 いを愛せしむ友版の列ふおしたまふりし愛知あまの  
 はる人の行幸をも捨てたまふ心こころいふく一はこ  
 ろりてれま有るはかゝるまふまの高きを伴ふ其山を  
 の尾張れあふり長くしと古本をおもひあはれはら  
 本にぞ嘆かせて幾萬代も朽せ受あまの老の幸ひせま  
 あえ喜びの涙袂にあまのりいせ母母はあまのあまの  
 おもひのむう〜にあまのいせやく去ら〜こころの靈も

天ノ六十七段

明治四十三年九月十日再版印刷  
 明治四十三年九月十五日再版發行



編纂者 春江 小田切忠近 故  
 編纂者 文園 岡田 啓 故  
 編纂者 梅居 野口道直  
 發行兼印刷者 名古屋市西區玉屋町三丁目一番地 片野東四郎

發行所  
 發行所

名古屋市西區玉屋町三丁目  
 永東書籍店  
 振替口座東京一〇二七番  
 名古屋市南區熱田市場町  
 尚友堂書店  
 振替口座大阪一〇四九二番



